

平成 25 年度環境省委託業務

平成 25 年度環境研究総合推進費  
研究管理・検討委託業務  
報告書

平成 26 年 3 月

一般社団法人 国際環境研究協会



## 目 次

1. 事業の目的 .....	1
2. 業務の実施期間 .....	1
3. 業務の実施内容 .....	1
(1) POによる研究管理業務 .....	1
(2) 研究部会等の運営 .....	15
(3) 新規課題公募に関する支援業務 .....	21
(4) 継続課題の中間評価に関する支援業務 .....	27
(5) 終了課題の事後評価に関する支援業務 .....	28
(6) 平成24年度環境研究総合推進費の研究成果の取りまとめに関する業務 .....	31
(7) 一般国民向け成果発表会の運営 .....	31
(8) 平成25年度推進費パンフレット等の作成 .....	32
(9) 研究動向等の把握 .....	33
(10) 推進費の運営に係る改善提案 .....	34
4. その他 .....	35
資料1 業務日誌（月別） .....	37
資料2 継続課題（復興枠）中間報告会 .....	47
資料3 終了課題の成果報告会 .....	49
資料4 一般国民向け成果発表会 .....	53
資料5 学会等の参加報告書 .....	61



## 1. 事業の目的

競争的研究資金は、意欲ある研究者の優れた提案に基づいて実施される研究開発に対して資金を提供するもので、科学技術の推進において極めて重要な役割を担っている。総合科学技術会議では、競争的研究資金の各制度において、研究経歴を有する責任者としてプログラムオフィサー（以下「PO」という。）を配置し、科学技術の側面から責任を持ち得る実施体制を整備することを求めている。

環境省が実施する環境研究総合推進費（以下「推進費」という。）は、平成24年度に一般会計を財源とする従来の採択枠（以下「一般枠」という。）に加え、東日本大震災復興特別会計を財源とする採択枠（以下「復興枠」という。）の研究課題が開始され、複数のスキーム、領域・分野、採択枠等に応じた適切な研究管理を行うとともに、より効果的かつ効率的な運用を図っていく必要がある。

本事業は、推進費等において、豊富な研究経歴を有するPOを配置し、新規課題の採択、実施課題の管理、終了課題のフォローアップ、研究成果の広報等を支援する体制を整備するとともに、環境研究企画委員会の下に設置され研究課題の評価等を行う研究部会及び検討会（以下「研究部会等」という。）並びに成果報告会等の運営事務を行うことにより、推進費等の効果的かつ効率的な運営を目指すものである。

## 2. 業務の実施期間

平成25年5月14日（契約締結）～平成26年3月31日

## 3. 業務の実施内容

### （1）POによる研究管理業務

推進費の運営にあたり、研究部会のうち「全領域共通・領域横断部会」、「循環型社会部会」、「自然共生型社会部会」、「安全が確保される社会部会」については2名のPOを配置し、「脱温暖化社会部会」については1名を配置し、また、これらPOを総括する総括POを9名の中から選出し兼務配置とした。

総括POは、推進費に係わる環境省担当課室及びプログラムディレクター（以下「PD」という。）との連絡調整とPO業務の効率化・円滑化を図った。

研究部会別の担当POは以下のとおりである。

研究部会	研究部会の内容	担当PO （*総括）
全領域共通・ 領域横断	長期的な国家ビジョンの中でのあるべき社会（持続可能社会）に係る研究、複数領域に同時に寄与するWin-Win型の研究開発、複数領域間のトレードオフを解消する研究開発 等	福山 研二 松岡 正邦
脱温暖化社会	低炭素で気候変動に柔軟に対応するシナリオづくり、地球温暖化現象の解明と適応策に係る研究開発、低炭素化技術を社会実装するための最適パッケージ・システム化の評価・検討 等	笹野 泰弘
循環型社会	3R・適正処理の徹底、熱回収効率の高度化、レアメタル等の回収・リサイクルシステムの構築に係る研究開発 等	井上 雄三 安田 憲二
自然共生型 社会	生物多様性の確保、国土・水・自然資源の持続的な保全と利用に係る研究開発 等	小林 隆弘 志水 俊夫
安全が確保 される社会	化学物質等の未解明なリスク・脆弱性を考慮したリスクの評価・管理、健全な水・大気の循環に係る研究開発 等	幸田 清一郎* 野内 勇

なお業務実施にあたり、PO は委託費については環境研究総合推進費委託業務実施マニュアル（実施マニュアル）、補助金については環境研究総合推進費補助金交付要綱等を熟読し、各研究課題の詳細と研究費管理上の実務を理解するとともに、研究代表者等が読んで理解しやすい表現となるように文言の一部について改善提案も行った。

PO による研究管理業務の対象となった推進費研究課題は、表 1 及び表 2 に示す。

表 1 推進費研究管理実施対象課題数

	実施年度	戦略研究 プロジェクト 専門部会	全領域共通 ・領域横断 部会	脱温暖化 社会部会	循環型 社会部会	自然共生型 社会部会	安全が確保 される社会 部会	計	備考
戦略的研究開 発領域	21-25	2						2	H25終了
	22-26	1						1	
	23-27	1						1	中間評価
	24-28	1						1	
	25-27	1						1	H25新規
	計	6						6	
環境問題対応 型研究領域	22-25						1	1	H25終了
	23-25		8	3		7	13	31	H25終了
	24-25		4					4	H25終了
	24-26		2	5		2	4	13	中間評価
	25-26		1					1	H25新規
	25-27		3	4		4	7	18	H25新規
	【復】24-25		1			1	7	9	H25終了
	【復】24-26					2		2	中間評価
	計		19	12	16	33	80		
革新型研究開 発領域	24-25		1				2	3	H25終了
	24-26			1		2	3	6	中間評価
	25-25			1			1	2	H25新規・終了
	25-26		1	1		1		3	H25新規
	25-27			2		1	2	5	H25新規
	【復】24-25						2	2	H25終了
	計		2	5	4	10	21		
循環型社会形 成推進研究事 業(研究事業)	23-25				24			24	H25終了
	24-25				6			6	H25終了
	24-26				21			21	中間評価
	25-27				12			12	H25新規
	【復】24-25				8			8	H25終了
	【復】24-26				1			1	中間評価
	計				72			72	
次世代循環型 社会形成推進 技術基盤整備 事業(次世代 事業)	23-25				3			3	H25終了
	24-25				2			2	H25終了
	24-26				2			2	中間評価
	25-26				2			2	H25新規
	計				9			9	
合計		6	21	17	81	20	43	188	

表2 平成25年度推進費実施研究課題一覧

<戦略研究プロジェクト専門部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間	備考
戦略	S-6	アジア低炭素社会に向けた中長期的政策オプションの立案・予測・評価手法の開発とその普及に関する総合的研究	甲斐沼 美紀子	(独)国立環境研究所	H21 ~ H25	終了
	S-7	東アジアにおける広域大気汚染の解明と温暖化対策との共便益を考慮した大気環境管理の推進に関する総合的研究	秋元 肇	(一財)日本環境衛生センター	H21 ~ H25	終了
	S-8	温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究	三村 信男	茨城大学	H22 ~ H26	
	S-9	アジア規模での生物多様性観測・評価・予測に関する総合的研究	矢原 徹一	九州大学	H23 ~ H27	中間
	S-10	地球規模の気候変動リスク管理戦略の構築に関する総合的研究	江守 正多	(独)国立環境研究所	H24 ~ H28	
	S-11	持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究—地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト2015年開発・成長目標の制定と実現へ向けて—	蟹江 憲史	東京工業大学	H25 ~ H27	

<全領域共通・領域横断部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間	備考	
問題対応	1B-1103	養豚排水処理と多収(飼料)米生産の環境低負荷型コベネフィットシステムの構築	細見 正明	東京農工大学	H23 ~ H25	終了	
	1E-1101	アジア農村地域における伝統的生物生産方式を生かした気候・生態系変動に対するレジリエンス強化戦略の構築	武内 和彦	東京大学	H23 ~ H25	終了	
	1E-1103	持続可能な発展と生物多様性を実現するコミュニティ資源活用型システムの構築	矢坂 雅充	東京大学	H23 ~ H25	終了	
	1E-1104	気候変動に配慮したアジア環境先進型流域圏の構築と普及	沖 一雄	東京大学	H23 ~ H25	終了	
	1E-1105	低炭素社会を実現する街区群の設計と社会実装プロセス	加藤 博和	名古屋大学	H23 ~ H25	終了	
	1E-1106	アジア地域を含む低炭素型サプライチェーンの構築と制度化に関する研究	國部 克彦	神戸大学	H23 ~ H25	終了	
	1E-1202	街区型環境未来都市モデルの構築とそれに基づく都市政策提案	北詰 恵一	関西大学	H24 ~ H26	中間	
	1F-1101	気候変動対策と生物多様性保全の連携を目指した生態系サービス評価手法の開発	伊藤 昭彦	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了	
	1F-1102	製鋼スラグと浚渫土により造成した干潟・藻場生態系内の物質フローと生態系の評価	西嶋 涉	広島大学	H23 ~ H25	終了	
	1F-1201	再生可能エネルギー需給区連携による「もたせ型」分散エネルギー・システムの開発	小林 久	茨城大学	H24 ~ H26	中間	
	1-1301	環境負荷低減とコスト削減の両立を実現するLCA導入システムの開発	岡本 拓	広島県立総合技術研究所	H25 ~ H26		
	1-1302	プラットフォーム化を目指した日常行動に関わるLCAデータの整備と教材開発	栗栖(長谷川) 聖	東京大学	H25 ~ H27		
	1-1303	生態系サービスのシナジーとトレードオフ評価とローカルガバナンスの構築	齊藤 修	国際連合大学	H25 ~ H27		
	1-1304	「レジリエントシティ政策モデル」の開発とその実装化に関する研究	竹内 恒夫	名古屋大学	H25 ~ H27		
	1ZE-1202	技術・社会に対する価値観の変化とリスク受容性に関する調査研究	青柳 みどり	(独)国立環境研究所	H24 ~ H25	終了	
	1ZE-1203	汚染地域の実情を反映した効果的な除染に関するアクション・リサーチ	鈴木 浩	(財)地球環境戦略研究機関	H24 ~ H25	終了	
	1ZF-1201	東日本大震災を踏まえた電源構成の転換を実現するためのシナリオと方策に関する研究	吉田 好邦	東京大学	H24 ~ H25	終了	
	1ZF-1202	リテラシー向上を目指した市民の震災後の環境リスクの認知構造とその変化に関する研究	村山 留美子	神戸大学	H24 ~ H25	終了	
	革新型	1RFF-1201	赤潮発生時のデータ観測システムによる養殖業の漁業被害軽減に関する研究	芝田 浩	広島商船高等専門学校	H24 ~ H25	終了
		1RF-1301	日本およびアジアの鉄鋼産業の中長期的な低炭素化実現へ向けた研究	倉持 壮	(財)地球環境戦略研究機関	H25 ~ H26	
問題対応【復興枠】	1ZF-1203	マイクロ波による瓦礫中の有害物質迅速処理 -アスベスト飛散とダイオキシン発生防止-	篠原 真毅	京都大学	H24 ~ H25	終了	

<脱温暖化社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間	備考
問題対応	2A-1101	地球温暖化対策としてのブラックカーボン削減の有効性の評価	近藤 豊	東京大学	H23 ~ H25	終了
	2A-1102	「いぶき」観測データ解析により得られた温室効果ガス濃度の高精度化に関する研究	森野 勇	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	2A-1103	統合評価モデルを用いた世界の温暖化対策を考慮したわが国の温暖化政策の効果と影響	増井 利彦	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	2A-1201	CMIP5マルチモデルデータを用いたアジア域気候の将来変化予測に関する研究	高藪 縁	東京大学	H24 ~ H26	中間
	2A-1202	GOSATデータ等を用いた全球メタン発生領域の特性抽出と定量化	林田 佐智子	奈良女子大学	H24 ~ H26	中間
	2A-1203	海洋生物が受ける温暖化と海洋酸性化の複合影響の実験的研究	野尻 幸宏	(独)国立環境研究所	H24 ~ H26	中間
	2E-1201	気候変動問題に関する合意可能かつ実効性をもつ国際的枠組みに関する研究	亀山 康子	(独)国立環境研究所	H24 ~ H26	中間
	2E-1203	モンゴルの永久凍土地帯における脆弱性評価及び適応策の提言に関する研究	王 勤学	(独)国立環境研究所	H24 ~ H26	中間
	2-1301	コジネレーションネットワーク構築のためのCO2削減・経済性・政策シナリオ解析	近久 武美	北海道大学	H25 ~ H27	
	2-1302	再生可能エネルギー技術の価値評価と導入戦略のための基盤構築	本藤 祐樹	横浜国立大学	H25 ~ H27	
	2-1303	将来の温暖化条件下でのフロン対策強化によるオゾン層の脆弱性回避に関する研究	秋吉 英治	(独)国立環境研究所	H25 ~ H27	
	2-1304	温暖化予測に関わる北極域土壌圏の炭素収支の時空間変動	串田 圭司	日本大学	H25 ~ H27	

革新型	2RFa-1201	衛星データを複合利用したモデルデータ融合による陸域炭素循環モデルの高精度化	市井 和仁	福島大学	H24 ~ H26	中間
	2RF-1301	バイオマスモニタリングのための現地サンプリング手法の開発	加藤 顕	千葉大学	H25 ~ H26	
	2RF-1302	温室効果ガスおよび短寿命気候因子(SLCP)緩和策が引き起こす環境影響の能動的評価	中島 映至	東京大学	H25 ~ H25	終了
	2RF-1303	低炭素と経済活性化を両立する生活・行動様式と地域環境デザイン方策の提案	平野 勇二郎	(独)国立環境研究所	H25 ~ H27	
	2RF-1304	水蒸気量変動の気候変化に関する研究	藤田 実季子	(独)海洋研究開発機構	H25 ~ H27	

<循環型社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間	備考
次世代事業	3J113003	アスベスト含有建材対応型建設系廃棄物選別システムの開発	柳原 好孝	東急建設株	H23 ~ H25	終了
	3J113005	黒液の利活用によるリグニンを原料とした炭素微粒子に関する研究	岡村 徹也	大王製紙株	H23 ~ H25	終了
	3J113007	未利用バイオマス由来ナノファイバーとFRP廃材を利用した複合材及びスモールバッチ生産システムの開発に関する研究	牧瀬 理恵	ヤマハリビングテック株	H23 ~ H25	終了
	3J122001	新燃焼方式を採用した高性能・低コスト型ストーカ炉の開発	中山 剛	JFEエンジニアリング株	H24 ~ H25	終了
	3J123002	ソフト水熱プロセスによる廃きのこ培地再生処理技術の開発に関する研究	宮本 徹	榊前田製作所	H24 ~ H26	中間
	3J123003	廃液晶ガラス・廃自動車ガラス等の高度再資源化システムの研究開発	柳田 啓之	株式会社スクエア	H24 ~ H26	中間
	3J122004	浄水発生土(天日ケーキ)の園芸資材へのリサイクル技術に関する研究	仲原 龍吾	岡山市水道局	H24 ~ H25	終了
研究事業	3J132001	廃棄物ガス化発電技術の高効率化の実証	田頭 成能	榊鋼環境ソリューション	H25 ~ H26	
	3J132002	無電解ニッケルめっき廃液のリサイクルシステム構築	溝上 利文	コーア株	H25 ~ H26	
	3K113001	水銀など有害金属の循環利用における適正管理に関する研究	高岡 昌輝	京都大学	H23 ~ H25	終了
	3K113002	アジア都市における日本の技術・政策を活用する資源循環システムの設計手法	藤田 壮	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	3K113004	東アジア標準化に向けた廃棄物・副産物の環境安全品質管理手法の確立	肴倉 宏史	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	3K113006	固体酸触媒を用いた様々な草木質系バイオマス廃棄物に対応できる糖化システムの構築	銭衛華	東京農工大学	H23 ~ H25	終了
	3K113008	難循環ガラス素材廃製品の適正処理に関する研究	吉岡 敏明	東北大学	H23 ~ H25	終了
	3K113009	最終処分場機能の健全性の検査手法と回復技術に関する研究	遠藤 和人	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	3K113010	静脈産業のアジア地域への移転戦略の構築に関する研究	山田 正人	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	3K113011	有害危険な製品・部材の安全で効果的な回収・リサイクルシステムの構築	寺園 淳	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	3K113012	電池の循環・廃棄システムに向けた環境負荷解析及び政策比較研究	浅利 美鈴	京都大学	H23 ~ H25	終了
	3K113015	中間処理残さ主体埋立地に対応した安定化促進技術の開発	東條 安匡	北海道大学	H23 ~ H25	終了
	3K113016	バイオマス・二酸化炭素を原料としたソーラー燃料・化成品変換システムの構築に関する研究	天尾 豊	大阪市立大学	H23 ~ H25	終了
	3K113017	産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討	谷川 昇	(財)日本産業廃棄物処理振興センター	H23 ~ H25	終了
	3K113018	磁性ナノ球状カプセル酵素と酵母によるバイオエタノールの製造および相溶化処理した生分解性複合材料の創製	邱 健輝	秋田県立大学	H23 ~ H25	終了
	3K113019	農産廃棄物カスケード型循環利用バイオエタノール製造システムに関する研究	北口 敏弘	(地独)北海道立総合研究機構	H23 ~ H25	終了
	3K113021	3Rに係る自治体施策・行動変容プログラムの政策効果分析	松井 康弘	岡山大学	H23 ~ H25	終了
	3K113022	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究	川崎 幹生	埼玉県環境科学国際センター	H23 ~ H25	終了
	3K113023	家庭系有害廃棄物(HHW)の現状把握と回収システム構築のための研究	松藤 敏彦	北海道大学	H23 ~ H25	終了
	3K113024	アスベスト含有建材の選別手法確立と再生砕石の安全性評価に関する研究	渡辺 洋一	埼玉県環境科学国際センター	H23 ~ H25	終了
	3K113025	有機ハロゲン化合物の熱化学的破壊の可視化・最適化	渡邊 信久	大阪工業大学	H23 ~ H25	終了
	3K113026	資源性廃棄物の不適切分別を招く心理要因の構造化と分別改善手法の提言	高橋 史武	東京工業大学	H23 ~ H25	終了
	3K113027	アジアの都市廃棄物管理の発展に応じた埋立地浸出水対策の適正な技術移転に関する検討	石垣 智基	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	3K113029	硫化処理した廃棄物系バイオマスを利用しためっき廃液からの高選択的レアメタル分離回収技術の開発	和嶋 隆昌	千葉大学	H23 ~ H25	終了
	3K113030	日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス利活用による3R定着に関する研究	田中 勝	鳥取環境大学	H23 ~ H25	終了
	3K113032	廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案	三宅 祐一	静岡県立大学	H23 ~ H25	終了
	3K123001	使用済み自動車(ELV)の資源ポテンシャルと環境負荷に関するシステム分析に関する研究	酒井 伸一	京都大学	H24 ~ H26	中間
	3K123002	静脈産業の新興国展開に向けたリサイクルシステムの開発とその普及に係る総合的研究	細田 衛士	慶應義塾大学	H24 ~ H26	中間
	3K123003	繊維強化プラスチック材の100%乾式法による完全分解と強化繊維の回収・リサイクル技術	水口 仁	信州大学	H24 ~ H26	中間
	3K123004	地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化／多段階触媒変換プロセスの開発に関する研究	川本 克也	岡山大学	H24 ~ H26	中間
	3K123005	破砕・凝結プロセスを伴う生物スラッジの超高温圧搾脱水法の開発	入谷 英司	名古屋大学	H24 ~ H26	中間
	3K123006	起泡クロマトによるGaの選択回収プロセスの確立とレアメタル回収への展開	二井 晋	名古屋大学	H24 ~ H26	中間
	3K123007	微生物によるバイオディーゼルの廃グリセロールからの燃料生産	中島 敏明	筑波大学	H24 ~ H26	中間
	3K123008	微生物を利用した地域バイオマスキノコ廃菌床からの化学工業原料生産システムの開発	高久 洋暁	新潟薬科大学	H24 ~ H26	中間



研究事業	3K123009	ハロモナス菌による木材から3-ヒドロキシ酪酸等の生産技術開発に関する研究	河田 悦和	(独)産業技術総合研究所	H24 ~ H26	中間
	3K123010	廃有機溶剤の効率的再生処理技術の実用化	田中 茂	慶應義塾大学	H24 ~ H26	中間
	3K123011	伝熱管表面改質技術による廃棄物焼却炉発電効率の革新的向上	成瀬 一郎	名古屋大学	H24 ~ H26	中間
	3K122012	電気二重層イオン除去による焼却灰洗浄廃水の高度処理技術の開発	吉原 福全	立命館大学	H24 ~ H25	終了
	3K122013	使用済み一次乾電池のマテリアルリサイクル	重松 幹二	福岡大学	H24 ~ H25	終了
	3K122014	好熱菌の油脂分解酵素の特性解明と廃食用油を添加した好気性発酵システムへの応用	伏信 進矢	東京大学	H24 ~ H25	終了
	3K123015	スラッジ再生セメントと産業副産物混和材を併用したクリンカーフリーコンクリートによる鉄筋コンクリート部材の開発研究	閑田 徹志	鹿島建設㈱	H24 ~ H26	中間
	3K123016	炭素同位体分析による化石由来二酸化炭素排出量の高精度推定手法の開発と適用	平井 康宏	京都大学	H24 ~ H26	中間
	3K122017	エタノール発酵系状菌を活用した製紙廃棄物からの効率的バイオエタノール製造法の開発	星野 一宏	富山大学	H24 ~ H25	終了
	3K123018	湿式分離とイオン液体電析を融合した省エネルギー型レアアース回収技術の開発	松宮 正彦	横浜国立大学	H24 ~ H26	中間
	3K123019	乾式試金法を基にして鉛ガラスを媒介とした廃棄物からの各種金属の回収方法	稲野 浩行	(地独)北海道立総合研究機構	H24 ~ H26	中間
	3K123020	擬似酵素型光触媒システムによるプラスチック混合廃棄物の易分解および部分生分解化	中谷 久之	北見工業大学	H24 ~ H26	中間
	3K123021	し尿汚泥等の焼却灰からのリン回収技術の開発研究	中村 洋祐	愛媛県立衛生環境研究所	H24 ~ H26	中間
	3K123022	ホスト分子による希少金属オンサイト分離のためのマイクロリアクターシステムの構築に関する研究	大渡 啓介	佐賀大学	H24 ~ H26	中間
	3K123023	廃棄物材の次世代電池材料へのゼロエミッション利用技術の開発	衣本 太郎	大分大学	H24 ~ H26	中間
	3K122024	国際的な資源依存構造に着目したレアメタルに関する3R効果評価手法の開発	南齋 規介	(独)国立環境研究所	H24 ~ H25	終了
	3K123025	水熱処理技術を活用した新規下水処理システムに関する研究	小林 信介	岐阜大学	H24 ~ H26	中間
	3K123026	ネオジム磁石廃材からの非加熱式全元素回収プロセスの開発	笹井 亮	島根大学	H24 ~ H26	中間
	3K122107	防災・減災を志向した分散型浄化槽システムの構築に関する研究	蛭江 美孝	(独)国立環境研究所	H24 ~ H25	終了
	3K133001	製品に含まれる化成品及び不純物に由来する有害廃棄物対策と循環方策構築に向けた研究	滝上 英孝	(独)国立環境研究所	H25 ~ H27	
	3K133002	水素を利用したチタン合金切削屑の高効率再資源化技術の実用化研究	近藤 勝義	大阪大学	H25 ~ H27	
	3K133003	災害廃棄物分別土砂・篩下残渣の物性評価と、戦略的有効利用に向けた基準化	勝見 武	京都大学	H25 ~ H27	
	3K133004	バイオリクターによる廃二次電池溶解処理液からのMn,Ni,Co同時回収	大橋 晶良	広島大学	H25 ~ H27	
	3K133005	溶媒抽出技術を基盤とする電子機器廃パネルからの環境保全型レアメタル循環システムの構築	馬場 由成	宮崎大学	H25 ~ H27	
	3K133006	臭化銅溶媒系を用いた使用済み電子機器からの貴金属・レアメタル回収システムの開発	松野 泰也	東京大学	H25 ~ H27	
	3K133007	焼却排ガス処理薬剤や飛灰処理キレートが埋立管理に与える影響と対策研究	樋口 壮太郎	福岡大学	H25 ~ H27	
	3K133008	光エネルギーを利用した廃液からの触媒的貴金属分離・回収技術の開発	木田 徹也	熊本大学	H25 ~ H27	
	3K133009	廃電気電子機器中の難燃剤の環境挙動予測評価による適正管理技術の確立に関する研究	羽成 修康	(独)産業技術総合研究所	H25 ~ H27	
	3K133010	生物検定法による塩素化／臭素化ダイオキシン類測定評価法の確立と高度利用に関する研究	鈴木 剛	(独)国立環境研究所	H25 ~ H27	
	3K133011	プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究	山脇 敦	(財)産業廃棄物処理事業振興財団	H25 ~ H27	
	3K133012	微生物及び粉砕・選鉱プロセスを導入した廃電子基板等からの有用金属回収システムの構築	宮田 直幸	秋田県立大学	H25 ~ H27	
	研究事業【復興枠】	3K122101	光触媒コーティング無電極ランプによる被災地の汚染水浄化装置の開発	堀越 智	上智大学	H24 ~ H25
3K122102		放射性セシウムを含有する焼却残渣の性状把握と効率的かつ安全な処分技術	島岡 隆行	九州大学	H24 ~ H25	終了
3K122103		放射能汚染廃棄物処理施設の長期管理手法に関する研究	大迫 政浩	(独)国立環境研究所	H24 ~ H25	終了
3K122104		津波堆積物を用いた放射線汚染掘削土壌被覆のための高機能性覆土材の開発	高橋 弘	東北大学	H24 ~ H25	終了
3K122105		半導体コンプトンカメラ技術を用いた放射性汚染物のイメージング分析技術の開発	本村 信治	(独)理化学研究所	H24 ~ H25	終了
3K122106		焼却・溶融処理を用いた放射能汚染土壌・廃棄物の放射能分離・減容・固定化技術の確立	米田 稔	京都大学	H24 ~ H25	終了
3K123108		災害廃棄物の処理における石綿の適正管理に関する研究	山本 貴士	(独)国立環境研究所	H24 ~ H26	中間
3K122109		放射能で汚染された廃棄物を対象とした海面最終処分場に関する研究	土田 孝	広島大学	H24 ~ H25	終了
3K122110		東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究	松村 治夫	鳥取環境大学	H24 ~ H25	終了

<自然共生型社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間	備考
問題対応	4D-1101	外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発	五箇 公一	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了
	4D-1102	生物多様性の機能評価のための安定同位体指標に関する研究	陀安 一郎	京都大学	H23 ~ H25	終了
	4D-1103	支洞洞窟国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発	吉田 剛司	酪農学園大学	H23 ~ H25	終了
	4D-1104	天草・島原沿岸の地域連携型保全に向けた干潟ベントス群集とその生態系機能に関する研究	玉置 昭夫	長崎大学	H23 ~ H25	終了
	4D-1105	北東アジアの乾燥地生態系における生物多様性と遊牧の持続性についての研究	吉川 賢	岡山大学	H23 ~ H25	終了
	4D-1106	三宅島2000年噴火後の生態系回復過程の解明と管理再生に関する研究	加藤 和弘	東京大学	H23 ~ H25	終了

問題対応	4D-1201	シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全ー北海道とロシア極東との比較	中村 太士	北海道大学	H24 ~ H26	中間
	4D-1202	国際河川メコン川のダム開発と環境保全ーダム貯水池の生態系サービスの評価	福島 路生	(独)国立環境研究所	H24 ~ H26	中間
	4E-1102	藻場の資源供給サービスの定量・経済評価と時空間変動解析による沿岸管理方策の提案	小路 淳	広島大学	H23 ~ H25	終了
	4-1301	親潮沿岸域のゼニガタザラシと沿岸漁業の共存に向けた保護管理手法の開発	桜井 泰憲	北海道大学	H25 ~ H27	
	4-1302	再導入による希少鳥類の保全手法の確立に関する研究	永田 尚志	新潟大学	H25 ~ H27	
	4-1303	農業による水田生物多様性影響の総合的評価手法の開発	林 岳彦	(独)国立環境研究所	H25 ~ H27	
	4-1304	島嶼ーサンゴ礁ー外洋統合ネットワーク系動態解明に基づく石西礁湖自然再生への貢献	澁岡 和夫	東京工業大学	H25 ~ H27	
革新型	4RFd-1201	希少種の人為的導入による、在来種への交雑を介した遺伝子浸透ー愛媛県タナゴ類の事例	畑 啓生	愛媛大学	H24 ~ H26	中間
	4RFd-1202	在来マハナバチによる環境調和型ポリネーション様式の確立に関する研究	高橋 純一	京都産業大学	H24 ~ H26	中間
	4RF-1301	阿蘇を構成する植生の蒸発散の比較研究:草原の維持は水資源涵養に寄与するか?	宮沢 良行	九州大学	H25 ~ H26	
	4RF-1302	環境DNA技術を用いた生物分布モニタリング手法の確立	土居 秀幸	広島大学	H25 ~ H27	
問題対応【復興枠】	4ZD-1201	沿岸生態系における放射性物質の拡散過程の解明	荒川 久幸	東京海洋大学	H24 ~ H26	中間
	4ZD-1202	上流域水系ネットワークにおける森林ー溪流生態系の放射性物質移動と生物濃縮の評価	五味 高志	東京農工大学	H24 ~ H26	中間
	4ZD-1203	湧水がもたらす生態系の頑強性と脆弱性の解明:震災後の生態系復元に向けて	森 誠一	岐阜経済大学	H24 ~ H25	終了

<安全が確保される社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間	備考	
問題対応	5S2-12	環境化学物質による発達期の神経系ならびに免疫系への影響におけるメカニズムの解明	伏木 信次	京都府立医科大学	H22 ~ H25	終了	
	5B-1101	全国環境研究機関の有機連携によるPM2.5汚染の実態解明と発生源寄与評価	菅田 誠治	(独)国立環境研究所	H23 ~ H25	終了	
	5B-1102	湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価	一瀬 諭	滋賀県琵琶湖環境科学センター	H23 ~ H25	終了	
	5B-1104	農業取締法における水質汚濁に係る農業の登録保留基準見直しのための根拠データの取得	高梨 啓和	鹿児島大学	H23 ~ H25	終了	
	5B-1105	葉のオゾン吸収量に基づいた樹木に対するオゾンの影響評価に関する研究	伊豆田 猛	東京農工大学	H23 ~ H25	終了	
	5B-1106	残留性有機フッ素化合物群の全球動態解明のための海洋化学的研究	浦生 俊敬	東京大学	H23 ~ H25	終了	
	5B-1107	自然由来土壌汚染をもたらす重金属類の環境中での形態変化の解明	井上 千弘	東北大学	H23 ~ H25	終了	
	5B-1201	1,4-ジオキサン汚染地下水の生物浄化可能性の評価診断ツールの開発と浄化戦略の実証	池 道彦	大阪大学	H24 ~ H26	中間	
	5B-1202	PM2.5規制に影響する汚染混合型黄砂の組成的特徴と飛来量/降下量に関する研究	杉本 伸夫	(独)国立環境研究所	H24 ~ H26	中間	
	5C-1101	解体現場のアスベストリスクに対応する特異的バイオプローブの創成と迅速検出への応用	黒田 章夫	広島大学	H23 ~ H25	終了	
	5C-1102	適切なリスク管理対策の選択を可能にする農業の定量的リスク評価法の開発	稲生 圭哉	(独)農業環境技術研究所	H23 ~ H25	終了	
	5C-1151	可塑性・難燃剤の曝露評価手法の開発と小児アレルギー・リスク評価への応用	岸 玲子	北海道大学	H23 ~ H25	終了	
	5C-1152	戸外活動時間を考慮に入れた、土壌性ダスト(黄砂)による呼吸器/アレルギー疾患リスクの定量的評価	中山 健夫	京都大学	H23 ~ H25	終了	
	5C-1153	母親と新生児を対象とする化学物質曝露のリスクと魚介類摂取のベネフィットの比較研究	八重樫 伸生	東北大学	H23 ~ H25	終了	
	5C-1154	黄砂のヒト健康への影響に対する臨床および基礎研究の融合アプローチ	渡部 仁成	鳥取大学	H23 ~ H25	終了	
	5C-1155	黄砂エアロゾル及び付着微生物・化学物質の生体影響とそのメカニズム解明に関する研究	市瀬 孝道	大分県立看護科学大学	H23 ~ H25	終了	
	5C-1251	ダイオキシン類曝露による経世代健康影響と遺伝的感受性要因との関連に関する研究	和氣 徳夫	九州大学	H24 ~ H26	中間	
	5C-1252	妊娠中及び胎児期における内分泌攪乱物質が性分化および性腺機能に及ぼす影響について	野々村 克也	北海道大学	H24 ~ H26	中間	
	5-1301	光化学オキシダント生成に関わる未計測VOCの探索	梶井 克純	京都大学	H25 ~ H27		
	5-1302	適切な農業の後作物残留リスク評価に基づく実効的な管理技術の開発	清家 伸康	(独)農業環境技術研究所	H25 ~ H27		
	5-1303	日本型農業環境条件における土壌くん蒸剤のリスク削減と管理技術の開発	小原 裕三	(独)農業環境技術研究所	H25 ~ H27		
	5-1304	湖沼のブラックボックス負荷「底泥溶出」の定量評価に関する研究	今井 章雄	(独)国立環境研究所	H25 ~ H27		
	5-1305	母児POP暴露量の質問票及び遺伝要因からの推定に関する研究	森 千里	千葉大学	H25 ~ H27		
	5-1306	日本海及び周辺域の大気・海洋における有機汚染物質の潜在的脅威に関する研究	早川 和一	金沢大学	H25 ~ H27		
	5-1307	風力発電等による低周波音・騒音の長期健康影響に関する疫学研究	石竹 達也	久留米大学	H25 ~ H27		
	革新型	5RFb-1201	マグネシウム化合物を吸着剤として利用するほう素、ふっ素の処理技術の開発	亀田 知人	東北大学	H24 ~ H26	中間
		5RFb-1202	低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明	堀井 勇一	埼玉環境科学国際センター	H24 ~ H26	中間
		5RFb-1203	河口域における残留性有機汚染物質の循環とそれが沿岸生態系に与える影響の定量的評価	小林 淳	熊本県立大学	H24 ~ H26	中間
		5RFc-1201	簡単な試料前処理のみで実施できるダイオキシンの土壌汚染バイオアッセイキットの開発	川西 優喜	大阪府立大学	H24 ~ H25	終了
		5RFc-1202	チャンパー法によるナノ製品の曝露評価	松井 康人	京都大学	H24 ~ H25	終了
		5RF-1301	持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発	柳 哲雄	九州大学	H25 ~ H25	終了
		5RF-1302	環境ナノ粒子を介した有機汚染物質の人体曝露に関する研究	鳥羽 陽	金沢大学	H25 ~ H27	
		5RF-1303	水銀汚染土壌および底質中のメチル水銀の簡易・迅速・高感度な分析システムの開発	児玉谷 仁	鹿児島大学	H25 ~ H26	

問題対応 【復興枠】	5ZB-1201	群馬県に降下した放射性セシウムの動態解析と将来予測	角田 欣一	群馬大学	H24 ~ H25	終了
	5ZB-1202	福島原発近隣における里山生態系を含めた除染効果の評価と住民の中期曝露評価	小泉 昭夫	京都大学	H24 ~ H25	終了
	5ZB-1203	担体固定化吸着剤を用いた環境中からの小規模分散型セシウム回収プロセスの実用化	迫田 章義	東京大学	H24 ~ H25	終了
	5ZB-1204	空気揚土攪拌式洗浄装置を用いた放射性セシウム汚染土壌の減容化方法の開発	西嶋 茂宏	大阪大学	H24 ~ H25	終了
	5ZB-1205	放射能汚染土壌の飛散防止・洗浄・固化を行う生物処理実用システムの開発	片山 新太	名古屋大学	H24 ~ H25	終了
	5ZB-1206	放射能汚染土壌の除染実用化技術の開発	逸見 彰男	愛媛大学	H24 ~ H25	終了
	5ZC-1201	水系感染微生物による水環境汚染への指標生物管理の有効性と消毒技術の検討	田中 宏明	京都大学	H24 ~ H25	終了
	5Z-1301	セシウムの動態解析に基づく除染シナリオの構築と磁気力制御型除染法の開発	秋山 庸子	大阪大学	H25 ~ H26	
革新型 【復興枠】	5ZRFb-1201	東日本大震災に伴う放射能および化学物質汚染の将来予測と次災害試料アーカイブの整備	上野 大介	佐賀大学	H24 ~ H25	終了
	5ZRFc-1201	震災時に放出された化学物質の東北沖魚介類生態系における生物濃縮と毒性リスク評価	磯部 友彦	愛媛大学	H24 ~ H25	終了

PO は推進費による研究課題の管理等にあたり、以下の①～⑭の業務を実施した。資料 1 に平成 25 年度業務日誌（月別）を示す。

### ① 平成 25 年度研究課題の内容の確認

平成 25 年度実施研究課題について、各研究代表者が作成した資料等の研究計画と実際に行っている研究内容との齟齬がないか、研究者が開催するアドバイザーボード会合への参加及び現地調査の実施等により点検・確認を行った。

### ② アドバイザーボード会合の進捗管理

委託費による研究課題については、アドバイザーについて研究代表者に連絡し、継続課題については継続承諾あるいは変更を、新規課題については選任を、速やかに行うように指示した。

アドバイザーボード会合については、実施マニュアルに沿って早めに開催の日程調整を行うよう指示した（その際、年度末を避け、可能な限り 1 月末、遅くとも 2 月までに開催するよう要請した）。また、その他リーダー・班会議、成果発表会、シンポジウム等を開催する場合は PO へ情報提供することを要請するとともに、環境省担当者との開催情報の共有化を図った。

アドバイザーボード会合では、研究課題の進捗状況及びアドバイザー等のコメントを把握し、環境行政への貢献や推進上の問題点があれば指摘するとともに、解決への助言を行った。会合終了後は、年度計画がきちんと遂行されていたかを確認するとともに、推進上の問題点がなかったかどうか、特に行政推薦課題については推薦内容と研究実施の間の乖離に関しても注意を払い、研究進捗管理チェックリストに取りまとめて、環境省に報告した。

作成した研究進捗管理チェックリスト及びアドバイザーボード会合報告書は、ポータルサイトの共有ファイルに載せ、環境省及び PO 間での情報の共有化を図った。

### ③ 現地調査の実施

循環型社会部会の研究課題については、事業実施状況の把握と情報収集のため、現地調査を実施した。調査の結果は、現地調査報告書として取りまとめ、ポータルサイトの共有ファイルに載せ、情報の共有化を図った。

平成 25 年度に開催されたアドバイザーボード会合及び現地調査の実績を表 3 に示す。

表3 アドバイザリーボード会合及び現地調査実績

<戦略研究プロジェクト専門部会>

課題番号	課題名	研究代表者	開催日	開催場所
S-6	アジア低炭素社会に向けた中長期的政策オプションの立案・予測・評価手法の開発とその普及に関する総合的研究	甲斐沼 美紀子	2月3日(月)	京都大学東京オフィス(港区)
S-7	東アジアにおける広域大気汚染の解明と温暖化対策との共便益を考慮した大気環境管理の推進に関する総合的研究	秋元 肇	4月22日(月) ~23日(火)	(独)海洋研究開発機構横浜研究所(横浜)
			2月24日(火) ~25日(水)	石川県政記念しいのき迎賓館(金沢)
S-8	温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究	三村 信男	11月6日(水) <拡大AD会合>	航空会館(港区)
S-9	アジア規模での生物多様性観測・評価・予測に関する総合的研究	矢原 徹一	1月11日(土)	東京大学(文京区)
S-10	地球規模の気候変動リスク管理戦略の構築に関する総合的研究	江守 正多	11月1日(金) <拡大AD会合>	航空会館(港区)
S-11	持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究-地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト2015年開発・成長目標の制定と実現へ向けて-	蟹江 憲史	7月25日(木) ~27日(土)	パシフィック横浜(横浜)
			1月16日(木)	東京工業大学日町キャンパス(港区)

<全領域共通・領域横断部会>

課題番号	課題名	研究代表者	開催日	開催場所
1B-1103	養豚排水処理と多収(飼料)米生産の環境低負荷型コベネフィットシステムの構築	細見 正明	7月5日(金)	東京農工大学(小金井)
1E-1101	アジア農村地域における伝統的生物生産方式を生かした気候・生態系変動に対するレジリエンス強化戦略の構築	武内 和彦	10月21日(月)	東京大学(文京区)
			2月14日(金)	国際連合大学(渋谷区)
1E-1103	持続可能な発展と生物多様性を実現するコミュニティ資源活用型システムの構築	矢坂 雅充	2月3日(月)	東京大学駒場キャンパス(目黒区)
1E-1104	気候変動に配慮したアジア環境先進型流域圏の構築と普及	沖 一雄	12月10日(火)	東京大学生産技術研究所(目黒区)
1E-1105	低炭素社会を実現する街区群の設計と社会実装プロセス	加藤 博和	11月21日(木)	名古屋大学(名古屋)
1E-1106	アジア地域を含む低炭素型サプライチェーンの構築と制度化に関する研究	國部 克彦	11月8日(金)	関西大学東京センター(千代田区)
1E-1202	街区型環境未来都市モデルの構築とそれに基づく都市政策提案	北詰 恵一	3月11日(火)	関西大学千里山キャンパス(吹田)
1F-1101	気候変動対策と生物多様性保全の連携を目指した生態系サービス評価手法の開発	伊藤 昭彦	11月11日(月)	㈱三菱総合研究所(千代田区)
1F-1102	製鋼スラグと浸漬土により造成した干潟・藻場生態系内の物質フローと生態系の評価	西嶋 渉	6月4日(火)	広島大学東京オフィス(港区)
1F-1201	再生可能エネルギー需給区連携による『もたせ型』分散エネルギーシステムの開発	小林 久	7月3日(水)	協同総合研究所(豊島区)
			12月3日(火)	協同総合研究所(豊島区)
1-1301	環境負荷低減とコスト削減の両立を実現するLCA導入システムの開発	岡本 拓	12月17日(火)	広島県立総合技術研究所保健環境センター(広島)
1-1302	プラットフォーム化を目指した日常行動に関わるLCAデータの整備と教材開発	栗栖(長谷川) 聖	11月26日(火)	東京大学(文京区)
1-1303	生態系サービスのシナジーとトレードオフ評価とローカルガバナンスの構築	齊藤 修	8月19日(月)	京都大学(京都)
			3月3日(月)	石川県政記念しいのき迎賓館(金沢)
1-1304	「レジリエントシティ政策モデル」の開発とその実装化に関する研究	竹内 恒夫	8月2日(金)	法政大学(千代田区)
1ZE-1202	技術・社会に対する価値観の変化とリスク受容性に関する調査研究	青柳 みどり	9月9日(月)	丸ビルコンファレンススクエア(千代田区)
1ZE-1203	汚染地域の実情を反映した効果的な除染に関するアクション・リサーチ	鈴木 浩	12月12日(木)	TKP虎ノ門会議室(港区)
1ZF-1201	東日本大震災を踏まえた電源構成の転換を実現するためのシナリオと方策に関する研究	吉田 好邦	9月2日(月)	東京大学(文京区)
1ZF-1202	リテラシー向上を目指した市民の震災後の環境リスクの認知構造とその変化に関する研究	村山 留美子	9月6日(金)	京都大学(京都)
1RFF-1201	赤潮発生時のデータ観測システムによる養殖業の漁業被害軽減に関する研究	芝田 浩	1月21日(火)	広島商船高等専門学校(広島県大崎上島町)
1RF-1301	日本およびアジアの鉄鋼産業の中長期的な低炭素化実現に向けた研究	倉持 壮	1月10日(金)	日比谷図書館(千代田区)
1ZF-1203	マイクロ波による瓦礫中の有害物質迅速処理 -アスベスト飛散とダイオキシン発生防止-	篠原 真毅	7月5日(金)	上智大学(千代田区)

<脱温暖化社会部会>

課題番号	課題名	研究代表者	開催日	開催場所
2A-1101	地球温暖化対策としてのブラックカーボン削減の有効性の評価	近藤 豊	8月9日(金)	東京大学(文京区)
2A-1102	「いぶき」観測データ解析により得られた温室効果ガス濃度の高精度化に関する研究	森野 勇	2月5日(水)	TKP新橋ビジネスセンター(港区)
2A-1103	統合評価モデルを用いた世界の温暖化対策を考慮したわが国の温暖化政策の効果と影響	増井 利彦	9月30日(月)	デスカット東京日本ビル店(千代田区)
2A-1201	CMIP5マルチモデルデータを用いたアジア域気候の将来変化予測に関する研究	高敷 緑	9月9日(月)	(独)海洋研究開発機構東京事務所(千代田区)
2A-1202	GOSATデータ等を用いた全球メタン発生領域の特性抽出と定量化	林田 佐智子	10月28日(月)	奈良女子大学(奈良)
2A-1203	海洋生物が受ける温暖化と海洋酸性化の複合影響の実験的研究	野尻 幸宏	1月22日(水)	デスカット品川港南口店(港区)

2E-1201	気候変動問題に関する合意可能かつ実効性をもつ国際的枠組みに関する研究	亀山 康子	7月25日(木)	デスカット東京日本ビル店(千代田区)
2E-1203	モンゴルの永久凍土地帯における脆弱性評価及び適応策の提言に関する研究	王 勤学	7月26日(金)	慶應義塾大学(港区)
2-1301	コジネレーションネットワーク構築のためのCO2削減・経済性・政策シナリオ解析	近久 武美	1月17日(金)	北海道大学(札幌)
2-1302	再生可能エネルギー技術の価値評価と導入戦略のための基盤構築	本藤 祐樹	8月19日(月)	横浜国立大学(横浜)
2-1303	将来の温暖化条件下でのフロン対策強化によるオゾン層の脆弱性回避に関する研究	秋吉 英治	11月14日(木)	デスカット東京日本ビル店(千代田区)
2-1304	温暖化予測に関わる北極域土壌圏の炭素収支の時空間変動	串田 圭司	2月28日(金)	国立極地研究所(立川)
2RFa-1201	衛星データを複合利用したモデルデータ融合による陸域炭素循環モデルの高精度化	市井 和仁	1月21日(火)	(独)国立環境研究所(つくば)
2RF-1301	バイオマスモニタリングのための現地サンプリング手法の開発	加藤 顕	1月10日(金)	千葉大学(松戸)
2RF-1302	温室効果ガスおよび短寿命気候因子(SLCP)緩和策が引き起こす環境影響の能動的評価	中島 映至	12月2日(月)	東京大学(文京区)
2RF-1303	低炭素と経済活性化を両立する生活・行動様式と地域環境デザイン方案の提案	平野 勇二郎	12月6日(金)	東京八重洲ホール(中央区)
2RF-1304	水蒸気量変動の気候変化に関する研究	藤田 実季子	11月25日(月)	(独)海洋研究開発機構東京事務所(千代田区)

<循環型社会部会>

課題番号	課題名	研究代表者	開催日	開催場所
3J113003	アスベスト含有建材対応型建設系廃棄物選別システムの開発	柳原 好孝	11月22日(金)	東急建設機技術研究所(相模原)
3J113005	黒液の利活用によるリグニンを原料とした炭素微粒子に関する研究	岡村 徹也		
3J113007	未利用バイオマス由来ナノファイバーとFRP廃材を利用した複合材及びスモールパッチ生産システムの開発に関する研究	牧瀬 理恵	11月29日(金)	トクラス(浜松)
3J122001	新燃焼方式を採用した高性能・低コスト型ストーカ炉の開発	中山 剛		
3J123002	ソフト水熱プロセスによる廃きのご培地再生処理技術の開発に関する研究	宮本 徹	10月9日(水)	榊前田製作所(長野)ほか
3J123003	廃液晶ガラス・廃自動車ガラス等の高度再資源化システムの研究開発	柳田 啓之	6月17日(月)	イースクエア(港区)
3J122004	浄水発生土(天日ケーキ)の園芸資材へのリサイクル技術に関する研究	仲原 龍吾	10月16日(水)	岡山市水道局旭東浄水場(岡山)
3J132001	廃棄物ガス化発電技術の高効率化の実証	田頭 成能	12月9日(月)	神鋼環境ソリューション(神戸)
3J132002	無電解ニッケルめっき廃液のリサイクルシステム構築	溝上 利文	1月30日(木)	KOA(伊那)
3K113001	水銀など有害金属の循環利用における適正管理に関する研究	高岡 昌輝	7月26日(金)	京都大学(京都)
3K113002	アジア都市における日本の技術・政策を活用する資源循環システムの設計手法	藤田 壮		
3K113004	東アジア標準化に向けた廃棄物・副産物の環境安全品質管理手法の確立	肴倉 宏史	10月7日(月)	(独)国立環境研究所(つくば)
3K113006	固体酸触媒を用いた様々な草木質系バイオマス廃棄物に対応できる糖化システムの構築	銭衛華	12月11日(水)	東京農工大学(小金井)
3K113008	難循環ガラス素材廃製品の適正処理に関する研究	吉岡 敏明		
3K113009	最終処分場機能の健全性の検査手法と回復技術に関する研究	遠藤 和人		
3K113010	静脈産業のアジア地域への移転戦略の構築に関する研究	山田 正人	5月14日(火)	TKP東京駅前カンファレンスセンター(中央区)
3K113011	有害危険な製品・部材の安全で効果的な回収・リサイクルシステムの構築	寺園 淳		
3K113012	電池の循環・廃棄システムに向けた環境負荷解析及び政策比較研究	浅利 美鈴		
3K113015	中間処理残さ主体埋立地に対応した安定化促進技術の開発	東條 安匡	7月23日(火)	北海道大学(札幌)
3K113016	バイオマス・二酸化炭素を原料としたソーラー燃料・化成品変換システムの構築に関する研究	天尾 豊	11月28日(木)	大阪市立大学(大阪)
3K113017	産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討	谷川 昇		
3K113018	磁性ナノ球状カプセル酵素と酵母によるバイオエタノールの製造および相溶化処理した生分解性複合材料の創製	邱 健輝	12月5日(木)	秋田県立大学(由利本庄)
3K113019	農産廃棄物カスケード型循環利用バイオエタノール製造システムに関する研究	北口 敏弘	7月18日(木)	(地独)北海道立総合研究機構(札幌)
3K113021	3Rに係る自治体施策・行動変容プログラムの政策効果分析	松井 康弘		
3K113022	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究	川壽 幹生		
3K113023	家庭系有害廃棄物(HHW)の現状把握と回収システム構築のための研究	松藤 敏彦		
3K113024	アスベスト含有建材の選別手法確立と再生砕石の安全性評価に関する研究	渡辺 洋一		
3K113025	有機ハロゲン化合物の熱化学的破壊の可視化・最適化	渡邊 信久	8月7日(水)	大阪工業大学(大阪)
3K113026	資源性廃棄物の不適切分別を招く心理要因の構造化と分別改善手法の提言	高橋 史武	10月3日(木)	東京工業大学すずかけ台キャンパス(横浜)
3K113027	アジアの都市廃棄物管理の発展に応じた埋立地浸出水対策の適正な技術移転に関する検討	石垣 智基		
3K113029	硫化処理した廃棄物系バイオマスを用いためっき廃液からの高選択的レアメタル分離回収技術の開発	和嶋 隆昌	7月12日(金)	千葉大学(千葉)
3K113030	日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス利活用による3R定着に関する研究	田中 勝		
3K113032	廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案	三宅 祐一	1月16日(木)	静岡県立大学(静岡)
3K123001	使用済み自動車(ELV)の資源ポテンシャルと環境負荷に関するシステム分析に関する研究	酒井 伸一		

3K123002	静脈産業の新興国展開に向けたリサイクルシステムの開発とその普及に係る総合的研究	細田 衛士		
3K123003	繊維強化プラスチック材の100%乾式法による完全分解と強化繊維の回収・リサイクル技術	水口 仁	6月27日(木)	信州大学(上田)
3K123004	地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスガス化/多段触媒変換プロセスの開発に関する研究	川本 克也		
3K123005	破砕・凝結プロセスを伴う生物スラッジの超高温圧搾脱水法の開発	入谷 英司		
3K123006	起泡クロマトによるGaの選択回収プロセスの確立とレアメタル回収への展開	二井 晋	6月12日(水)	名古屋大学(名古屋)
3K123007	微生物によるバイオディーゼルの廃グリセロールからの燃料生産	中島 敏明	6月20日(木)	筑波大学(つくば)
3K123008	微生物を利用した地域バイオマスキノコ廃菌床からの化学工業原料生産システムの開発	高久 洋暁	6月28日(金)	新潟薬科大学(新潟)
3K123009	ハロモナス菌による木材から3-ヒドロキシ酪酸等の生産技術開発に関する研究	河田 悦和		
3K123010	廃有機溶剤の効率的再生処理技術の実用化	田中 茂		
3K123011	伝熱管表面改質技術による廃棄物焼却炉発電効率の革新的向上	成瀬 一郎		
3K122012	電気二重層イオン除去による焼却灰洗浄廃水の高度処理技術の開発	吉原 福全	7月25日(木)	立命館大学(草津)
3K122013	使用済み一次乾電池のマテリアルリサイクル	重松 幹二		
3K122014	好熱菌の油脂分解酵素の特性解明と廃食用油を添加した好気性発酵システムへの応用	伏信 進矢	8月14日(水)	市民プラザ+千葉県豆腐組合(千葉他)
3K123015	スラッジ再生セメントと産業副産物混和材を併用したクリンカーフリーコンクリートによる鉄筋コンクリート部材の開発研究	関田 徹志	6月25日(火)	鹿島建設(株)技術研究所(調布)
3K123016	炭素同位体分析による化石由来二酸化炭素排出量の高精度推定手法の開発と適用	平井 康宏	6月13日(木)	京都大学環境科学センター(京都)
3K122017	エタノール発酵系状菌を活用した製紙廃棄物からの効率的バイオエタノール製造法の開発	星野 一宏		
3K123018	湿式分離とイオン液体電析を融合した省エネルギー型レアアース回収技術の開発	松宮 正彦	6月26日(水)	横浜国立大学(横浜)
3K123019	乾式試金法を基にして鉛ガラスを媒介とした廃棄物からの各種金属の回収方法	稲野 浩行	7月1日(月)	(独)北海道立総合研究機構工業試験場(札幌)
3K123020	擬似酵素型光触媒システムによるプラスチック混合廃棄物の易分解および部分生分解化	中谷 久之	7月4日(木)	北見工業大学(北見)
3K123021	し尿汚泥等の焼却灰からのリン回収技術の開発研究	中村 洋祐		
3K123022	ホスト分子による希少金属オンサイト分離のためのマイクロリアクターシステムの構築に関する研究	大渡 啓介	6月21日(金)	佐賀大学(佐賀)
3K123023	廃棄物材の次世代電池材料へのゼロエミッション利用技術の開発	衣本 太郎	7月18日(木)	大分大学(大分)
3K122024	国際的な資源依存構造に着目したレアメタルに関する3R効果評価手法の開発	南齋 規介		
3K123025	水熱処理技術を活用した新規下水処理システムに関する研究	小林 信介		
3K123026	ネオジム磁石廃材からの非加熱式全元素回収プロセスの開発	笹井 亮	6月6日(木)	島根大学(松江)
3K122107	防災・減災を志向した分散型浄化槽システムの構築に関する研究	蛭江 美孝		
3K133001	製品に含まれる化成品及び不純物に由来する有害廃棄物対策と循環方策構築に向けた研究	滝上 英孝	12月25日(水)	(独)国立環境研究所(つくば)
3K133002	水素を利用したチタン合金切削屑の高効率再資源化技術の実用化研究	近藤 勝義	1月17日(金)	大阪大学(大阪)
3K133003	災害廃棄物分別土砂・篩下残渣の物性評価と、戦略的有効利用に向けた標準化	勝見 武	12月2日(月) 3月14日(金) ~15日(土)	京都大学(京都) 日本大学工学部50周年記念館(郡山)
3K133004	バイオリアクターによる廃二次電池溶解処理液からのMn,Ni,Co同時回収	大橋 晶良	1月7日(火)	広島大学(広島)
3K133005	溶媒抽出技術を基盤とする電子機器廃パネルからの環境保全型レアメタル循環システムの構築	馬場 由成	12月18日(水)	宮崎大学(宮崎)
3K133006	臭化銅溶媒系を用いた使用済み電子機器からの貴金属・レアメタル回収システムの開発	松野 泰也	12月13日(金)	東京大学(文京区)
3K133007	焼却排ガス処理薬剤や飛灰処理キレートが埋立管理に与える影響と対策研究	樋口 壯太郎	12月12日(木)	福岡大学資源循環・環境制御システム研究所(北九州)
3K133008	光エネルギーを利用した廃液からの触媒的貴金属分離・回収技術の開発	木田 徹也	1月21日(火)	九州大学(福岡)
3K133009	廃電気電子機器中の難燃剤の環境挙動予測評価による適正管理技術の確立に関する研究	羽成 修康	12月16日(月)	(独)産業技術総合研究所(つくば)
3K133010	生物検定法による塩素化/臭素化ダイオキシン類測定評価法の確立と高度利用に関する研究	鈴木 剛	12月24日(火)	(独)国立環境研究所(つくば)
3K133011	プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究	山脇 敦	1月9日(木)	(公財)産業廃棄物処理事業振興財団(千代田区)
3K133012	微生物及び粉砕・選鉱プロセスを導入した廃電子基板等からの有用金属回収システムの構築	宮田 直幸	12月4日(水)	秋田県立大学(秋田)
3K122101	光触媒コーティング無電極ランプによる被災地の汚染水浄化装置の開発	堀越 智		
3K122102	放射性セシウムを含有する焼却残渣の性状把握と効率的かつ安全な処分技術	島岡 隆行	9月26日(木)	九州大学(福岡)
3K122103	放射能汚染廃棄物処理施設の長期管理手法に関する研究	大迫 政浩		
3K122104	津波堆積物を用いた放射線汚染掘削土壌被覆のための高機能性覆土材の開発	高橋 弘	11月7日(木)	東北大学(仙台)
3K122105	半導体コンプトンカメラ技術を用いた放射性汚染物のイメージング分析技術の開発	本村 信治		
3K122106	焼却・溶融処理を用いた放射能汚染土壌・廃棄物の放射能分離・減容・固定化技術の確立	米田 稔	10月1日(火)	京都大学(京都)
3K123108	災害廃棄物の処理における石綿の適正管理に関する研究	山本 貴士	7月10日(水)	(独)国立環境研究所(つくば)
3K122109	放射能で汚染された廃棄物を対象とした海面最終処分場に関する研究	土田 孝		
3K122110	東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究	松村 治夫		

<自然共生型社会部会>

課題番号	課題名	研究代表者	開催日	開催場所
4D-1101	外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発	五箇 公一	2月17日(月)	(独)国立環境研究所(つくば)
4D-1102	生物多様性の機能評価のための安定同位体指標に関する研究	陀安 一郎	12月26日(木)	京都大学生態学研究センター(大津)
4D-1103	支笏洞爺国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発	吉田 剛司	1月23日(木)	酪農学園大学(江別)
4D-1104	天草・島原沿岸の地域連携型保全に向けた干潟ベントス群集とその生態系機能に関する研究	玉置 昭夫	1月30日(木)	長崎大学(長崎)
4D-1105	北東アジアの乾燥地生態系における生物多様性と遊牧の持続性についての研究	吉川 賢	11月11日(月)	岡山大学(岡山)
4D-1106	三宅島2000年噴火後の生態系回復過程の解明と管理再生に関する研究	加藤 和弘	11月26日(火)	東京大学(文京区)
4D-1201	シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全ー北海道とロシア極東との比較	中村 太士	12月6日(金)	北海道大学(札幌)
4D-1202	国際河川メコン川のダム開発と環境保全ーダム貯水池の生態系サービスの評価	福島 路生	12月17日(火)	(独)国立環境研究所(つくば)
4E-1102	藻場の資源供給サービスの定量・経済評価と時空間変動解析による沿岸管理方策の提案	小路 淳	10月2日(水)	ホテル本能寺(京都)
4-1301	親潮沿岸域のゼニガタザランと沿岸漁業の共存に向けた保護管理手法の開発	桜井 泰憲	2月24日(月) ～25日(火)	北海道大学函館キャンパス(函館)
4-1302	再導入による希少鳥類の保全手法の確立に関する研究	永田 尚志	10月13日(日)	新潟大学(新潟)
4-1303	農業による水田生物多様性影響の総合的評価手法の開発	林 岳彦	2月26日(水)	(独)国立環境研究所(つくば)
4-1304	島嶼ーサンゴ礁ー外洋統合ネットワーク系動態解明に基づく石西礁湖自然再生への貢献	瀧岡 和夫	7月23日(火) ～24日(水)	国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター(ほか)(石垣)
4RFd-1201	希少種の人為的導入による、在来種への交雑を介した遺伝子浸透ー愛媛県タナゴ類の事例	畑 啓生	2月18日(火)	愛媛大学(松山)
4RFd-1202	在来マルハナバチによる環境調和型ポリネーション様式の確立に関する研究	高橋 純一	2月13日(木)	京都産業大学(京都)
4RF-1301	阿蘇を構成する植生の蒸発散の比較研究:草原の維持は水資源涵養に寄与するか?	宮沢 良行	11月7日(木)	京都大学(京都)
4RF-1302	環境DNA技術を用いた生物分布モニタリング手法の確立	土居 秀幸	9月20日(金)	広島大学(東広島)
4ZD-1201	沿岸生態系における放射性物質の拡散過程の解明	荒川 久幸	11月29日(金)	東京海洋大学(港区)
4ZD-1202	上流域水系ネットワークにおける森林-溪流生態系の放射性物質移動と生物濃縮の評価	五味 高志	1月16日(木)	東京農工大学(府中)
4ZD-1203	湧水がもたらす生態系の頑強性と脆弱性の解明:震災後の生態系復元に向けて	森 誠一	2月9日(日)	大槌町中央公民館(岩手県大槌町)

<安全が確保される社会部会>

課題番号	課題名	研究代表者	開催日	開催場所
5S2-12	環境化学物質による発達期の神経系ならびに免疫系への影響におけるメカニズムの解明	伏木 信次	2月16日(日)	京都府立医科大学(京都)
5B-1101	全国の環境研究機関の有機的連携によるPM2.5汚染の実態解明と発生源寄与評価	菅田 誠治	12月11日(水)	貸会議室 内海(千代田区)
5B-1102	湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価	一瀬 諭	1月23日(木)	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター(大津)
5B-1104	農業取締法における水質汚濁に係る農業の登録保留基準見直しのための根拠データの取得	高梨 啓和	12月18日(水)	横浜国立大学(横浜)
5B-1105	葉のオゾン吸収量に基づいた樹木に対するオゾンの影響評価に関する研究	伊豆田 猛	10月10日(木)	東京農工大学(府中)
5B-1106	残留性有機フッ素化合物群の全球動態解明のための海洋化学的研究	蒲生 俊敬	10月29日(火)	東京大学大気海洋研究所(柏)
5B-1107	自然由来土壌汚染をもたらす重金属類の環境中での形態変化の解明	井上 千弘	3月13日(木)	東北大学(仙台)
5B-1201	1,4-ジオキサン汚染地下水の生物浄化可能性の評価診断ツールの開発と浄化戦略の実証	池 道彦	7月5日(金)	ニッセイ新大阪ビル(大阪)
5B-1202	PM2.5規制に影響する汚染混合型黄砂の組成的特徴と飛来量/降水量に関する研究	杉本 伸夫	7月9日(火)	(独)国立環境研究所(つくば)
			1月27日(月)	(独)国立環境研究所(つくば)
5C-1101	解体現場のアスベストリスクに対応する特異的バイオプローブの創成と迅速検出への応用	黒田 章夫	2月7日(金)	広島大学(東広島)
5C-1102	適切なリスク管理対策の選択を可能にする農業の定量的リスク評価法の開発	稲生 圭哉	8月21日(水)	彦根キャッスルホテル(彦根)
5C-1151	可塑剤・難燃剤の曝露評価手法の開発と小児アレルギー・リスク評価への応用	岸 玲子	5月30日(木)	北海道大学(札幌)
5C-1152	戸外活動時間を考慮に入れた、土壌性ダスト(黄砂)による呼吸器/アレルギー疾患リスクの定量的評価	中山 健夫	12月26日(木)	京都大学(京都)
5C-1153	母親と新生児を対象とする化学物質曝露のリスクと魚介類摂取のベネフィットの比較研究	八重樫 伸生	1月30日(木)	東北大学(仙台)
5C-1154	黄砂のヒト健康への影響に対する臨床および基礎研究の融合アプローチ	渡部 仁成	9月14日(土)	鳥取大学(米子)
5C-1155	黄砂エアロゾル及び付着微生物・化学物質の生体影響とそのメカニズム解明に関する研究	市瀬 孝道	1月27日(月)	大分県立看護科学大学(大分)
5C-1251	ダイオキシン類曝露による経世代健康影響と遺伝的感受性要因との関連に関する研究	和氣 徳夫	1月20日(月)	九州大学(福岡)
5C-1252	妊娠中及び胎児期における内分泌攪乱物質が性分化および性腺機能に及ぼす影響について	野々村 克也	11月1日(金)	北海道大学(札幌)
5-1301	光化学オキシダント生成に関わる未計測VOCの探索	梶井 克純	12月4日(水)	京都大学(京都)
5-1302	適切な農業の後作物残留リスク評価に基づく実効的な管理技術の開発	清家 伸康	1月27日(月)	つくば市東京事務所(千代田区)
5-1303	日本型農業環境条件における土壌くん蒸剤のリスク削減と管理技術の開発	小原 裕三	6月13日(木)	(独)農業環境技術研究所(つくば)
			2月20日(木)	(独)農業環境技術研究所(つくば)

5-1304	湖沼のブラックボックス負荷「底泥溶出」の定量評価に関する研究	今井 章雄	10月18日(金)	(独)国立環境研究所(つくば)
5-1305	母児POP暴露量の質問票及び遺伝要因からの推定に関する研究	森 千里	12月17日(火)	千葉大学(千葉)
5-1306	日本海及び周辺域の大気・海洋における有機汚染物質の潜在的脅威に関する研究	早川 和一	7月13日(土)	金沢大学(金沢)
			1月11日(土)	(独)国立環境研究所(つくば)
5-1307	風力発電等による低周波音・騒音の長期健康影響に関する疫学研究	石竹 達也	7月2日(火)	東京八重洲ホール(千代田区)
			12月12日(木)	東京八重洲ホール(千代田区)
5RFb-1201	マグネシウム化合物を吸着剤として利用するほう素、ふっ素の処理技術の開発	亀田 知人	10月15日(火)	東北大学(仙台)
5RFb-1202	低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明	堀井 勇一	9月24日(火)	埼玉県環境科学国際センター(加須)
5RFb-1203	河口域における残留性有機汚染物質の循環とそれが沿岸生態系に与える影響の定量的評価	小林 淳	11月17日(日)	熊本県立大学(熊本)
5RFc-1201	簡単な試料前処理のみで実施できるダイオキシンの土壌汚染バイオアッセイキットの開発	川西 優喜	9月2日(月)	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス(堺)
5RFc-1202	チャンパー法によるナノ製品の曝露評価	松井 康人	10月9日(水)	ホテルグランヴィア京都(京都)
5RF-1301	持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発	柳 哲雄	7月29日(月)	九州大学(春日)
5RF-1302	環境ナノ粒子を介した有機汚染物質の人体曝露に関する研究	鳥羽 陽	9月24日(火)	金沢大学(金沢)
			3月1日(土)	デスカット東京日本ビル店(千代田区)
5RF-1303	水銀汚染土壌および底質中のメチル水銀の簡易・迅速・高感度な分析システムの開発	梶玉谷 仁	12月19日(木)	キャンパス・イノベーションセンター東京(港区)
5ZB-1201	群馬県に降下した放射性セシウムの動態解析と将来予測	角田 欣一	8月16日(金)	群馬県水産試験場(前橋)
5ZB-1202	福島原発近隣における里山生態系を含めた除染効果の評価と住民の中期曝露評価	小泉 昭夫	7月30日(火)	京都大学(京都)
5ZB-1203	担体固定化吸着剤を用いた環境中からの小規模分散型セシウム回収プロセスの実用化	迫田 章義	1月29日(水)	コラッセふくしま(福島)
5ZB-1204	空気揚土攪拌式洗浄装置を用いた放射性セシウム汚染土壌の減容化方法の開発	西嶋 茂宏	7月18日(木)	大阪大学(吹田)
5ZB-1205	放射能汚染土壌の飛散防止・洗浄・固化を行う生物処理実用システムの開発	片山 新太	9月6日(金)	飯館村旧役場「まていの家」(福島)
5ZB-1206	放射能汚染土壌の除染実用化技術の開発	逸見 彰男	1月30日(木)	愛媛大学(松山)
5ZC-1201	水系感染微生物による水環境汚染への指標生物管理の有効性と消毒技術の検討	田中 宏明	9月25日(水)	航空会館(港区)
5Z-1301	セシウムの動態解析に基づく除染シナリオの構築と磁気力制御型除染法の開発	秋山 庸子	8月7日(水)	大阪大学東京オフィス(港区)
5ZRFb-1201	東日本大震災に伴う放射能および化学物質汚染の将来予測と次災害試料アーカイブの整備	上野 大介	5月7日(火)	佐賀大学(佐賀)
5ZRFc-1201	震災時に放出された化学物質の東北沖魚介類生態系における生物濃縮と毒性リスク評価	磯部 友彦	2月7日(金)	愛媛大学(松山)

#### ④ 研究課題の進捗状況の把握

研究代表者や研究分担者等からの質問や相談等の問い合わせに対応するとともに、定期的に研究代表者等と連絡を取り、研究の進捗状況を把握し、助言等を行った。またアドバイザーボード会合、現地調査、主催シンポジウム・研究会、研究成果報告書の査読、中間評価ヒアリングなどを通して、研究課題の進捗状況の把握に努めた。さらに必要に応じて、研究代表者等から寄せられた論文発表や学会発表等の報告に対して問い合わせを行った。研究推進上、重要事項と思われるものについては、その都度、環境省に連絡した。

#### ⑤ 研究進行上の問題点または変更点への対応

研究進行上の問題点の多くは、組織（担当者の変更など）や予算執行（費目・額の変更、調査地域・回数の変更など）に関するものであるが、必要に応じて PO コメント（研究上の合理性など）を付して環境省に連絡し、あるいは環境省に直接相談するよう指示するなどにより、研究推進がスムーズに行われるよう対応を図った。

#### ⑥ 書面評価における評価委員の選定

事前評価・事後評価等における書面評価では、研究課題ごとに担当評価委員を選定した。その際、1 課題あたり評価委員数は 5 名程度とし、委員の専門性を踏まえて、1 委員あたりの担当課題数が過大・過小にならないよう配慮しながら評価委員の選定を行った。



**⑦ 研究部会等への出席**

研究部会等の開催については、担当 PO が原則出席した。

**⑧ 書面評価及びヒアリングにおける委員コメントの確認及び整理**

事後評価の書面評価では、評価結果及び委員コメントを確認・整理し、事後評価個票の「委員の指摘及び提言概要」として取りまとめ、研究部会等で報告した。

**⑨ 新規課題の初年度研究計画についての確認**

新規課題の研究代表者が作成する初年度研究計画について、事前評価ヒアリングにおける部会意見が適切に反映されているか、環境省の要請に応じて確認した。

**⑩ 継続課題の次年度研究計画についての確認**

継続課題の研究代表者が作成する次年度研究計画について、中間評価ヒアリングにおける委員コメントやアドバイザーボード会合におけるアドバイザー等のコメントが適切に反映されるように研究代表者に対して指導及び助言を行った。

**⑪ 終了研究成果報告書及び推進費パンフレットの原稿の確認**

終了研究成果報告書及び推進費パンフレットの原稿について、研究内容と齟齬がないか、また環境省が提示した記載項目と一致しているか等を点検・確認した。また不明な箇所等については、研究代表者に原稿の修正を依頼し、印刷前の最終稿に整えた。

**⑫ 研究課題の成果情報の把握**

専門学会誌への原著論文投稿、学会発表、報道関係者からの取材の応諾、テレビやラジオでの放送、新聞・雑誌への掲載等、研究成果の発表・普及に関する情報については、事前に PO に連絡するように指示し、当該研究成果が推進費によるものであることがプレスリリースや謝辞等に記載・言及されているか確認するとともに、論文の電子版（PDF ファイル等）、内容の概要・報道機関及び放送・掲載の予定日時などを事前に環境省に報告した。

研究代表者とその所属機関等が主催する公開シンポジウム等については、計画段階から環境省担当官とも連絡を取りながら進めるように指示した。

学会発表や非公開シンポジウム・研究会等については、必要に応じて PO が参加し、内容を報告書に取りまとめた。表 4 に研究課題の関連シンポジウム等の参加実績を示す。

表 4 課題関連シンポジウム等の参加実績

課題番号	表題	開催日	開催場所
S-6	公開シンポジウム 「アジア低炭素社会へのチャレンジ」ーアジアはリープフロッグで世界をかえられるか？ー	10月17日(木)	国際連合大学(渋谷区)
S-7	公開シンポジウム 「越境大気汚染への挑戦2013ー国際協調による取組に向けてー」	11月1日(金)	ソラシティカンファレンスセンター(千代田区)
S-8	気候変動適応シンポジウム 「気候変動の影響と適応～地域の実践」	11月26日(火)	法政大学市ヶ谷キャンパス(千代田区)
S-9	公開講演会 「生物多様性観測・評価・予測研究の最前線3 ～アジアでの展開～」	1月11日(土)	東京大学弥生キャンパス(文京区)
S-10	ICA-RUS/CCRP-PJ2 International Workshop 2013 –Now and Future of Global Climate Risk Management-	12月4日(水) ～6日(金)	タイム24ビル(江東区)
S-11	S-11・Beyond MDGs Japan 合同公開シンポジウム ポスト2015年開発アジェンダー ー持続可能な開発目標(SDGs)とポスト・ミレニアム開発目標(MDGs)の統合へ向けて	1月17日(金)	イノカンファレンスセンター(千代田区)
1E-1101	国際ワークショップ 「レジリエント・アジア 持続可能な未来のための伝統と近代システムの融合」	2月14日(金)	国際連合大学(渋谷区)
1E-1103	国際シンポジウム「有機農業とコミュニティ:明日への戦略」	3月1日(土)	東京大学駒場キャンパス(目黒区)
1E-1105	最終成果報告シンポジウム 「地球にも人にもやさしい持続可能なまちをめざしてー低炭素街区群デザインの新展開」	1月25日(土)	名古屋大学(名古屋)
1E-1106	日中グリーンサプライチェーン・ワークショップ	1月22日(水)	神戸大学(神戸)
1E-1106	最終成果報告シンポジウム 「アジアを含む低炭素型サプライチェーンの構築と制度化に関する研究」	2月24日(月)	関西大学東京センター(千代田区)
1-1304	「レジリエントシティ」ワークショップ	2月20日(木)	法政大学市ヶ谷キャンパス(千代田区)
1F-1201	里地里山里水元気フォーラム 地域が取り組む環境管理とエネルギー	12月13日(金)	ミュージアム都留(都留)
2A-1102	～公開シンポジウム～ 温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」による温室効果ガスの全球観測から分かったこと	8月6日(火)	佐賀大学(佐賀)
4D-1103	「日本の野生動物管理の転換点」ー道内外の先進事例から学び 新たな体制作りー	9月28日(土)	札幌国際ビル国際ホール(札幌)

### ⑬ 成果発表会の発表課題の選定

一般国民を対象とした成果発表会の運営にあたり、各研究部会における事後評価結果等を踏まえ、発表課題に相応しい研究課題を研究部会別に推薦し、環境省に連絡した。推薦された研究課題をもとに環境省から選定された発表課題は、担当 PO を通じて研究代表者に連絡し、成果発表会の趣旨を説明するとともに、発表資料の準備を依頼した。

### ⑭ 研究動向の把握

最新の研究動向について、推進費の運営に参考となる情報を収集し、環境省に報告するととも

に、推進費の運営に係る改善提案を行った。

## (2) 研究部会等の運営

### I 研究部会等の設置及び運営

環境省が設置する環境研究企画委員会の下に、5つの研究部会（全領域共通・領域横断部会、脱温暖化社会部会、循環型社会部会、自然共生型社会部会、安全が確保される社会部会）を設置し、以下の①～⑥の業務を実施した。

#### ① 研究部会等委員の委嘱に関する手続き

平成25年度は、全領域共通・領域横断部会委員12名、脱温暖化社会部会委員14名、循環型社会部会委員14名、自然共生型社会部会委員14名、安全が確保される社会部会委員14名への委嘱手続きを行った。また戦略研究プロジェクト専門部会については、研究部会委員が兼任する形で委嘱手続きを行った。

なお、今年度は、事前評価・中間評価・事後評価のために臨時に書面評価委員等へ依頼することとはなかった。

各研究部会の委員については、表5にリストを示す。

表5 研究部会委員リスト（五十音順）＜平成26年3月1日現在＞

#### ＜①全領域共通・領域横断部会＞

	氏名	兼任	職名
1	浅野 直人	②③	福岡大学法学部教授
2	井村 秀文	副主査	横浜市立大学特任教授 グローバル都市協力研究センター シニアプロジェクトマネージャー
3	岩坂 泰信	⑤	滋賀県立大学理事
4	岡田 光正	⑤	放送大学教授
5	小池 勲夫	②	琉球大学監事
6	佐々 朋幸	④	フランス農業研究機構・森林科学部門国際学術委員
7	下田 陽久	④	東海大学総合科学技術研究所教授、宇宙情報センター長
8	鈴木 基之	委員長	東京工業大学監事
9	武田 信生	③	京都大学名誉教授
10	藤田 正憲	③	大阪大学名誉教授
11	陽 捷之	副委員長	公益財団法人農業・環境・健康研究所副理事長 農業大学校校長
12	安井 至	主査	独立行政法人製品評価技術基盤機構理事長

<②脱温暖化社会部会>

	氏名	兼任	職名
1	浅野 直人	主査・①③	福岡大学法学部教授
2	太田 勝敏		東京大学名誉教授 公益財団法人豊田都市交通研究所所長
3	大谷 繁		東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 産学連携コーディネーター
4	笠井 康子		総務省情報通信国際戦略局技術政策課技術企画調査官
5	小池 勲夫	副主査・①	琉球大学監事
6	後藤 則行		東京大学大学院総合文化研究科教授
7	近藤 洋輝		一般財団法人リモート・センシング技術センター ソリューション事業部特任首席研究員
8	建石 隆太郎		千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授
9	中澤 高清		東北大学名誉教授、東北大学大学院理学研究科客員教授
10	中野 幸紀		関西学院大学総合政策学部教授
11	堀江 武		(独)農業・食品産業技術総合研究機構理事長
12	松岡 譲		京都大学大学院工学研究科教授
13	三橋 規宏		千葉商科大学名誉教授
14	村上 周三		一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長

<③循環型社会部会>

	氏名	兼任	職名
1	浅野 直人	①②	福岡大学法学部教授
2	市川 陽一		龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科教授
3	稲田 義久		甲南大学経済学部経済学科教授
4	岩堀 恵祐		公立大学法人宮城大学食産業学部環境システム学科教授
5	河村 清史		元埼玉大学大学院理工学研究科教授
6	金 晃太郎		元北海道環境科学研究センター所長
7	武田 信生	副主査・①	京都大学名誉教授
8	中杉 修身		元上智大学地球環境学研究科教授
9	中野 加都子		神戸山手大学現代社会学部教授
10	野馬 幸生		福岡女子大学国際文理学部環境科学部教授
11	藤田 正憲	主査・①	大阪大学名誉教授
12	藤間 幸久		元名古屋大学理工科学総合研究センター教授
13	藤吉 秀昭		一般財団法人日本環境衛生センター常務理事
14	盛岡 通		関西大学環境都市工学部教授

<④自然共生型社会部会>

	氏名	兼任	職名
1	天野 正博		早稲田大学大学院人間科学学術院教授
2	井上 真		東京大学大学院農学生命科学研究科教授
3	酒泉 満		新潟大学教育研究院自然科学系教授
4	佐々 朋幸	主査・ ①	フランス農業研究機構・森林科学部門国際学術委員
5	篠原 徹		滋賀県立琵琶湖博物館館長
6	下田 陽久	副主査・①	東海大学総合科学技術研究所教授、宇宙情報センター長
7	武田 博清		同志社大学理工学部環境システム科教授
8	竹中 千里		名古屋大学大学院生命農学研究科教授
9	谷田 一三		大阪府立大学大学院理学系研究科生物科学専攻客員教授
10	椿 宜高		京都大学名誉教授
11	中静 透		東北大学大学院生命科学研究科教授
12	前川 光司		北海道大学名誉教授
13	向井 宏		北海道大学名誉教授
14	森川 靖		早稲田大学人間科学学術院人間環境科学科教授

<⑤安全が確保される社会部会>

	氏名	兼任	職名
1	池田 幸		宇都宮大学大学院工学研究科教授
2	指宿 堯嗣		一般社団法人産業環境管理協会常務理事
3	岩坂 泰信	副主査・①	滋賀県立大学理事
4	岩崎 好陽		公益社団法人におい・かおり環境協会会長
5	内山 巖雄		京都大学名誉教授
6	浦野 紘平		横浜国立大学名誉教授
7	岡田 光正	主査・①	放送大学教授
8	笠原 三紀夫		京都大学名誉教授
9	加藤 順子		金沢工業大学客員教授
10	国眼 孝雄		東京農工大学名誉教授
11	高松 武次郎		独立行政法人国立環境研究所 地球環境研究センター土壌環境研究室客員研究員
12	藤江 幸一		横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
13	細見 正明		東京農工大学大学院工学研究院教授
14	吉村 健清		福岡女子大学国際文理学部教授

## ② 研究部会等の開催

中間評価ヒアリング及び事前評価（新規採択）ヒアリングのための研究部会等を開催するにあたり、各委員に対し、開催のための日程調整と、開催日時の確定速報、開催通知の送付（メール及び郵送）、出欠のとりまとめを行い、環境省に報告した。

また会議室の確保、会議に必要な設備（マイク、パソコン、プロジェクター、レーザーポインター等）の準備、配付資料の作成及び印刷、飲料・昼食等の準備、会場の設営、司会及び受付、議事録の作成などを行った。

なお、研究部会等の開催にあたっては、会議室の温度をこまめに設定する、飲料の容器を分別する、昼食を回収容器で配付する、など環境配慮に努めた。

表 6 に各研究部会等の開催日時を示す。

表 6 研究部会等の開催日時

研究部会等	内容	開催日時
<研究部会>		
全領域共通・領域横断部会	推進費中間評価	7月19日(金) 14:00~16:30
	推進費事前評価	1月29日(水) 10:00~18:35
脱温暖化社会部会	推進費中間評価	7月29日(月) 10:00~16:15
	推進費事前評価	1月31日(金) 10:00~18:35
循環型社会部会	推進費中間評価	7月30日(火) 10:00~18:20 ~31日(水) 10:00~19:00
	推進費事前評価	1月23日(木) 10:00~18:45 ~24日(金) 10:00~18:45
自然共生型社会部会	公害一括事後評価	7月11日(木) 14:00~18:30
	推進費中間評価	8月8日(木) 10:00~16:30
	推進費事前評価	1月30日(木) 10:00~19:05
安全が確保される社会部会	公害一括事後評価	7月11日(木) 10:00~12:45
	推進費中間評価	7月24日(水) 10:00~17:30
	推進費事前評価	2月12日(水) 10:00~17:35 ~13日(木) 10:00~18:15
<戦略研究プロジェクト専門部会>		
S-9専門部会	推進費中間評価	8月2日(金) 13:30~17:30
S-12検討会	第1回	7月3日(水) 14:00~16:00
	第2回	8月2日(金) 10:00~12:00
S-13検討会	第1回	6月14日(金) 13:00~17:00
	第2回	8月14日(水) 13:00~15:00
S-12専門部会	推進費事前評価	2月10日(月) 10:00~17:00
S-13専門部会	推進費事前評価	2月6日(木) 10:00~19:10
<その他>		
行政ニーズ検討会	打合せ	6月14日(金) 10:00~12:00
	第1回	6月24日(月) 10:00~12:00

### ③ 研究部会等における議事録及び決定事項

研究部会等で作成した議事録及び決定事項は、担当 PO が内容を確認したうえ、電子データにて環境省に提出した。

### ④ 研究部会等に出席した委員への旅費及び出席謝金の支払い

研究部会等に出席した委員には、1回あたり 16,300 円の出席謝金を支払うとともに、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。

### ⑤ 書面評価を担当した委員への謝金の支払い

終了課題の事後評価及び新規公募課題の事前評価については、書面評価を実施した。担当 PO により、委員の専門分野に合わせて 1 課題あたり 5 名の委員が割り振られた。担当した委員には、書面評価 1 課題あたり 1,800 円を支払った。

### ⑥ 環境研究企画委員会の資料作成の補助及び当日の出席

環境研究企画委員会に研究部会等の内容を反映させるため、環境研究企画委員に向けた資料作成を補助し、PO とともに当日出席した。

環境研究企画委員会の開催日時は、以下の通りである。

第 1 回	平成 25 年 7 月 12 日 (金)	10 : 00 ~ 12 : 00
第 2 回	平成 25 年 9 月 5 日 (木)	14 : 00 ~ 17 : 00
第 3 回	平成 26 年 2 月 27 日 (木)	14 : 00 ~ 17 : 00

## II 研究部会委員等を対象とする成果報告会等の運営

研究部会等の委員に対して、研究代表者や研究分担者等が研究の成果または進捗状況等を報告する成果報告会等を実施するにあたり、以下の①～②の業務を実施した。

### ① 平成 25 年度終了課題（委託費）の成果報告会

平成 25 年度終了課題のうち、委託費による研究課題 54 課題（表 2 の「終了」を参照）について、研究部会委員や課題研究者等を対象とした成果報告会を開催した。

名称：平成 25 年度環境研究総合推進費終了課題成果報告会

日時：平成 26 年 3 月 10 日 (月) 10 : 00 ~ 18 : 10

場所：砂防会館 別館 3 階「霧島」「六甲」「立山」「穂高」（東京都千代田区平河町 2-7-5）

プログラム：資料 3 を参照

成果報告会を開催するにあたり、研究部会等の委員に対し、開催のための日程調整を行い、環境省と協議のうえ開催日時を決定した後、開催日時の確定速報、開催通知の送付（メール及び郵送）、出欠のとりまとめを行い、環境省に報告した。

また発表予定課題が 1 日で終わられるようにプログラム（会場割・時間割等）を作成するとともに、会議室の確保、会議に必要な設備（マイク、パソコン、プロジェクター、レーザーポインター等）の準備、飲料・昼食等の準備、会場の設営、司会及び受付などを行った。

さらに成果報告会の配付資料は、評価ヒアリングと同じように、発表資料のハードコピーを配付することで、研究代表者の負担を軽減させた。

成果報告会に出席した研究部会等委員には、1回あたり 16,300 円の出席謝金を支払うとともに、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。

## ② 平成 25 年度継続課題（復興枠）の中間報告

平成 25 年度継続課題のうち、委託費による復興枠 3 年間研究課題を除いた 11 課題について、研究部会委員や課題一研究者等を対象とした中間報告会を開催した。

名称：平成 25 年度環境研究総合推進費（復興枠）中間報告会

日時：平成 25 年 7 月 10 日（水）10：00～17：00

場所：砂防会館 別館 3 階「霧島」（東京都千代田区平河町 2-7-5）

プログラム：資料 2 を参照

中間報告会を開催するにあたり、研究部会等の委員に対し、開催のための日程調整を行い、環境省と協議のうえ開催日時を決定した後、開催日時の確定速報、開催通知の送付（メール及び郵送）、出欠のとりまとめを行い、環境省に報告した。

また発表対象課題の研究代表者等と調整のうえプログラムを作成するとともに、会議室の確保、会議に必要な設備（マイク、パソコン、プロジェクター、レーザーポインター等）の準備、飲料・昼食等の準備、会場の設営、司会及び受付などを行った。

中間報告会に出席した委員には、1 回あたり 16,300 円の出席謝金を支払うとともに、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。また発表した研究代表者等にも、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。

また平成 25 年度継続課題のうち、補助金による復興枠研究課題については、別途アドバイザリー委員会が開催され、その中で中間報告が行われた。

名称：平成 25 年度環境研究総合推進費補助金（復興枠）第 1 回アドバイザリー委員会

日時：平成 25 年 5 月 24 日（金） 13：30～17：30

場所：東京八重洲ホール 701 会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13）

環境省との協議により、本委員会に出席した委員には、1 回あたり 16,300 円の出席謝金を支払うとともに、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。

## Ⅲ 戦略研究プロジェクトに係る拡大アドバイザリーボード会合

平成 25 年度は、戦略研究プロジェクトのうち S-8 及び S-10 について拡大アドバイザリーボード会合が開催された。拡大アドバイザリーボード会合を開催するにあたり、それぞれの専門部会委員に対して開催の日程調整、開催通知の送付、出欠のとりまとめなどを行い、環境省に報告した。

専門部会の委員に対して、それぞれの戦略研究プロジェクト事務局より受領した資料を事前に送付するとともに、出席した委員には 1 回あたり 16,300 円の出席謝金、及び国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で算出した旅費を支払った。

拡大アドバイザリーボード会合の開催日時は、以下の通りである。

S-8 平成 25 年 11 月 6 日（水） 10：00～17：00

S-10 平成 25 年 11 月 1 日（金） 9：30～12：30



### (3) 新規課題公募に関する支援業務

#### I 環境研究総合推進費の平成26年度新規課題公募

平成26年度新規課題公募について、環境研究総合推進費では以下の①～③の業務を実施した。

##### ① 新規課題公募に関する広報

新規課題公募に関する情報の掲載にあたり、過去の掲載履歴に基づきリストを抽出し、関連学会及び団体等の会誌またはホームページ等への依頼を行うとともに、環境省担当官に報告した。その結果、42団体のうち27団体のホームページ等で掲載が確認された。また関連新聞及び雑誌等にも掲載を依頼し、そのうち1紙に掲載された。

表7に新規課題公募に関する情報の掲載団体等を示す（詳細は別ファイルにて納品）。

表7 新規課題公募に関する情報が掲載された学会・団体等

	掲載先	HP等
1	(公社)日本水環境学会	<a href="https://www.jswe.or.jp/">https://www.jswe.or.jp/</a>
2	(公社)大気環境学会	<a href="http://www.jsae-net.org/">http://www.jsae-net.org/</a>
3	(公社)日本気象学会	<a href="http://www.metsoc.or.jp/">http://www.metsoc.or.jp/</a>
4	(公社)日本動物学会	<a href="http://www.zoology.or.jp/">http://www.zoology.or.jp/</a>
5	(一社)日本リモートセンシング学会	<a href="http://www.rssj.or.jp/">http://www.rssj.or.jp/</a>
6	日本海洋学会	<a href="http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/">http://www.kaiyo-gakkai.jp/main/</a>
7	日本生態学会	<a href="http://www.esj.ne.jp/esj/">http://www.esj.ne.jp/esj/</a>
8	日本陸水学会	<a href="http://www.jslim.jp/">http://www.jslim.jp/</a>
9	環境科学会	<a href="http://www.ses.or.jp/">http://www.ses.or.jp/</a>
10	環境経済・政策学会	<a href="http://www.seeps.org/">http://www.seeps.org/</a>
11	(一社)日本土壌肥料学会	<a href="http://jssspn.jp/">http://jssspn.jp/</a>
12	(公社)日本水産学会	<a href="http://www.jsfs.jp/">http://www.jsfs.jp/</a>
13	(一社)廃棄物資源循環学会	<a href="http://jsmcwm.or.jp/">http://jsmcwm.or.jp/</a>
14	日本エアロゾル学会	<a href="http://www.jaast.jp/home-j.shtml">http://www.jaast.jp/home-j.shtml</a>
15	環境技術学会	<a href="http://www.jriet.net/">http://www.jriet.net/</a>
16	日本環境変異原学会	<a href="http://www.j-ems.org/">http://www.j-ems.org/</a>
17	(一社)日本環境化学会	<a href="http://www.j-ec.or.jp/top_page.shtml">http://www.j-ec.or.jp/top_page.shtml</a>
18	(公社)日本都市計画学会	メーリングリスト
19	社会・経済システム学会	メーリングリスト
20	日本沿岸域学会	メーリングリスト
21	日本哺乳類学会	<a href="http://www.mammalogy.jp/japanese/">http://www.mammalogy.jp/japanese/</a>
22	水文・水資源学会	<a href="http://www.jshwr.org/modules/news/">http://www.jshwr.org/modules/news/</a>
23	日本分子生物学会	<a href="http://www.mbsj.jp/">http://www.mbsj.jp/</a>
24	(公社)土木学会	<a href="http://www.jsce.or.jp/">http://www.jsce.or.jp/</a>
25	日本農業気象学会	<a href="http://www.agrmet.jp/">http://www.agrmet.jp/</a>
26	グリーン・サステイナブル・ケミストリー・ネットワーク	メーリングリスト
27	(公社)日本産科婦人科学会	<a href="http://www.jsog.or.jp/">http://www.jsog.or.jp/</a>
28	環境新聞(週刊)	10月9日号

## ② 第1次審査（書面評価）に係る業務

推進費による平成26年度新規課題の書面評価にあたり、環境省から審査に必要な書類（応募申請書一式）を借り受け、委員の専門性を踏まえながらPOによる課題別委員割り当てを支援した。また、委員別に評価シート等を作成するとともに、評価に関する資料一式を印刷し、評価委員へ発送した。第2次審査（ヒアリング評価）の開催時期を念頭に、委員が十分な時間をもって評価に当たることができるよう配慮しながら、委員による評価結果の取りまとめ及び集計を行い、担当POの確認を経て、書面評価結果を環境省担当官に報告した。担当した評価委員には、書面評価1課題あたり1,800円を支払った。

なお、環境研究総合推進費補助金（循環型社会部会担当）における「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進基盤整備事業」の平成25年度継続課題について、環境省との協議により、要望額の妥当性に関する書面評価は実施しなかった。

## ③ 第2次審査（ヒアリング評価）に係る業務

第1次審査通過課題を対象とした第2次審査（ヒアリング評価）に係るすべての研究部会等の開催にあたり、各委員に対し、開催のための日程調整、開催日時の確定速報、開催通知の送付（メール及び郵送）、出欠のとりまとめ等を行い、環境省に報告した。

プログラムは、対象課題の研究代表者等の出発地を考慮して時間割等を決定するとともに、当日の配付資料を環境省担当官の指示のもとに作成・印刷した。

また会議室の確保、会議に必要な設備（マイク、パソコン、プロジェクター、レーザーポインター等）の準備、飲料・昼食等の準備、会場の設営、司会及び受付などを行うとともに、委員による評価結果の集計を行い、集計結果をプリントアウトし、研究部会等における重要な結論について確認できるようにした。

ヒアリングに出席した委員には、1回あたり16,300円の出席謝金を支払うとともに、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。

研究部会等の終了後は、議事録を作成するとともに、ヒアリング当日集計した評価結果の再確認、委員コメントの浄書等を行い、出席した担当POによる最終確認のうえ、環境省担当官に提出した。

表8に採択内定された平成26年度新規課題を示す。

表 8 平成 26 年度新規採択課題一覧

<S-12専門部会>

「SLCP の環境影響評価と削減パスの探索による気候変動対策の推進」 中島映至(東京大学)

	テーマ名	テーマ代表者	所属機関
<テーマ1>大気質変化事例の構造解析と評価システムの構築			
S-12-1(1)	マルチスケール大気質変化評価システムの構築と変化事例の解析	大原 利真	(独)国立環境研究所
S-12-1(2)	アジア域排出インベントリスシステムの開発	黒川 純一	(一財)日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター
S-12-1(3)	地域スケールの排出量逆推計システムの構築	眞木 貴史	気象庁気象研究所
<テーマ2>総合評価モデルの改良とそれを用いた将来シナリオの定量化			
S-12-2(1)	世界を対象とした統合評価モデルの改良とそれを用いた排出シナリオの定量化	増井 利彦	(独)国立環境研究所
S-12-2(2)	国・地域を対象とした統合評価モデル開発と排出シナリオの定量化	日比野 剛	みずほ情報総研(株)
S-12-2(3)	都市スケールにおける排出シナリオの定量化と大気汚染影響の評価	倉田 学児	京都大学
<テーマ3>数値モデルによる気候・環境変動評価と影響評価			
S-12-3(1)	数値モデルを用いたエアロゾルによる気候変動の評価	竹村 俊彦	九州大学
S-12-3(2)	数値モデルを用いた短寿命微量気体による気候変動の評価	須藤 健悟	名古屋大学
S-12-3(3)	短寿命大気汚染物質による気候変動に伴う健康へのインパクト評価	上田 佳代	(独)国立環境研究所
S-12-3(4)	短寿命大気汚染物質による気候変動に伴う農業へのインパクト評価	増富 祐司	埼玉県環境科学国際センター
S-12-3(5)	短寿命大気汚染物質による気候変動に伴う水循環変動の評価	渡辺 真吾	(独)海洋研究開発機構
S-12-3(6)	短寿命大気汚染物質による気候変動に伴う海面水位変動の評価	中田 真木子	近畿大学
<テーマ4>統合運用システムの構築		中島 映至	東京大学

<S-13専門部会>

「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」 柳 哲雄((公財)国際エメックスセンター)

	テーマ名	テーマ代表者	所属機関
<テーマ1>閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発			
S-13-1(1)	栄養塩濃度管理法開発	西嶋 渉	広島大学
S-13-1(2)	干潟・藻場の栄養物質循環・生物再生産に果たす機能の解明	多田 邦尚	香川大学
<テーマ2>開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における海域管理法の開発			
S-13-2(1)	遷移する沿岸環境監視とそれを応用した沿岸海域管理法開発	小松 輝久	東京大学
S-13-2(2)	森一川一海の栄養物質輸送機構の解明	門谷 茂	北海道大学
S-13-2(3)	森一海の物質輸送に果たす有機物の役割解明	西村 修	東北大学
		吉村 千洋	東京工業大学
<テーマ3>陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発			
S-13-3(1)	国際的閉鎖性海域の管理法提案	吉田 尚郁	(公財)環日本海環境協力センター
S-13-3(2)	日本海環境変動予測モデルの構築	広瀬 直毅	九州大学
		森本 昭彦	名古屋大学
S-13-3(3)	日本海高次生態系モデルの構築	郭 新宇	愛媛大学
<テーマ4>沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示			
S-13-4(1)	生態系サービスの経済評価	仲上 健一	立命館大学
S-13-4(2)	沿岸海域三段階管理法提案	日高 健	近畿大学
S-13-4(3)	人文科学的考察に基づく市民と沿岸海域を結ぶ物語の発見・構築・継承	印南 敏秀	愛知大学
S-13-4(4)	対馬・五島の海洋保護区における漁業活動調整	清野 聡子	九州大学
<テーマ5>総括		柳 哲雄	(公財)国際エメックスセンター

<1. 全領域共通・領域横断部会>

領域名	課題名	研究代表者	所属機関
委託・問題委対応	環境保全オフセット導入のための生態系評価手法の開発	岡部 貴美子	(独)森林総合研究所
委託・問題委対応	資源価値を引き出す次世代マテリアルストックに関する研究	谷川 寛樹	名古屋大学
委託・問題委対応	愛知ターゲットの調和的達成のための生物多様性可視化技術の開発	北山 兼弘	京都大学
委託・問題委対応	簡易型乾式メタン発酵による養豚排水処理と発酵残渣の有効利用	細見 正明	東京農工大学
委託・問題委対応	衛星リモートセンシングによる広域スケール生物多様性モニタリング及び予測手法の開発	原 慶太郎	東京情報大学
委託・問題委対応	一般市民の科学技術リテラシーと環境政策に関する合意形成のあり方に関する調査研究	青柳 みどり	(独)国立環境研究所
委託・問題委対応	二次的自然「里海」の短寿命生態系におけるブルーカーボン評価に関する研究	矢部 徹	(独)国立環境研究所

<2. 脱温暖化社会部会>

領域名	課題名	研究代表者	所属機関
委託・問題委対応	統合的観測解析システムの構築による全球・アジア太平洋の炭素循環の変化の早期検出	三枝 信子	(独)国立環境研究所
委託・問題委対応	わが国を中心とした温室効果ガスの長期削減目標に対応する緩和策の評価に関する研究	芦名 秀一	(独)国立環境研究所
委託・問題委対応	地球温暖化に関わるブラックカーボン放射効果の総合的評価	小池 真	東京大学
委託・問題委対応	地域インベントリ解析による環境成長拠点の計画と評価モデルの開発	藤田 壮	(独)国立環境研究所
委託・問題委対応	最近頻発し始めた新しい自然気候変動現象の予測とその社会応用	山形 俊男	(独)海洋研究開発機構
戦略・FS	気候変動の緩和策と適応策の統合的実施研究に関する検討	沖 大幹	東京大学

<3. 循環型社会部会>

領域名	課題名	研究代表者	所属機関
補助金・研究(一般)	巨大地震に耐えうる環境安全で堅牢な最終処分場の新技術開発に関する研究	島岡 隆行	九州大学
補助金・研究(一般)	水銀廃棄物の安定処分技術及び評価に関する研究	高岡 昌輝	京都大学
補助金・研究(優先)	電子機器廃棄物および処理残渣中のガリウムとインジウムの分離回収システムの構築	國仙 久雄	東京学芸大学
補助金・研究(優先)	ホタテガイ中腸腺を用いた廃電子基板からの貴金属回収技術の開発	富田 恵一	(地独)北海道立総合研究機構
補助金・研究(若手)	溶融塩電解法を用いたネオジム磁石からの希土類元素の選択的分離回収	神本 祐樹	名古屋大学
補助金・研究(優先)	将来の社会・技術変化を見据えた静脈系インフラの連携によるエネルギー回収	吉田 登	和歌山大学
補助金・研究(一般)	有用・有害金属挙動に着目した都市ごみ焼却残渣の循環資源化トータルスキームの構築	肴倉 宏史	(独)国立環境研究所
補助金・研究(一般)	廃ネオジム磁石からのレアアースのリサイクルシステムの開発	吉塚 和治	北九州市立大学
補助金・研究(優先)	放射性CsおよびSrで汚染された廃棄物の熱処理を中心とした最終処分技術に関する研究	米田 稔	京都大学
補助金・研究(一般)	アジア諸国における使用済み電気電子機器・自動車の排出量推計と金属・フロン類の回収システムの効果測定	寺園 淳	(独)国立環境研究所
補助金・研究(優先)	大量に廃棄される非飛散性アスベスト含有建材の常温分解処理と再利用法の開発と研究	田端 正明	佐賀大学
補助金・研究(優先)	汚染土壌の減容化実現に向けた粘土化学的手法の開発	佐藤 久子	愛媛大学
補助金・研究(優先)	高性能・高耐久性リサイクルプラスチック創製のための再生技術に関する基礎研究	八尾 滋	福岡大学
補助金・研究(優先)	レアメタル高度分離のための新規抽出剤の開発と高効率リサイクルプロセスの構築	後藤 雅宏	九州大学
補助金・研究(優先)	震災に伴う人工資本・自然資本ストックの損失と対策の評価	田畑 智博	神戸大学
補助金・研究(優先)	都市廃棄物からの最も費用対効果の高い資源・エネルギー回収に関する研究	藤井 実	(独)国立環境研究所
補助金・次世代(一般)	廃CRT ファンネルガラス等の無害化技術の実証化研究	門木 秀幸	鳥取県衛生環境研究所
補助金・次世代(優先)	プラスチックと金属の結合物を分離する実用機(MPセパレーター)の開発と分離材料の再資源化の促進	三島 克己	(有)サンプラスチック

<4. 自然共生型社会部会>

領域名	課題名	研究代表者	所属機関
委託・問題対応	特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発	五箇 公一	(独)国立環境研究所
委託・問題対応	小笠原諸島の自然再生における絶滅危惧種の域内域外統合的保全手法の開発	川上 和人	(独)森林総合研究所
委託・問題対応	希少植物・絶滅危惧植物の持続可能な域外保全ネットワークの構築	瀬戸口 浩彰	京都大学
委託・問題対応	途上国での生物多様性と地域社会の相乗便益を目指したセーフガード策定に関する研究	奥田 敏統	広島大学
委託・問題対応	釧路湿原にて超高密度化状態となったシカの管理を成功させる戦略と戦術	吉田 剛司	酪農学園大学
委託・問題対応	水草バイオマスの持続可能な収穫と利活用による湖沼生態系保全技術の確立	伴 修平	滋賀県立大学
委託・問題対応	持続的地域社会構築の核としての自然保護地域の評価・計画・管理・合意形成手法の開発	土屋 俊幸	東京農工大学
委託・問題対応	遺伝子編集技術を用いた不妊化魚による外来魚の根絶を目的とした遺伝子制圧技術の基盤開発	岡本 裕之	(独)水産総合研究センター
委託・問題対応	自然保護地域における協働管理のための情報交流システムの開発:奄美大島をモデルとして	鷺谷 いつみ	東京大学
委託・革新(若手)	島嶼部におけるRAKUEN指標の開発:沖縄県石垣島・パラオ共和国を事例として	飯田 晶子	東京大学
委託・革新(若手)	種内競争を用いた特定外来生物(オオヒキガエル)の駆除法の開発	原村 隆司	京都大学

<5. 安全が確保される社会部会>

領域名	課題名	研究代表者	所属機関
委託・問題対応	バイオ蛍光法によるアスベスト検出技術の実用化とナノ材料動態追跡ツールへの応用	黒田 章夫	広島大学
委託・問題対応	胎児期および幼児期における化学物質ばく露と児の発達やADHD傾向との関連性	仲井 邦彦	東北大学
委託・問題対応	水系感染微生物による水環境汚染の把握と指標微生物管理の限界に関する研究	田中 宏明	京都大学
委託・問題対応	PM2.5成分および黄砂が循環器・呼吸器疾患に及ぼす短期曝露影響に関する研究	高見 昭憲	(独)国立環境研究所
委託・問題対応	有機マーカーに着目したPM2.5の動態把握と正値行列因子分解モデルによる発生源寄与評価	熊谷 貴美代	群馬県衛生環境研究所
委託・問題対応	黄砂、PM2.5の組成別毒性評価に基づく大気モニタリングと感受性者検査システムの構築	渡部 仁成	鳥取大学
委託・問題対応	人工構造物に囲まれた内湾の干潟・藻場生態系に対する貧酸素・青潮影響の軽減策の提案	中村 由行	横浜国立大学
委託・問題対応	水銀の全球多媒体モデル構築と海洋生物への移行予測に関する研究	鈴木 規之	(独)国立環境研究所
委託・問題対応	ネオニコチノイド系農薬の環境変化体の探索とその生態影響の調査	高梨 啓和	鹿児島大学
委託・問題対応	環境化学物質によるASD等の神経発達障害と環境遺伝-エピゲノム交互作用の解明	岸 玲子	北海道大学
委託・問題対応	潜在的自己抗体保有に関する疫学調査	黒田 嘉紀	宮崎大学
委託・問題対応	大気環境の異なる地域におけるPM2.5及びオゾンの呼吸器系への影響に関する疫学研究	島 正之	兵庫医科大学
委託・問題対応	ネオニコチノイド農薬による陸域昆虫類に対する影響評価研究	中牟田 潔	千葉大学
委託・問題対応	PM2.5予測精度向上のためのモデル・発生源データの改良とエアロゾル揮発特性の評価	富田 誠治	(独)国立環境研究所
委託・問題対応	黄砂とPM2.5による複合大気汚染の肺炎、アレルギー疾患憎悪作用とメカニズム解明	市瀬 孝道	大分県立看護科学大学
委託・革新(若手)	安定同位体比を用いた二次生成粒子形成メカニズムの解明	川島 洋人	秋田県立大学

## II 地球環境等保全試験研究費（一括計上）の平成26年度新規課題公募

環境省が実施している一括計上による研究には、地球環境保全試験研究費（地球一括計上）と公害防止等試験研究費（公害一括計上）があり、いずれも競争的資金に準ずるものとして、研究課題に関する業務を行った。

一括計上における平成26年度新規課題公募については、以下の①～②の業務を実施した。

表9に平成25年度一括計上による研究課題一覧を示す。

### ① 地球環境保全試験研究費（地球一括計上）関連業務

地球一括計上による平成26年度新規課題の書面評価（採択審査）にあたり、環境省から審査に必要な書類（応募申請書一式）を借り受け、評価シート等を作成するとともに、評価に関する資

料一式を印刷し、評価委員へ発送した。評価委員は、担当 PO が委員の専門性を踏まえ、1 課題あたり 4 名を選定した。

委員による評価結果の取りまとめ及び集計を行い、担当 PO の確認を経て、書面評価結果を環境省担当官に報告した。担当した評価委員には、書面評価 1 課題あたり 1,800 円を支払った。

## ② 公害防止等試験研究費（公害一括計上）関連業務

公害一括計上については新規課題公募が行われなかった。

表 9 平成 25 年度一括計上実施研究課題一覧

<平成25年度地球環境保全試験研究費(地球一括計上)研究課題一覧>

番号	課題名	府省	研究機関	研究期間	評価対象
	アルボウイルス、水系細菌叢、媒介生物のモニタリングによる温暖化の影響評価に関する研究	厚生労働省	国立感染症研究所	H20～H24	事後
1	温暖化適応策導出のための長期森林動態データを活用した東アジア森林生態系炭素収支観測ネットワークの構築	農林水産省	(独)森林総合研究所	H21～H25	
2	吸水性エアロゾルが大気・雪水面の放射過程に与える影響のモニタリングに関する研究	国土交通省	気象研究所	H21～H25	
3	二酸化炭素の全球収支解明のための大気中酸素および炭素同位体の長期観測研究	環境省	(独)国立環境研究所	H21～H25	
4	日本における森林土壌有機炭素放出に及ぼす温暖化影響のポテンシャル評価に関する研究	環境省	(独)国立環境研究所	H22～H26	
5	民間航空機によるグローバル観測ネットワークを活用した温室効果ガスの長期変動観測	環境省 国土交通省	(独)国立環境研究所 気象研究所	H23～H27	中間
6	海洋表層CO2分圧観測国際データベース形成と海洋CO2交換広域推定に関する研究	環境省	(独)国立環境研究所	H23～H25	
7	南鳥島における微量温室効果ガス等のモニタリング	国土交通省 環境省 経済産業省	気象研究所 (独)国立環境研究所 (独)産業技術総合研究所	H23～H25	
8	センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究	農林水産省 経済産業省 環境省	(独)森林総合研究所 (独)農業環境技術研究所 (独)産業技術総合研究所 (独)国立環境研究所	H24～H28	
9	船舶観測による広域サンゴモニタリングに関する研究	国土交通省 環境省	(独)海上技術安全研究所 (独)国立環境研究所	H24～H26	中間
10	アジア・オセアニア域における長寿命・短寿命気候影響物質の包括的長期観測	環境省	(独)国立環境研究所	H24～H28	
11	環境因子の変化に伴う疾病構造変化モニタリングと中長期環境モニタリングおよび暴露調査結果を用いた環境がヒトへ与える影響の解析を行う病院コホートを利用したデータマイニングシステムの研究	厚生労働省	(独)国立国際医療研究センター	H24～H28	
12	シベリアのタワー観測ネットワークによる温室効果ガス(CO2、CH4)の長期変動解析	環境省	(独)国立環境研究所	H24～H28	
13	アジア陸域の指標生態系における温暖化影響の長期モニタリング研究	環境省 農林水産省	(独)国立環境研究所 (独)農業環境技術研究所	H25～H29	

<平成25年度公害防止等試験研究費(公害一括計上)研究課題一覧>

番号	課題名	府省	研究機関	研究期間	評価対象
	湿原流域の変容の監視手法の確立と生態系修復のための調和的管理手法の開発	農林水産省 環境省	農林水産技術会議事務局 (独)農業環境技術研究所 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 (独)国立環境研究所	H20～H24	事後
	バイオマスプラスチックのオンサイト分解制御技術の開発と環境リスク評価	農林水産省	(独)農業環境技術研究所	H22～H24	事後
	小笠原諸島における帰化生物排除後の森林の順応的管理方法の開発	農林水産省	農林水産技術会議事務局 林野庁 (独)森林総合研究所	H22～H24	事後
	種特性に基づいた里山二次林の多様性管理技術の開発	農林水産省	(独)森林総合研究所	H22～H24	事後
	ニホンジカが南アルプス国立公園の自然植生に及ぼす影響とその対策に関する研究	農林水産省 環境省	(独)森林総合研究所 (独)国立環境研究所	H22～H24	事後
	メガデルタ沿岸環境保全のための観測診断技術と管理手法の開発	経済産業省	(独)産業技術総合研究所	H20～H24	事後
	非意図的生成POPの生成挙動と排出抑制に関する研究	経済産業省	(独)産業技術総合研究所	H22～H24	事後
	希少性二枚貝と魚類をモデルとした氾濫原の生態系劣化機構の解明と自然再生に関する緊急性評価	国土交通省	(独)土木研究所	H20～H24	事後
	緑化植物による生物多様性影響メカニズム及び影響リスク評価手法に関する研究	環境省 農林水産省	自然環境局 (独)農業環境技術研究所 (独)農業・食品産業技術総合研究機構	H20～H24	事後
	廃プラスチックのリサイクル過程における有害化学物質の排出挙動と制御に関する研究	環境省	(独)国立環境研究所	H22～H24	事後
	底質酸化による閉鎖性浅海域の生物生息環境の改善	環境省	(独)国立環境研究所	H22～H24	事後
1	越境大気汚染物質が西南日本の森林生態系に及ぼす影響の評価と予測	農林水産省	農林水産技術会議事務局 (独)森林総合研究所	H21～H25	
2	生態系保全政策のための森林の生物多様性変動シミュレータの構築	農林水産省	(独)森林総合研究所	H21～H25	
3	レプンアツモリソウをモデルとした人を含む在来生態系と共生できる絶滅危惧種自生地の復元技術の研究	農林水産省	農林水産技術会議事務局 林野庁 (独)森林総合研究所	H21～H25	
4	温暖化に伴う内水域環境の変化監視情報システム構築に資する研究	経済産業省	(独)産業技術総合研究所	H21～H25	

(4) 継続課題の中間評価に関する支援業務

I 環境研究総合推進費の平成25年度実施課題の中間評価

平成25年度環境研究総合推進費における中間評価の実施にあたり、以下の①～②の業務を実施した。

① 中間評価資料の事前送付

中間評価ヒアリングに出席予定の評価委員に対して、研究代表者が作成した中間研究成果報告書を研究課題採択時の応募申請書等とともに、中間評価ヒアリングの事前資料として発送した。

② 中間評価ヒアリングに係る研究部会等の開催

中間評価ヒアリングに係る研究部会等を開催するにあたり、各委員に対し、開催のための日程調整と、開催日時の確定速報、開催通知の送付(メール及び郵送)、出欠のとりまとめを行い、

環境省に報告した。

プログラムは、対象課題の研究代表者等の出発地を考慮して時間割等を決定するとともに、当日の配付資料を環境省担当官の指示のもとに作成・印刷した。

また会議室の確保、会議に必要な設備（マイク、パソコン、プロジェクター、レーザーポインター等）の準備、飲料・昼食等の準備、会場の設営、司会及び受付などを行うとともに、委員による評価結果の集計を行い、集計結果をプリントアウトし、研究部会等における重要な結論について確認できるようにした。

ヒアリングに出席した委員には、1回あたり16,300円の出席謝金を支払うとともに、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。

研究部会等の終了後は、議事録を作成するとともに、ヒアリング当日集計した評価結果の再確認、委員コメントの浄書等を行い、出席した担当 PO による最終確認のうえ、環境省担当官に提出した。

## II 地球環境等保全試験研究費（一括計上）の平成 25 年度実施課題の中間評価

平成 25 年度一括計上における中間評価の実施にあたり、以下の①～②の業務を実施した。

### ① 地球環境保全試験研究費（地球一括計上）

地球一括計上における中間評価対象 2 課題（表 9 の「中間」を参照）の書面評価にあたり、環境省から審査に必要な書類（応募申請書一式）を借り受け、評価シート等を作成するとともに、評価に関する資料一式を印刷し、評価委員へ発送した。評価委員は、担当 PO が委員の専門性を踏まえ、1 課題あたり 4 名を選定した。

委員による評価結果の取りまとめ及び集計を行い、担当 PO の確認を経て、書面評価結果を環境省担当官に報告した。担当した評価委員には、書面評価 1 課題あたり 1,800 円を支払った。

### ② 公害防止等試験研究費（公害一括計上）

公害一括計上における中間評価対象の研究課題がなかったため、ヒアリングは行わなかった。

## （5）終了課題の事後評価に関する支援業務

### I 環境研究総合推進費の平成 24 年度終了課題の事後評価

推進費における平成 24 年度終了課題の事後評価（書面評価）の実施にあたり、委員の専門性を踏まえ、1 委員あたりの担当課題数が過大・過小にならないよう配慮しながら課題別に委員の割り当てを決定した。また、委員別に評価シート等を作成するとともに、対象課題の研究代表者が提出する終了研究成果報告書などの評価に関する資料一式を印刷し、評価委員へ発送した。その際、委員が十分な時間をもって評価に当たることができるよう配慮しながら、委員による評価結果の取りまとめ及び集計を行い、担当 PO の確認を経て、事後評価結果を環境省担当官に報告した。

また担当 PO は、事後評価結果をもとに事後評価個票の「委員の指摘及び提言概要」をまとめ、研究部会において報告し、内容及び文面の確定を行った。なお委員コメントの難解なものについては、委員に直接問い合わせるなどして、個票の完成度を高めた。

担当した評価委員には、書面評価 1 課題あたり 1,800 円を支払った。

事後評価対象課題（平成 24 年度終了課題）については、表 10 に一覧を示す。



表 10 平成 25 年事後評価対象課題一覧（平成 24 年度終了）

<全領域共通・領域横断部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間
問題対応	A-1001	埋立地ガス放出緩和技術のコペネフィットの比較検証に関する研究	山田 正人	(独)国立環境研究所	H22 ~ H24
革新	RFb-1102	播磨灘の栄養塩異変の解明と栄養塩流入負荷の変動要因の研究	石塚 正秀	香川大学	H23 ~ H24
	RFc-1101	観光客参加型食べ残しメタン発酵温泉エネテックの構築のための研究	多田 千佳	東北大学	H23 ~ H24
	RFf-1101	溶融塩電解精製による太陽電池用Siのリサイクルおよび製造方法の開発	大石 哲雄	(独)産業技術総合研究所	H23 ~ H24
	RFe-1201	環境面を強化したポストMDGsの開発とその実現のための国際制度に関する研究	蟹江 憲史	東京工業大学	H24 ~ H24

<脱温暖化社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間
問題対応	A-1002	日本海深層の無酸素化に関するメカニズム解明と将来予測	荒巻 能史	(独)国立環境研究所	H22 ~ H24
	A-1003	北極高緯度土壌圏における近未来温暖化影響予測の高精度化に向けた観測及びモデル開発研究	内田 昌男	(独)国立環境研究所	H22 ~ H24
	E-1001	アジア低炭素社会の構築に向けた緩和技術のコペネフィット研究	内山 洋司	筑波大学	H22 ~ H24
	E-1003	次世代自動車等低炭素交通システムを実現する都市インフラと制度に関する研究	森川 高行	名古屋大学	H22 ~ H24
革新	RFa-1101	温暖化影響評価のためのGPS衛星を用いた高精度水蒸気量データセットの作成	藤田 実季子	(独)海洋研究開発機構	H23 ~ H24
	RFa-1102	海洋からの硫化ジメチルおよび関連有機化合物のフラックス実計測とガス交換係数の評価	谷本 浩志	(独)国立環境研究所	H23 ~ H24
	RFa-1202	地球環境観測データとモデル統合化による炭素循環変動把握のための研究ロードマップ策定	笹野 泰弘	(独)国立環境研究所	H24 ~ H24
【復興枠】 問題対応	ZE-1201	震災復興におけるコミュニティベースの太陽光普及モデル事業の提案	古谷 知之	慶應義塾大学	H24 ~ H24

<循環型社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間
研究事業	K2401	食用油製造工程で排出する遊離脂肪酸残渣油を原料とした高品質バイオディーゼル燃料の連続製造技術の開発	米本 年邦	東北大学	H22 ~ H24
	K2402	不法投棄等現場の堆積廃棄物の斜面安定性評価	山脇 敦	(財)産業廃棄物処理事業振興財団	H22 ~ H24
	K2403	高度省エネ低炭素社会型浄化槽の新技术・管理システム開発	稲森 悠平	福島大学	H22 ~ H24
	K2404	未利用リン資源の有効活用に向けたリン資源循環モデル開発	松八重 一代	東北大学	H22 ~ H24
	K2405	消費者の環境配慮行動支援のための情報提供システムの構築	平尾 雅彦	東北大学	H22 ~ H24
	K2406	インライン型水中プラズマによる有機フッ素化合物の完全分解とフッ素回収	安岡 康一	東京工業大学	H22 ~ H24
	K2407	コンポスト施用の安全性と有効性の微生物学的評価法の確立	足立 伸一	大阪府立公衆衛生研究所	H22 ~ H24
	K2408	使用済みインクカートリッジから回収されたインク廃液の再資源化技術の構築—インク中のカーボンブラックを利用した安価な高強度チタン材の開発	近藤 勝義	大阪大学	H22 ~ H24
	K2409	持続可能な社会を支えるインフラとしての浄化槽の環境影響評価手法の開発	西村 修	東北大学	H22 ~ H24
	K2410	バイオマスの利活用を基軸とした地域循環圏のモデル化と普及方策に関する研究	古市 徹	北海道大学	H22 ~ H24
	K2411	変異・融合酵母による稲葉の高度エタノール発酵技術の開発	田中 修三	明星大学	H22 ~ H24
	K2412	有機フッ素化合物の最終処分場における環境流出挙動の解明と対策技術に関する研究	松村 千里	(財)ひょうご環境創造協会	H22 ~ H24
	K2413	望ましい地域循環圏形成を支援する評価システムの構築とシナリオ分析	松本 亨	北九州市立大学	H22 ~ H24
	K2414	マグネシウム-アルミニウム酸化物を利用した新規排煙脱硫法、脱硝法の開発	亀田 知人	東北大学	H22 ~ H24
	K2415	いわて発戦略的地産地消型リン資源循環システムの研究	菅原 龍江	(地独)岩手県工業技術センター	H22 ~ H24
	K2416	廃棄物処理処分に伴い排出される副産物のリサイクルシステムの構築に関する研究	樋口 壯太郎	福岡大学	H22 ~ H24
	K2417	地域におけるバイオマス利活用の事業、経済性分析シナリオの研究	近藤 加代子	九州大学	H22 ~ H24
	K2418	回収リン資源を利用した大気・水質汚染物質の除去技術の開発	西川 治光	岐阜県保健環境研究所	H22 ~ H24
	K2419	ごみ焼却排熱有効利用に向けた常温熱輸送・常温蓄熱の実験的評価	秋澤 淳	東京農工大学	H22 ~ H24
	K2420	地域活性化をめざしたバイオマス利用技術戦略の立案手法の構築	稲葉 隆太	(独)国立環境研究所	H22 ~ H24
	K112003	アジア地域大におけるリサイクル認証制度の導入可能性に関する研究	堀田 康彦	(財)地球環境戦略研究機関	H23 ~ H24
	K112005	有機性廃棄物からの高効率有機発酵技術の開発および反応機構解析	日高 平	京都大学	H23 ~ H24
	K112007	木質系バイオマスの量子ビームによる高効率糖化処理技術の開発と評価	太田 万理	光産業創成大学	H23 ~ H24
	K112020	微生物酵素活性の利用による有機性廃棄物からのリン再資源化に関する研究	橋本 洋平	三重大学	H23 ~ H24
	K112031	無機層状酸化物を用いたレアメタル回収に関する研究	熊田 伸弘	山梨大学	H23 ~ H24
	K112033	草木質系バイオマスの常温脱水脱油技術による石炭・油代替燃料への転換	神田 英輝	(財)電力中央研究所	H23 ~ H24

次世代事業	J112001	水熱ガス化プロセスによる工場排水の処理・燃料ガス製造技術の実証試験	松本 信行	大阪ガス㈱	H23 ~ H24
	J112002	世界の廃棄物処理展開を目指した低炭素型シャフト炉の開発	高田 純一	新日本エンジニアリング㈱	H23 ~ H24
	J112004	廃棄物からのバイオマスの回収とエタノール変換技術の開発	富山 茂男	日立造船㈱	H23 ~ H24
	J112006	カーバイド法アセチレン製造における副産消石灰リサイクル技術の開発	行木 正信	電気化学工業㈱	H23 ~ H24
	J112008	し尿、浄化槽汚泥からの高効率リン回収(HAP)技術の開発	奥野 芳男	アタカ大機㈱	H23 ~ H24

<自然共生型社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間
問題対応	D-1001	野草類の土壌環境に対する生育適性の評価と再生技術の開発	平館 俊太郎	(独)農業環境技術研究所	H22 ~ H24
	D-1002	湖沼生態系のレトロスペクティブ型モニタリング技術の開発	占部 城太郎	東北大学	H22 ~ H24
	D-1003	野生動物保護管理のための将来予測および意思決定支援システムの構築	坂田 宏志	兵庫県立大学	H22 ~ H24
	D-1004	魚介類を活用したトップダウン効果による湖沼生態系保全システム開発に関する研究	澤田 宣雄	滋賀県水産試験場	H22 ~ H24
	D-1005	生態系サービスから見た森林劣化抑止プログラム(REDD)の改良提案とその実証研究	奥田 敏統	広島大学	H22 ~ H24
	D-1006	熱帯林のREDDIにおける生物多様性保護コベネフィットの最大化に関する研究	北山 兼弘	京都大学	H22 ~ H24
	D-1007	高人口密度地域における孤立した霊長類個体群の持続的保護管理	古市 剛史	京都大学	H22 ~ H24
	D-1008	生物多様性情報学を用いた生物多様性の動態評価手法および環境指標の開発・評価	伊藤 元己	東京大学	H22 ~ H24
	E-1002	地域住民のREDDへのインセンティブと森林生態資源のセミメスティーケーション化	小林 繁男	京都大学	H22 ~ H24
革新	RF-1002	水田のイネ根圏に棲息する脱窒を担う微生物群の同定・定量と窒素除去への寄与の解明	寺田 昭彦	東京農工大学	H22 ~ H24
	RFd-1101	遺伝子情報に立脚した開花時期予測モデルの開発:一斉開花現象の分子レベルでの解明	佐竹 暁子	北海道大学	H23 ~ H24
	RFd-1102	絶滅危惧種の多様性情報学と域外保全技術開発:車軸藻類を例に	坂山 英俊	神戸大学	H23 ~ H24

<安全が確保される社会部会>

研究区分	課題番号	課題名	研究代表者	所属機関	研究期間
問題対応	B-0806	擬似分子鑄型を用いた環境汚染物質の選択的捕捉技術の開発	細矢 憲	京都府立大学	H20 ~ H24
	B-0807	新規ナノマテリアルを用いた超フレキシブル有機太陽電池の研究	表 研次	㈱イデアルスター	H20 ~ H24
	B-1001	有明海北東部流域における溶存態ケイ素流出機構のモデル化	熊谷 博史	福岡県保健環境研究所	H22 ~ H24
	B-1003	貧酸素水塊が底棲生物に及ぼす影響評価手法と底層DO目標の達成度評価手法の開発	堀口 敏宏	(独)国立環境研究所	H22 ~ H24
	B-1004	浅い閉鎖性水域の底質環境形成機構の解析と底質制御技術の開発	西村 修	東北大学	H22 ~ H24
	B-1005	環境基準項目の無機物をターゲットとした現場判定用高感度ナノ薄膜試験紙の開発	高橋 由紀子	長岡技術科学大学	H22 ~ H24
	B-1006	先端的単一微粒子内部構造解析装置による越境汚染微粒子の起源・履歴解明の高精度化	藤井 正明	東京工業大学	H22 ~ H24
	B-1007	海ゴミによる化学汚染物質輸送の実態解明とリスク低減に向けた戦略的環境教育の展開	磯辺 篤彦	愛媛大学	H22 ~ H24
	B-1008	山岳を観測タワーとした大気中水銀の長距離越境輸送に係わる計測・動態・制御に関する研究	永淵 修	滋賀県立大学	H22 ~ H24
	C-0803	人工組織ナノデバイスセンサー複合体を活用した多角的健康影響評価システムの開発	持立 克身	(独)国立環境研究所	H20 ~ H24
	S2-11	風力発電等による低周波音の人への影響評価に関する研究	橘 秀樹	千葉工業大学	H22 ~ H24
	C-1001	わが国都市部のPM2.5に対する大気質モデルの妥当性と予測誤差の評価	速水 洋	(財)電力中央研究所	H22 ~ H24
	C-1002	ディーゼル起源ナノ粒子内部混合状態の新しい計測法(健康リスク研究への貢献)	藤谷 雄二	(独)国立環境研究所	H22 ~ H24
	C-1003	HBOD等の製品中残留性化学物質のライフサイクル評価と代替比較に基づくリスク低減手法	益永 茂樹	横浜国立大学	H22 ~ H24
	C-1004	産業環境システムの耐リスク性	東海 明宏	大阪大学	H22 ~ H24
	C-1005	大気中粒子状物質の成分組成及びオゾンが気管支喘息発作に及ぼす影響に関する疫学研究	島 正之	兵庫医科大学	H22 ~ H24
	C-1006	妊婦の環境由来化学物質への曝露が胎盤栄養素輸送機能に与える影響の研究	柴田 英治	産業医科大学	H22 ~ H24
	C-1007	化学物質の複合曝露による健康リスク評価に関する分子毒性的研究	菅野 純	国立医薬品食品衛生研究所	H22 ~ H24
	C-1008	エピゲノム変異に着目した環境由来化学物質の男性精子への影響に関する症例対照研究	有馬 隆博	東北大学	H22 ~ H24
	革新	RF-1001	気中パーティクルカウンタを現場にて校正するためのインクジェット式エアロゾル発生器の開発	飯田 健次郎	(独)産業技術総合研究所
RF-1003		環境ストレスが及ぼす生物影響の評価手法の開発	北野 健	熊本大学	H22 ~ H24
RF-1004		水生・底生生物を用いた総毒性試験と毒性同定による生活関連物質評価・管理手法の開発	山本 裕史	徳島大学	H22 ~ H24
RF-1005		遺伝毒物学を使った、ハイスループットな有害化学物質検出法の開発	廣田 耕志	首都東京大学	H22 ~ H24
RFb-1101		ベンゼン汚染土壌・地下水の嫌氣的生物浄化技術の開発	栗栖 太	東京大学	H23 ~ H24
RFb-1103		大気微小粒子におけるハロゲン化芳香族類の発生源と二次的生成能の解明	大浦 健	名城大学	H23 ~ H24
【復興枠】革新	ZRFb-12T1	流域に沈着した放射性物質の移動と消長に関する文献調査および知見整理	古米 弘明	(社)日本水環境学会	H24 ~ H24

## Ⅱ 地球環境等保全等試験研究費（一括計上）の平成 24 年度終了課題の事後評価

一括計上における平成 24 年度終了課題の事後評価（書面評価）の実施にあたり、以下の①～②の業務を実施した。

### ① 地球環境保全試験研究費（地球一括計上）

地球一括計上における事後評価対象 1 課題（表 9 の「事後」を参照）の書面評価にあたり、環境省から審査に必要な書類（応募申請書一式）を借り受け、評価シート等を作成するとともに、評価に関する資料一式を印刷し、評価委員へ発送した。評価委員は、担当 PO が委員の専門性を踏まえ、1 課題あたり 4 名を選定した。

委員による評価結果の取りまとめ及び集計を行い、担当 PO の確認を経て、書面評価結果を環境省担当官に報告した。担当した評価委員には、書面評価 1 課題あたり 1,800 円を支払った。

### ② 公害防止等試験研究費（公害一括計上）

公害一括計上における事後評価対象 11 課題（表 9 の「事後」を参照）の事後評価ヒアリングに係る研究部会等を開催するにあたり、各委員に対し、開催のための日程調整と、開催日時の確定速報、開催通知の送付（メール及び郵送）、出欠のとりまとめを行い、環境省に報告した。

プログラムは、対象課題の研究代表者等の出発地を考慮して時間割等を決定するとともに、当日の配付資料を環境省担当官の指示のもとに作成・印刷した。

また会議室の確保、会議に必要な設備（マイク、パソコン、プロジェクター、レーザーポインター等）の準備、飲料・昼食等の準備、会場の設営、司会及び受付などを行うとともに、委員による評価結果の集計を行い、集計結果をプリントアウトし、研究部会等における重要な結論について確認できるようにした。

ヒアリングに出席した委員には、1 回あたり 16,300 円の出席謝金を支払うとともに、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠した方法で旅費の支払いを行った。

研究部会等の終了後は、議事録を作成するとともに、ヒアリング当日集計した評価結果の再確認、委員コメントの浄書等を行い、出席した担当 PO の最終確認のうえ、環境省担当官に提出した。

## （6）平成 24 年度環境研究総合推進費の研究成果の取りまとめに関する業務

推進費（委託費）における平成 24 年度終了課題について、対象課題の研究代表者から提出された終了研究成果報告書の原稿を取りまとめるにあたり、担当 PO はチェック項目に沿って内容をチェックし、必要に応じて研究代表者に修正させ、原稿の再提出を依頼した。修正された原稿は完成稿として取りまとめ、環境省に提出した。

PO によるチェックは、環境省指定の書式（フォント、余白等）に準拠しているか等の確認のほか、以下の視点でも行なわれた。

- ・ 様式、図表の番号・配置・見やすさ（公表した際のコントラストと凡例・図内文字の大きさ等）、明らかな科学的誤り（数値、有効数字、単位を含む）、論旨の不明瞭な表現、同一文節の不要な重複記載、漢字の誤変換及び「てにをは」の不適切使用などを指摘した。
- ・ 「報告書の作成責任は研究代表者にあり、PO はよりよい報告書を作成するための補助的作業を行なう」との原則に沿って、PO のチェック結果を最終的にどのように報告書（完成稿）に取り入れるかは、研究代表者の判断に委ねた。

## （7）一般国民向け成果発表会の運営

### ① 一般枠の研究課題に係る一般国民向け成果発表会の運営

推進費（一般枠）による研究課題のうち平成 24 年度終了課題について、一般国民を対象とした

成果発表会を開催した。

成果発表会を開催するにあたり、平成 24 年度推進費終了課題（一般枠）の中から、事後評価結果等を踏まえ、一般国民向けの趣旨に適した 6 課題を選定し、発表課題の研究代表者及び環境省担当官と協議のうえ、開催日時・場所、プログラムを決定した。

開催について広く周知するため、チラシ 500 部を作成して配布したほか、関連学会及び団体等のホームページへの情報掲載を依頼した。

また発表課題の研究代表者には、配布資料及び発表資料の作成を依頼し、配布資料については編集及び印刷のうえ、当日参加者に配布した。

成果発表会当日は、会議に必要な設備（マイク、パソコン、プロジェクター、レーザーポインター等）の準備、飲料等の準備、会場の設営、司会及び受付などを行うとともに、参加者に対してアンケート調査を実施した。アンケート調査は結果を取りまとめて環境省に提出した（資料 4 を参照）。

成果発表会で発表した研究代表者等には、国家公務員等の旅費に関する法律に準拠のうえ旅費支払いを行った。

成果発表会の開催概要は以下の通りである。

名称：平成 25 年度環境研究総合推進費研究成果発表会「環境研究の最前線」

日時：平成 25 年 10 月 30 日（水）13：00～16：30

場所：都道府県会館 101 大会議室（東京都千代田区平河町 2-6-3）

発表課題及び発表者：

「溶存酸素濃度に対する環境基準：生き物集団を護る考え方と試案」

堀口敏宏（(独)国立環境研究所）

「電気自動車等による低炭素の交通社会に向けインフラや制度はどうあるべきか」

安藤 章（(株)日建設計総合研究所・名古屋大学）

「地域循環圏：地域と資源の特性に応じて考える循環型社会」

松本 亨（北九州市立大学）

「Pay it forward! あなたの食べ残しゴミで、ガス灯をともしよう。～鳴子温泉の環境にやさしいツアー；エネツーリズム～」

多田千佳（東北大学）

「風車騒音の実態調査の結果」

橘 秀樹（千葉工業大学）

「どのように被害を出す野生動物と共存していくか？－情報収集と意思決定の仕組みづくり－」

坂田宏志（兵庫県立大学）

## ② 復興枠の研究課題に係る一般国民向け成果発表会の運営

推進費（復興枠）による研究課題のうち、平成 24 年度終了課題または平成 25 年度実施課題について、一般国民を対象とした成果発表会を開催するにあたり、一般国民向けの趣旨に適した 6 課題を選定し、開催日時・場所、プログラム等を検討したが、環境省と協議した結果、その実施を見送ることになった。

### （8）平成 25 年度推進費パンフレット等の作成

推進費の成果をより広く国民に周知し、また、国際的な環境研究の促進に寄与するため、和文版パンフレット 2,000 部及び英文版パンフレット 300 部を作成・印刷し、電子データとともに環境省に納品した。

パンフレットの作成にあたり、各部会から掲載する研究課題を選定し、環境省担当官と協議の

うえ、デザイン、構成及び台割等を決定した。

掲載課題の研究代表者には、作成要領を送付し原稿作成を依頼した。作成された原稿については、研究内容に齟齬がないか担当 PO が確認し、校正を重ねた。また推進費の紹介や仕組み、実施課題一覧などについては、環境省担当官と確認を取りながら、編集・校正を行った。

### (9) 研究動向等の把握

環境行政の動きを注視しつつ、関係論文の収集や関係学会への参加などを行い、最新の研究動向について情報収集を図った。

主として研究代表者等の関連学会に出席し、研究課題の発表や学会への貢献等に対する評価などを把握した。また学術雑誌に掲載された文献（電子版を含む）や書籍からも情報を得るとともに、公開シンポジウムなどにも参加した。

参加した学会・公開シンポジウム等については、参加報告書を作成し、ポータルサイトの共有フォルダに掲載して情報の共有化を図った。

表 11 に学会等参加実績を示し、学会等の参加報告書は資料 5 に示す。

なお 8 月末に、中間報告として以下の内容を環境省に報告した。

学会への参加は、これまで日本気象学会春季大会、日本地球惑星科学連合、日本エネルギー学会の 3 件である。気象学会においては、気象学は今や大気科学としての環境問題に直接関係することから、気象庁および環境省とのさらなる連携の必要性が議論された。また前記 2 学会においては、観測とモデルの統合研究、国際研究コミュニティでの我が国のプレゼンスを高め、研究の重要性が議論された。日本エネルギー学会においては、民主主義下における長期的課題に対する対処問題や、種々のエネルギー・環境課題の動向が議論された。これら学会における研究者側の議論が、研究資金供給側にも適切に伝えられる必要がある。

参加予定の各種学会は、秋以降、多数予定されているので、さらに有効な情報の収集に努めたい。これらの情報を推進費の運営に生かせるよう、PO 業務としてシステム化を図ることが望ましい。

表 11 学会等参加実績

学会	開催日	開催場所
日本気象学会2013年度春季大会	5月15日(水)～18日(土)	国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区)
日本地球惑星科学連合2013年大会	5月19日(日)～24日(金)	幕張メッセ国際会議場(千葉)
第22回日本エネルギー学会大会	8月5日(月)～6日(火)	工学院大学新宿キャンパス(新宿区)
第62回高分子討論会	9月11日(水)～13日(金)	金沢大学角間キャンパス(金沢)
化学工学会第45回秋季大会	9月16日(月)～18日(水)	岡山大学津島キャンパス(岡山)
第54回大気環境学会年会	9月18日(水)～20日(金)	新潟コンベンションセンター(新潟)
環境経済・政策学会2013年大会	9月21日(土)～22日(日)	神戸大学(神戸)
水文・水資源学会	9月25日(水)～27日(金)	神戸大学(神戸)
第24回廃棄物資源循環学会研究発表会	11月2日(土)～4日(月)	北海道大学(札幌)
日本気象学会2013年度秋季大会	11月19日(火)～21日(木)	仙台国際センター(仙台)
第9回日本LCA学会研究発表会	3月4日(火)～6日(木)	芝浦工業大学豊洲キャンパス(江東区)
第61回日本生態学会大会	3月14日(金)～18日(火)	広島国際会議場(広島)
化学工学会第79年会	3月18日(火)～20日(木)	岐阜大学柳戸キャンパス(岐阜)

表題	主催	開催日	開催場所
公開シンポジウム「私たちのくらしと森林・木材の放射能 ―森林総研が解き明かすその実態と今後―」	(独)森林総合研究所	7月18日(木)	木材会館(江東区)
公開シンポジウム「気候変動のリスクを知る」～リスク情報の創り方～	(独)海洋研究開発機構	9月25日(水)	国際連合大学(渋谷区)
公開講演会「技術イノベーションで広がる林業・木材産業」	(独)森林総合研究所	10月9日(水)	イイノホール(千代田区)
公開セミナー「気候変動とエネルギー/持続可能な社会のための政策統合「アジアにおける低炭素都市形成セミナー」	(公財)地球環境戦略研究機関 環境省	10月22日(火)	パシフィコ横浜会議センター(横浜)
6th International Symposium on Nanotechnology, Occupational and Environmental Health	第6回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム日本委員会	10月28日(月)～31日(木)	名古屋国際会議場(名古屋)
International Cooperative for Aerosol Prediction (ICAP) 5th working group meeting : Recent Progress in Aerosol Observability for Global Modeling	気象庁気象研究所 (独)宇宙航空研究開発機構	11月7日(木)	つくば国際会議場(つくば)
NIES Arsenic Workshop 2013	(独)国立環境研究所	12月10日(火)	(独)国立環境研究所(つくば)
公開セミナー「国連気候変動枠組条約/COP19及びCMP9報告セミナー」	(一財)地球産業文化研究所 (公財)地球環境戦略研究機関	1月9日(木)	全社協灘尾ホール(千代田区)
生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)第2回総会の報告会	環境省	1月30日(木)	東京国際フォーラム(千代田区)

### (10) 推進費の運営に係る改善提案

本業務実施の過程で把握した推進費運営上の課題及び改善提案について、8月末に中間報告として以下のように取りまとめて環境省に報告した。

#### 1. 平成25年度課題の進捗に関して

- ・当年度用の委託業務実施マニュアルの公開が遅れており、特に新規課題代表者に対して研究実施上の各種ルールが徹底されていないことが、委託契約上の問題を生じさせないか懸念される。年度当初からマニュアルの提示が可能となるよう、前年度作業としてマニュアル案の作成を開始しておく必要がある。

#### 2. 終了成果等報告書のPO取りまとめ業務に関して

- ・終了成果等報告書の点検段階で気のついた作成要領に係る事項については、必要に応じて個別に技術室との間で連携し解決を図った。さらに、作成要領の明瞭かつシンプル化に向けて

努力し、これを今年度末報告書作成に生かすため、作成要領準備の手順・日程に関して情報を共有したい。

- ・ある課題代表者から、環境省の指示に従った形式の終了報告書の HP 公開拒否の問題があった。本来、環境省が課題代表者へ報告書執筆依頼を出した時点で、その文書の HP 公開は前提されているものと理解できる。しかしさらに、HP 公開の方針のより総括的な説明の追加や、提出の義務に関する課題代表者と環境省の間の契約手続きの必要性の検討が指摘できる。
- ・現在、HP 公開を前提として終了成果報告書を提出・改訂作業をさせていることから、然るべき早期に公開を実施することが望まれる。

### 3. 中間ヒアリングに関して

- ・中間評価の方法として、昨年度からヒアリング評価のみとなり、この方針は部会の中で定着してきた。部会では幅広い視点からの公平な審査となるべきことと同時に、委員意見の収束が必要である。部会運営に関し委員長のリーダーシップの下、部会各委員と委員長の認識の共有が要請される。
- ・中間評価個票については終了評価個票と同様に、中間研究等成果報告書に記載の研究計画、研究の進捗状況、環境政策への貢献をカット&ペーストするのが望ましい。ただし研究の進捗状況の文章量が多くなりがちなのが課題であり、適切な分量の進捗状況概要を付すことなどを検討すべきである。

### 4. 行政との連携に関して

- ・昨年来、行政と研究を結びつける、連携させるということで、今年度はアドバイザーボード (AD) 会合への行政サイドからの出席の強い推奨、公募段階での説明の適切化への議論の深化などの努力が図られている。それは、すでに PO の出席する AD 会合の運営などに生かされつつある。また各 AD 会合の終了直後に PO が提出する研究管理進捗チェックリストは行政ニーズの把握、各課題の研究推進方向への議論誘導の面において、PO にとっても意義がある。行政担当窓口各位におかれてもチェックリスト記載の情報を有効に生かされることを期待したい。

## 4. その他

平成 25 年度に実施した環境研究総合推進費研究管理・検討委託業務における付属資料として、以下の資料 1～5 に示す。

- 資料 1 業務日誌 (月別)
- 資料 2 継続課題 (復興枠) 中間報告会
- 資料 3 終了課題の成果報告会
- 資料 4 一般国民向け成果発表会
- 資料 5 学会等の参加報告書





## 資料 1 業務日誌（月別）



業務実施内容	
4月	
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 AD会合の日程調整 POPD打ち合わせ
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 事後評価個票のコメント取りまとめ 1ZF-1203AD会合(7/5) S-11AD会合(7/25~27) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12) 推進費(復興枠)中間報告会(7/10) 推進費中間評価ヒアリング(全領域:7/19) 森林総研公開シンポジウム(7/18)
8月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 推進費中間評価ヒアリング(自然:8/8) 中間評価議事録・コメントの点検 中間評価個票のコメント取りまとめ POPD打ち合わせ 1-1304AD会合(8/2)
9月	担当課題代表者への事務連絡 1ZE-1202AD会合(9/9) 環境経済・政策学会(9/21~22) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12)
10月	担当課題代表者への事務連絡 森林総研公開講演会(10/9) POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡 S-10拡大AD会合(11/1) 1E-1106AD会合(11/8) 1E-1105AD会合(11/21) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12)
12月	担当課題代表者への事務連絡 1E-1104AD会合(12/10) 1ZE-1203AD会合(12/12) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ
1月	担当課題代表者への事務連絡 1RF-1301AD会合(1/10) S-11AD会合(1/16) S-11公開シンポジウム(1/17) 1RFF-1201AD会合(1/21) AD会合等報告書の作成 POPD打ち合わせ 1E-1106国際ワークショップ(1/22) 1E-1105公開シンポジウム(1/25) 推進費事前評価ヒアリング(全領域:1/29) 推進費事前評価ヒアリング(自然:1/30) 推進費事前評価ヒアリング(脱温暖:1/31)
2月	担当課題代表者への事務連絡 1E-1103AD会合(2/3) 1-1304ワークショップ(2/20) 1E-1106公開シンポジウム(2/24) 事前評価議事録・コメントの点検 AD会合等報告書の作成 POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 推進費事前評価ヒアリング(S-13:2/6) 推進費事前評価ヒアリング(S-12:2/10) 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13)
3月	担当課題代表者への事務連絡 1E-1103国際シンポジウム(3/1) 1E-1202AD会合(3/11) 第61回日本生態学会(3/14~18) AD会合等報告書の作成 学会報告書の作成 POPD打ち合わせ

	業務実施内容	
4月		
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読	POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 AD会合の日程調整	POPD打ち合わせ 1F-1102AD会合(6/4) S-10第11回総合化会議(6/10)
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 事後評価個票のコメント取りまとめ 推進費(復興枠)中間報告会(7/10) 推進費中間評価ヒアリング(全領域:7/19) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12) 1F-1201AD会合(7/3) 1B-1103AD会合(7/5) S-10第12回総合化会議(7/25)
8月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 AD会合報告書の作成 推進費パンフレット原稿の点検 中間評価議事録・コメントの点検 中間評価個票のコメント取りまとめ	POPD打ち合わせ 1-1303AD会合(8/19)
9月	担当課題代表者への事務連絡 1ZF-1201AD会合(9/2) 1ZF-1202AD会合(9/6) 化学工学会第45回秋季大会(9/16~18) AD会合報告書の作成 学会報告書の作成	POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12)
10月	担当課題代表者への事務連絡 1E-1101AD会合(10/21) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡 S-10拡大AD会合(11/1) S-10第13回総合化会議(11/1) 1-1302AD会合(11/26) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12) 推進費新規課題プレ審査(11/20)
12月	担当課題代表者への事務連絡 1F-1201AD会合(第2回:12/3) S-10国際ワークショップ(12/4~5) 1F-1201フォーラム(12/13) 1-1301AD会合(12/17) AD会合等報告書の作成	POPD打ち合わせ
1月	担当課題代表者への事務連絡 S-10第15回総合化会議(1/23) IPBES第2回総会の報告会(1/30) AD会合等報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費事前評価ヒアリング(全領域:1/29)
2月	担当課題代表者への事務連絡 1E-1101AD会合(第2回:2/14) 1E-1101国際ワークショップ(2/14) 事前評価議事録・コメントの点検 AD会合等報告書の作成	POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 推進費事前評価ヒアリング(S-13:2/6) 推進費事前評価ヒアリング(S-12:2/10) 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13)
3月	担当課題代表者への事務連絡 1-1303AD会合(第2回:3/3) 日本LCA学会(3/4、3/6) 化学工学会第79年会(3/18~20) AD会合報告書の作成 学会報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)

業務実施内容	
4月	
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 日本気象学会春季大会(5/15、5/17) 日本地球惑星科学連合大会(5/22) 学会報告書の作成 POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 AD会合の日程調整 POPD打ち合わせ
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 事後評価個票のコメント取りまとめ 第1回S-12検討会(7/3) 推進費中間評価ヒアリング(脱温暖:7/29) POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12) 2E-1201AD会合(7/25) 2E-1203AD会合(7/26) S-8サブテーマ会合(7/31) AD会合報告書の作成
8月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 中間評価個票のコメント取りまとめ 中間評価議事録・コメントの点検 第2回S-12検討会(8/2) 推進費中間評価ヒアリング(自然:8/8) POPD打ち合わせ 2A-1102公開シンポジウム(8/6) 2A-1101AD会合(8/9) 2-1302AD会合(8/19) AD会合報告書の作成
9月	担当課題代表者への事務連絡 2A-1101環境省打ち合わせ(9/4) 2A-1201AD会合(9/9) 2A-1101研究者打合せ(9/9) 2A-1103AD会合(9/30) POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12) AD会合報告書の作成 JAMSTEC公開シンポジウム(9/25)
10月	担当課題代表者への事務連絡 S-6公開シンポジウム(10/17) 2A-1202AD会合(10/28) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡 S-10拡大AD会合(11/1) S-8拡大AD会合(11/6) 2-1303AD会合(11/14) 2RF-1304AD会合(11/25) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12) 推進費新規課題プレ審査(11/20) ICAPミーティング(11/7) 日本気象学会秋季大会(11/21) S-8公開シンポジウム(11/26)
12月	担当課題代表者への事務連絡 2RF-1302AD会合(12/2) 2RF-1303AD会合(12/6) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ
1月	担当課題代表者への事務連絡 2RF-1301AD会合(1/10) 2-1301AD会合(1/17) 2RFa-1201AD会合(1/21) 2A-1203AD会合(1/22) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費事前評価ヒアリング(全領域:1/29) 推進費事前評価ヒアリング(自然:1/30) 推進費事前評価ヒアリング(脱温暖:1/31)
2月	担当課題代表者への事務連絡 S-6AD会合(2/3) 2A-1102AD会合(2/5) 2-1304AD会合(2/28) AD会合報告書の作成 事前評価議事録・コメントの点検 POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 推進費事前評価ヒアリング(S-13:2/6) 推進費事前評価ヒアリング(S-12:2/10) 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13)
3月	担当課題代表者への事務連絡 2RF-1302打ち合わせ(3/3) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)

	業務実施内容	
4月		
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 補助金(復興枠)中間報告会(5/24) 現地調査の日程調整	POPD打ち合わせ 3K113010現地調査(5/14)
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 行政ニーズ検討会打合せ(6/14) 行政ニーズ検討会(6/24)	POPD打ち合わせ 3J123003現地調査(6/17) 3K123007現地調査(6/20) 3K123015現地調査(6/25) 3K123003現地調査(6/27)
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 推進費(復興枠)中間報告会(7/10) 推進費中間評価ヒアリング(循環:7/30~31)	POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12) 3K123019 現地調査(7/1) 3K123023 現地調査(7/18)
8月	担当課題代表者への事務連絡 推進費中間評価ヒアリング(自然:8/8) 現地調査報告書の作成 事後・中間評価個票のコメント取りまとめ 中間評価議事録・コメントの点検	POPD打ち合わせ
9月	担当課題代表者への事務連絡 継続課題年次報告書の精読	POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12)
10月	担当課題代表者への事務連絡 3K113026現地調査(10/3) 3K113004現地調査(10/7) 環境省との打ち合わせ(10/24) 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡 第24回廃棄物資源循環学会(11/1~3) 3J113003現地調査(11/22) 3K113016現地調査(11/28) 3J113007現地調査(11/29)	POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12) 推進費新規課題プレ審査(11/20) 現地調査報告書の作成 学会報告書の作成
12月	担当課題代表者への事務連絡 3K113003現地調査(12/2) 3K113018現地調査(12/5) 3K113006現地調査(12/11) 3J113001現地調査(12/9) 3K113007現地調査(12/12)	POPD打ち合わせ 3K113009現地調査(12/16) 3K113005現地調査(12/18) 3K113001現地調査(12/25) 現地調査報告書の作成
1月	担当課題代表者への事務連絡 3K113011現地調査(1/9) 3K113032現地調査(1/16) 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費事前評価ヒアリング(循環:1/23~24) 推進費事前評価ヒアリング(全領域:1/29) 推進費事前評価ヒアリング(自然:1/30) 推進費事前評価ヒアリング(脱温暖:1/31)
2月	担当課題代表者への事務連絡 補助金(復興枠)アドバイザー委員会(2/26) 事前評価議事録・コメントの点検 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 推進費事前評価ヒアリング(S-12:2/10) 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13)
3月	担当課題代表者への事務連絡 第9回日本LCA学会(3/4、3/6) 3K113003現地調査(第2回:3/14~15) 現地調査報告書の作成 学会報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)

	業務実施内容	
4月		
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 補助金(復興枠)中間報告会(5/24) 現地調査の日程調整	POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 3K123026現地調査(6/6) 3K123006現地調査(6/12) 3K123016現地調査(6/13)	POPD打ち合わせ 3K123022現地調査(6/21) 3K123018現地調査(6/26) 3K123008現地調査(6/28)
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 現地調査報告書の作成 3K123020現地調査(7/4) 3K113019現地調査(7/18) 3K113015現地調査(7/23)	POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12) 3K122012現地調査(7/25) 3K113001現地調査(7/26) 推進費中間評価ヒアリング(循環:7/30~31)
8月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 学会報告書の作成 現地調査報告書の作成 事後・中間評価個票のコメント取りまとめ 中間評価議事録・コメントの点検	POPD打ち合わせ 第22回日本エネルギー学会(8/5~6) 3K113025現地調査(8/7) 3K122014現地調査(8/14)
9月	担当課題代表者への事務連絡 第62回高分子討論会(9/11~13) 化学工学会第45回秋季大会(9/16~17) 学会報告書の作成 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 3K122102現地調査(9/26)
10月	担当課題代表者への事務連絡 3K122106現地調査(10/1) 3J123002現地調査(10/9) 3J122004現地調査(10/16) 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30) IGES公開セミナー(10/22)
11月	担当課題代表者への事務連絡 第24回廃棄物資源循環学会(11/2~3) 3K122104現地調査(11/7) 現地調査報告書の作成 学会報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12) 推進費新規課題プレ審査(11/20)
12月	担当課題代表者への事務連絡 3K133012現地調査(12/4) 3K133006現地調査(12/13) 3K133010現地調査(12/24) 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ
1月	担当課題代表者への事務連絡 3K133004現地調査(1/7) 3K133002現地調査(1/17) 3K133008現地調査(1/21) 3J132002現地調査(1/30) 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費事前評価ヒアリング(循環:1/23~24) 推進費事前評価ヒアリング(全領域:1/29) IGES公開セミナー(1/9)
2月	担当課題代表者への事務連絡 補助金(復興枠)アドバイザー委員会(2/26) 事前評価議事録・コメントの点検 現地調査報告書の作成	POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13)
3月	担当課題代表者への事務連絡 第9回日本LCA学会(3/4~6) 学会報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)

	業務実施内容	
4月		
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読	POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読	POPD打ち合わせ
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 推進費(復興枠)中間報告会(7/10) 公害一括事後評価ヒアリング(自然:7/11) S-9打合せ(7/27)	POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12)
8月	担当課題代表者への事務連絡 推進費中間評価ヒアリング(S-9:8/2) 推進費中間評価ヒアリング(自然:8/8) 事後評価個票のコメント取りまとめ 中間評価個票のコメント取りまとめ	POPD打ち合わせ 野生動物捕獲関連資料の収集
9月	担当課題代表者への事務連絡 4RF-1302 AD会合(9/20) S-9-5テーマ会合(9/27) 4D-1103公開シンポジウム(9/28) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12)
10月	担当課題代表者への事務連絡 4-1302 AD会合(10/13) 第6回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム(10/28~29、10/31) 学会報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡	POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/12) 推進費新規課題プレ審査(11/20)
12月	担当課題代表者への事務連絡 NIES ヒ素ワークショップ(12/10) 4D-1202 AD会合(12/17) 4D-1102 AD会合(12/26) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ
1月	担当課題代表者への事務連絡 S-9 AD会合(1/11) 4D-1103 AD会合(1/23) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ
2月	担当課題代表者への事務連絡 5C-1101AD会合(2/7) 4D-1101AD会合(2/17) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13)
3月	担当課題代表者への事務連絡	POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)



業務実施内容	
4月	
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 事後評価の委員割り振り POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 POPD打ち合わせ
7月	担当課題代表者への事務連絡 推進費(復興枠)中間報告会(7/10) 公害一括事後評価ヒアリング(自然:7/11) S-9打合せ(7/27) 事後評価個票のコメント取りまとめ POPD打ち合わせ 4-1304AD会合(7/23~24) 成果発表会の課題選定
8月	担当課題代表者への事務連絡 推進費中間評価ヒアリング(S-9:8/2) 推進費中間評価ヒアリング(自然:8/8) 中間評価個票のコメント取りまとめ 中間評価議事録・コメントの点検 POPD打ち合わせ
9月	担当課題代表者への事務連絡 水文・水資源学会(9/25~26) POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12)
10月	担当課題代表者への事務連絡 4E-1102AD会合(10/2) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡 4RF-1301AD会合(11/7) 4D-1106AD会合(11/26) 4ZD-1201AD会合(11/29) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12) 推進費新規課題プレ審査(11/20)
12月	担当課題代表者への事務連絡 AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ
1月	担当課題代表者への事務連絡 S-9AD会合(1/11) 4ZD-1202AD会合(1/16) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費事前評価ヒアリング(自然:1/30)
2月	担当課題代表者への事務連絡 4RFd-1202AD会合(2/13) 4RFd-1201AD会合(2/18) 4-1301AD会合(2/24~25) 4-1303AD会合(2/26) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 事前評価議事録・コメントの点検
3月	担当課題代表者への事務連絡 AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)

業務実施内容	
4月	
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 事後評価の委員割り振り 5C-1151AD会合(5/30) AD会合の日程調整 POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 AD会合報告書の作成 推進費実施マニュアルの打合せ POPD打ち合わせ 行政ニーズ検討会打合せ(6/14) 第1回S-13検討会(6/14) 行政ニーズ検討会(6/24)
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 推進費(復興枠)中間報告会(7/10) 公害一括事後評価ヒアリング(安全:7/11) 推進費中間評価ヒアリング(安全:7/24) 事後・中間評価個票のコメント取りまとめ POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12) 5B-1202AD会合(7/9) 5ZB-1204AD会合(7/18) 5RF-1301AD会合(7/29) 5ZB-1202AD会合(7/30)
8月	担当課題代表者への事務連絡 推進費中間報告の取りまとめ 中間評価議事録・コメントの点検 AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 第2回S-13検討会(8/14)
9月	担当課題代表者への事務連絡 5RF-1302AD会合(9/24) 5ZC-1201AD会合(9/25) 第54回大気環境学会(9/19~20) 学会報告書の作成 POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12)
10月	担当課題代表者への事務連絡 5RFc-1202AD会合(10/9) 5RFb-1201AD会合(10/15) 5-1304AD会合(10/18) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡 5C-1252AD会合(11/1) 5RFb-1203AD会合(11/17) 成果報告書マニュアル改訂のコメント作成 POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12) 推進費新規課題プレ審査(11/20)
12月	担当課題代表者への事務連絡 5B-1101AD会合(12/11) 5-1305AD会合(12/17) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 環境省との打ち合わせ(12/20) 成果報告書マニュアル改訂案の作成
1月	担当課題代表者への事務連絡 5C-1155AD会合(1/27) 5C-1153AD会合(1/30) 地球温暖化対策技術開発成果発表会(1/16) POPD打ち合わせ H26部会委員案の検討
2月	担当課題代表者への事務連絡 環境省との打ち合わせ(2/20) 5ZRFc-1201AD会合(2/7) S-7AD会合(2/25) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 推進費事前評価ヒアリング(S-13:2/6) 推進費事前評価ヒアリング(S-12:2/10) 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13) 事前評価議事録・コメントの点検
3月	担当課題代表者への事務連絡 5RF-1302AD会合(第2回:3/1) AD会合報告書の作成 POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)

	業務実施内容	
4月		
5月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読	POPD打ち合わせ
6月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 AD会合の日程調整	POPD打ち合わせ 5-1303AD会合(6/13)
7月	担当課題代表者への事務連絡 終了成果報告書の査読 推進費(復興枠)中間報告会(7/10) 公害一括事後評価ヒアリング(安全:7/11) 推進費中間評価ヒアリング(安全:7/24) 事後・中間評価個票のコメント取りまとめ	POPD打ち合わせ 第1回企画委員会(7/12) 5-1307AD会合(7/2) 5B-1201AD会合(7/5) 5-1306AD会合(7/13)
8月	担当課題代表者への事務連絡 推進費中間評価ヒアリング(自然:8/8) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 5Z-1301AD会合(8/7) 5ZB-1201AD会合(8/16) 5C-1102AD会合・現地調査(8/21~22)
9月	担当課題代表者への事務連絡 5RFc-1201AD会合(9/2) 5ZB-1205AD会合(9/6) 第54回大気環境学会(9/18~20) 5RFb-1202AD会合(9/24) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 第2回企画委員会(9/5) 環境省・PDPO会議(9/12)
10月	担当課題代表者への事務連絡 5B-1105AD会合(10/10) 5B-1106AD会合(10/29) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費研究成果発表会(10/30)
11月	担当課題代表者への事務連絡 S-7公開シンポジウム(11/1)	POPD打ち合わせ 推進費新規課題振り分け(11/11~12) 推進費新規課題プレ審査(11/20)
12月	担当課題代表者への事務連絡 5-1301AD会合(12/4) 5-1307AD会合(第2回:12/12) 5B-1104AD会合(12/18) 5RF-1303AD会合(12/19) 5C-1152AD会合(12/26)	POPD打ち合わせ AD会合報告書の作成
1月	担当課題代表者への事務連絡 5-1306AD会合(第2回:1/11) 5C-1251AD会合(1/20) 5B-1102AD会合(1/23) 5-1302AD会合(1/27) AD会合等報告書の作成	POPD打ち合わせ 地球温暖化対策技術開発成果発表会(1/16) 5ZB-1203AD会合(1/29) 5ZB-1206AD会合(1/30)
2月	担当課題代表者への事務連絡 5S2-12AD会合(2/16) 5-1303AD会合(第2回:2/20) S-7AD会合(2/24~25) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 第3回企画委員会(2/27) 推進費事前評価ヒアリング(S-13:2/6) 推進費事前評価ヒアリング(安全:2/12~13) 事前評価議事録・コメントの点検
3月	担当課題代表者への事務連絡 5B-1107AD会合(3/13) AD会合報告書の作成	POPD打ち合わせ 推進費終了課題成果報告会(3/10)



## 資料 2 継続課題（復興枠）中間報告会



平成25年度環境研究総合推進費  
復興枠中間報告会プログラム

日時：平成25年7月10日（水）10：00～17：00

会場：砂防会館 別館3階「霧島」（〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 ）

発表：15分 質疑：13分 切替準備等：2分 （計30分）

時間帯	課 題	研究代表者 (研究実施機関)
10:00 ～ 10:10	開 会	
10:10 ～ 10:40	5ZB-1203 担体固定化吸着剤を用いた環境中からの小規模分散型セシウム回収プロセスの実用化	迫田 章義 (東京大学)
10:40 ～ 11:10	5ZB-1205 放射能汚染土壌の飛散防止・洗浄・固化を行う生物処理実用システムの開発	片山 新太 (名古屋大学)
11:10 ～ 11:40	4ZD-1203 湧水がもたらす生態系の頑強性と脆弱性の解明：震災後の生態系復元に向けて	森 誠一 (岐阜経済大学)
11:40 ～ 12:10	5ZB-1204 空気揚土攪拌式洗浄装置を用いた放射性セシウム汚染土壌の減容化方法の開発	西嶋 茂宏 (大阪大学)
12:10 ～ 13:00	昼 食	
13:00 ～ 13:30	5ZRfb-1201 東日本大震災に伴う放射能および化学物質汚染の将来予測と次災害試料アーカイブの整備	上野 大介 (佐賀大学)
13:30 ～ 14:00	5ZRfc-1201 震災時に放出された化学物質の東北沖魚介類生態系における生物濃縮と毒性リスク評価	磯部 友彦 (愛媛大学)
14:00 ～ 14:30	5ZB-1206 放射能汚染土壌の除染実用化技術の開発	逸見 彰男 (愛媛大学)
14:30 ～ 15:00	1ZF-1203 マイクロ波による瓦礫中の有害物質迅速処理ーアスベスト飛散とダイオキシン発生	篠原 真毅 (京都大学)
15:00 ～ 15:10	休 憩	
15:10 ～ 15:40	5ZB-1202 福島原発近隣における里山生態系を含めた除染効果の評価と住民の中期曝露評価	小泉 昭夫 (京都大学)
15:40 ～ 16:10	5ZC-1201 水系感染微生物による水環境汚染への指標生物管理の有効性と消毒技術の検討	田中 宏明 (京都大学)
16:10 ～ 16:40	5ZB-1201 群馬県に降下した放射性セシウムの動態解析と将来予測	角田 欣一 (群馬大学)
16:40 ～ 17:00	総 評	





### 資料3 終了課題の成果報告会

- ・ プログラム
- ・ 写真



## 平成25年度終了課題研究成果報告会プログラム

【日時】平成26年3月10日(月)10:00~18:10 (部会によって異なる)

【場所】砂防会館 別館3階「立山・穂高・六甲・霧島」(千代田区平河町2-7-5) <http://www.sabo.or.jp/map.htm>

【発表時間】問対・革新:20分(発表10分、質疑等10分)、戦略:30分(発表20分、質疑等10分)

### ■第1会場「穂高」(全領域共通・領域横断部会)

	時間帯	課題番号	研究課題名	研究代表者	所属機関
1	10:00-10:20	1B-1103	養豚排水処理と多収(飼料)米生産の環境低負荷型コベネフィットシステムの構築	細見 正明	東京農工大学
2	10:20-10:40	1E-1101	アジア農村地域における伝統的生物生産方式を生かした気候・生態系変動に対するレジリエンス強化戦略の構築	武内 和彦	東京大学
3	10:40-11:00	1E-1103	持続可能な発展と生物多様性を実現するコミュニティ資源活用型システムの構築	矢坂 雅充	東京大学
4	11:00-11:20	1E-1104	気候変動に配慮したアジア環境先進型流域圏の構築と普及	沖 一雄	東京大学
5	11:20-11:40	1E-1105	低炭素社会を実現する街区群の設計と社会実装プロセス	加藤 博和	名古屋大学
6	11:40-12:00	1E-1106	アジア地域を含む低炭素型サプライチェーンの構築と制度化に関する研究	國部 克彦	神戸大学
7	12:00-12:20	1F-1101	気候変動対策と生物多様性保全の連携を目指した生態系サービス評価手法の開発	伊藤 昭彦	(独)国立環境研究所
12:20-13:00(昼食:40分)					
8	13:00-13:20	1F-1102	製鋼スラグと浚渫土により造成した干潟・藻場生態系内の物質フローと生態系の評価	西嶋 渉	広島大学
9	13:20-13:40	1RF-1201	赤潮発生時のデータ観測システムによる養殖業の漁業被害軽減に関する研究	芝田 浩	広島商船高等専門学校
10	13:40-14:00	1ZF-1203 (復興枠)	マイクロ波による瓦礫中の有害物質迅速処理ーアスベスト飛散とダイオキシン発生防止ー	篠原 真毅	京都大学
11	14:00-14:20	1ZE-1202	技術・社会に対する価値観の変化とリスク受容性に関する調査研究	青柳 みどり	(独)国立環境研究所
14:20-14:30(10分)					
12	14:30-14:50	1ZE-1203	汚染地域の実情を反映した効果的な除染に関するアクション・リサーチ	鈴木 浩	(財)地球環境戦略研究機関
13	14:50-15:10	1ZF-1201	東日本大震災を踏まえた電源構成の転換を実現するためのシナリオと方策に関する研究	吉田 好邦	東京大学
14	15:10-15:30	1ZF-1202	リテラシー向上を目指した市民の震災後の環境リスクの認知構造とその変化に関する研究	村山 留美子	神戸大学

### ■第2会場「六甲」(脱温暖化社会部会/自然共生型社会部会)

	時間帯	課題番号	研究課題名	研究代表者	所属機関
1	10:00-10:20	2A-1101	地球温暖化対策としてのブラックカーボン削減の有効性の評価	近藤 豊	東京大学
2	10:20-10:40	2A-1102	「いぶき」観測データ解析により得られた温室効果ガス濃度の高精度化に関する研究	森野 勇	(独)国立環境研究所
3	10:40-11:00	2A-1103	統合評価モデルを用いた世界の温暖化対策を考慮したわが国の温暖化政策の効果と影響	増井 利彦	(独)国立環境研究所
4	11:00-11:20	2RF-1302	温室効果ガスおよび短寿命気候因子(SLOP)緩和策が引き起こす環境影響の能動的評価	中島 映至	東京大学
5	11:20-11:50	S-6(戦略)	アジア低炭素社会に向けた中長期的政策オプションの立案・予測・評価手法の開発とその普及に関する総合的研究	甲斐沼 美紀子	(独)国立環境研究所
11:50-12:30(昼食:40分)					
1	12:30-12:50	4D-1101	外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発	五箇 公一	(独)国立環境研究所
2	12:50-13:10	4D-1102	生物多様性の機能評価のための安定同位体指標に関する研究	陀安 一郎	京都大学
3	13:10-13:30	4D-1103	支笏洞爺国立公園をモデルとした生態系保全のためのニホンジカ捕獲の技術開発	吉田 剛司	酪農学園大学
4	13:30-13:50	4D-1104	天草・島原沿岸の地域連携型保全に向けた干潟ベントス群集とその生態系機能に関する研究	玉置 昭夫	長崎大学
5	13:50-14:10	4D-1105	北東アジアの乾燥地生態系における生物多様性と遊牧の持続性についての研究	吉川 賢	岡山大学
14:10-14:20(10分)					
6	14:20-14:40	4D-1106	三宅島2000年噴火後の生態系回復過程の解明と管理再生に関する研究	加藤 和弘	東京大学
7	14:40-15:00	4E-1102	藻場の資源供給サービスの定量・経済評価と時空間変動解析による沿岸管理方策の提案	小路 淳	広島大学
8	15:00-15:20	4ZD-1203 (復興枠)	湧水がもたらす生態系の頑強性と脆弱性の解明:震災後の生態系復元に向けて	森 誠一	岐阜経済大学

【日時】平成26年3月10日(月)10:00～18:10 (部会によって異なる)

【場所】砂防会館 別館3階「立山・穂高・六甲・霧島」(千代田区平河町2-7-5) <http://www.sabo.or.jp/map.htm>

【発表時間】問対・革新:20分(発表10分、質疑等10分)、戦略:30分(発表20分、質疑等10分)

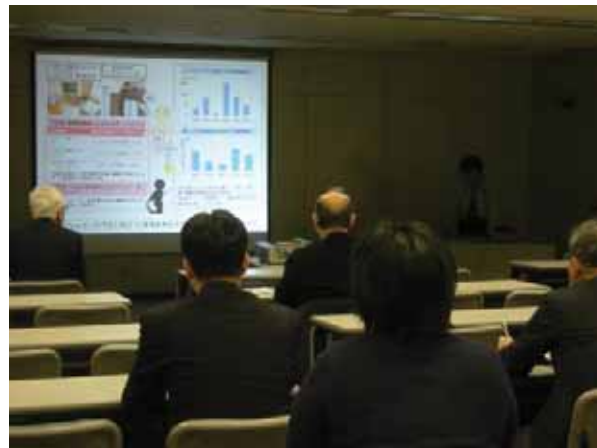
■第3会場「霧島」(安全が確保される社会部会①)

	時間帯	課題番号	研究課題名	研究代表者	所属機関
1	10:00-10:20	5B-1101	全国的环境研究機関の有機的連携によるPM2.5汚染の実態解明と発生源寄与評価	菅田 誠治	(独)国立環境研究所
2	10:20-10:40	5B-1102	湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価に関する研究	一瀬 諭	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
3	10:40-11:00	5B-1104	農業取締法における水質汚濁に係る農業の登録保留基準見直しのための根拠データの取得	高梨 啓和	鹿児島大学
4	11:00-11:20	5B-1105	葉のオゾン吸収量に基づいた樹木に対するオゾンの影響評価に関する研究	伊豆田 猛	東京農工大学
5	11:20-11:40	5B-1106	残留性有機フッ素化合物群の全球動態解明のための海洋化学的研究	蒲生 俊敬	東京大学
6	11:40-12:00	5B-1107	自然由来土壌汚染をもたらす重金属類の環境中での形態変化の解明	井上 千弘	東北大学
7	12:00-12:20	5C-1101	解体現場のアスベストリスクに対応する特異的バイオローブの創成と迅速検出への応用	黒田 章夫	広島大学
12:20-13:00(昼食:40分)					
8	13:00-13:20	5C-1102	適切なリスク管理対策の選択を可能にする農業の定量的リスク評価法の開発	福生 圭哉	(独)農業環境技術研究所
9	13:20-13:40	5RFc-1201	簡単な試料前処理のみで実施できるダイオキシンの土壌汚染バイオアッセイキットの開発	川西 優喜	大阪府立大学
10	13:40-14:00	5RFc-1202	チャンバー法によるナノ製品の曝露評価	松井 康人	京都大学
11	14:00-14:20	5RF-1301	持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発	柳 哲雄	九州大学
12	14:20-14:50	S-7(戦略)	東アジアにおける広域大気汚染の解明と温暖化対策との共便益を考慮した大気環境管理の推進に関する総合的研究	秋元 肇	(財)日本環境衛生センター
14:50-15:00(10分)					
13	15:00-15:20	5ZB-1201 (復興枠)	群馬県に降下した放射性セシウムの動態解析と将来予測	角田 欣一	群馬大学
14	15:20-15:40	5ZB-1202 (復興枠)	福島原発近隣における里山生態系を含めた除染効果の評価と住民の中期曝露評価	小泉 昭夫	京都大学
15	15:40-16:00	5ZB-1203 (復興枠)	担体固定化吸着剤を用いた環境中からの小規模分散型セシウム回収プロセスの実用化	迫田 章義	東京大学
16	16:00-16:20	5ZB-1204 (復興枠)	空気揚土攪拌式洗浄装置を用いた放射性セシウム汚染土壌の減容化方法の開発	西嶋 茂宏	大阪大学
17	16:20-16:40	5ZB-1205 (復興枠)	放射能汚染土壌の飛散防止・洗浄・固化を行う生物処理実用システムの開発	片山 新太	名古屋大学
16:40-16:50(10分)					
18	16:50-17:10	5ZB-1206 (復興枠)	放射能汚染土壌の除染実用化技術の開発	逸見 彰男	愛媛大学
19	17:10-17:30	5ZC-1201 (復興枠)	水系感染微生物による水環境汚染への指標生物管理の有効性と消毒技術の検討	田中 宏明	京都大学
20	17:30-17:50	5ZRFb-1201 (復興枠)	東日本大震災に伴う放射能および化学物質汚染の将来予測と次災害試料アーカイブの整備	上野 大介	佐賀大学
21	17:50-18:10	5ZRFc-1201 (復興枠)	震災時に放出された化学物質の東北沖魚介類生態系における生物濃縮と毒性リスク評価	磯部 友彦	愛媛大学

■第4会場「立山」(安全が確保される社会部会②(健康リスク))

	時間帯	課題番号	研究課題名	研究代表者	所属機関
1	10:00-10:20	5S2-12	環境化学物質による発達期の神経系ならびに免疫系への影響におけるメカニズムの解明	伏木 信次	京都府立医科大学
2	10:20-10:40	5C-1151	可塑性・難燃剤の曝露評価手法の開発と小児アレルギー・リスク評価への応用	岸 玲子	北海道大学
3	10:40-11:00	5C-1152	戸外活動時間を考慮に入れた、土壌性ダスト(黄砂)による呼吸器/アレルギー疾患リスクの定量的評価	中山 健夫	京都大学
4	11:00-11:20	5C-1153	母親と新生児を対象とする化学物質曝露のリスクと魚介類摂取のベネフィットの比較研究	八重樫 伸生	東北大学
5	11:20-11:40	5C-1154	黄砂のヒト健康への影響に対する臨床および基礎研究の融合アプローチ	渡部 仁成	鳥取大学
6	11:40-12:00	5C-1155	黄砂エアロゾル及び付着微生物・化学物質の生体影響とそのメカニズム解明に関する研究	市瀬 孝道	大分県立看護科学大学

終了課題成果報告会の様子





## 資料 4 一般国民向け成果発表会

- ・ 広報チラシ
- ・ アンケート集計結果





環境省主催

平成25年度環境研究総合推進費 研究成果発表会

# 環境研究の最前線

環境研究総合推進費は、持続可能な社会構築のための環境保全に資することを目的とした政策貢献型の競争的研究資金です。平成24年度に終了した環境研究総合推進費の研究課題の中から、国民の皆様に関わりやすく、関心も高いと考えられるものを選んで、成果発表会を開催します。

環境研究の最前線に関心をお持ちの皆様、研究成果の活用を検討されている自治体・企業の皆様、環境研究総合推進費への応募をお考えの研究者の皆様など、幅広い方々のご来場を心よりお待ちしております。

**日時**：平成25年10月30日(水) 13:00～16:30(開場 12:30)

**場所**：都道府県会館 1階101大会議室 (東京都千代田区平河町2-6-3)

**定員**：120名 (先着順)

**参加無料**

## プログラム

13:00～13:10	開会 主催者挨拶 環境省	
13:10～13:40	溶存酸素濃度に対する環境基準：生き物集団を護る考え方と試案	堀口 敏宏 (独)国立環境研究所 環境リスク研究センター生態系影響評価研究室長
13:40～14:10	電気自動車等による低炭素の交通社会に向けインフラや制度はどうあるべきか	安藤 章 (株)日建設計総合研究所 主任研究員/名古屋大学 客員教授
14:10～14:40	地域循環圏：地域と資源の特性に応じて考える循環型社会	松本 亨 北九州市立大学 国際環境工学部 教授
14:40～14:55	休憩(15分)	
14:55～15:25	Pay it forward! あなたの食べ残しゴミで、ガス灯をともそう。 ～鳴子温泉の環境にやさしいツアー;エネツアーリズム～	多田 千佳 東北大学大学院農学研究科 准教授
15:25～15:55	風車騒音の実態調査の結果	橋 秀樹 千葉工業大学附属総合研究所 教授
15:55～16:25	どのように被害を出す野生動物と共存していくか?—情報収集と意思決定の仕組みづくり—	坂田 宏志 兵庫県立大学 准教授
16:25～16:30	閉会挨拶 閉会	



**堀口 敏宏** (ほりぐち としひろ)  
三鷹生まれ。「公害訴訟」から海洋汚染の生物影響を志し、東大大学院で清水誠先生に師事。有機スズによる巻貝のOmpoxin研究で理学博士。東京湾の環境と魚介類、産卵事故による放射能汚染と生物影響が主眼。



**安藤 章** (あんどう あきひろ)  
1991年日産設計入社。2008年より退職。2013年10月より名古屋大学客員教授。専門は都市交通計画、ITS等。「スマートエネルギーネットワーク構想(共同執筆)」等を執筆。博士(工学)、技術士(都市及び地方計画)。



**松本 亨** (まつもと とおる)  
1992年九州大学総合理工学研究科修士課程修了。博士(工学)(株)野村総合研究所、九州大学を経て現職。専門は環境システム学で、循環型社会や低炭素社会に向けた都市社会システム研究に従事。中国の南開大学客員研究員兼名誉教授。



**多田 千佳** (ただちか)  
有機性毒物の微生物による有効活用として、増殖化やメタン発酵を研究する。現在、種子島にある東北大フィールドセンターに所属。産業技術総合研究所特別研究員、沖縄工業高等専門学校助手等を経て現職。



**橋 秀樹** (はし ひでお)  
東京大学生産技術研究所、千葉工業大学において応用音響工学(建築音響、騒音制御など)の研究に従事。平成22～24年度環境省環境研究総合推進費による風車騒音の騒音研究を担当。東京大学名誉教授、工学博士。



**坂田 宏志** (さかた ひろし)  
兵庫県森林動物研究センター主任研究員を兼務し、シカ、イノシシ、ウサギノクマなど人の軌跡の大きな野生動物の管理のため、個体数変動の予測や被害対策技術の開発などの研究に取り組んでいる。

※環境研究総合推進費の平成26年度新規課題の公募を行っています。詳しくは環境省HP内の環境研究総合推進費サイトをご覧ください。(「推進費」で検索。http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/koubo/index.html)

※成果発表会の様子は、後日、環境省HPに掲載予定です。



●FAXでお申し込みの場合

以下の参加申込書にご記入のうえ、**FAX:03-5812-2106** 宛にお送りください。

**参加申込書**

平成25年度環境研究総合推進費 研究成果発表会  
「環境研究の最前線」  
平成25年10月30日(水) 13:00~16:30

お名前(フリガナ)	所属
TEL	FAX
E-mail	

※ご記入いただいた個人情報については、本研究成果発表会のみを使用します。

●E-mailでお申し込みの場合

件名欄に **参加希望(推進費研究成果発表会)** と明記のうえ、参加申込書の項目

(お名前、所属、TEL、FAX、E-mail)を **seika@airies.or.jp** 宛にお送りください。

環境省HP内の 環境研究総合推進費 > 報道発表 > イベント情報 ページからも、E-mailで  
お申し込みいただけます。

(<http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/houdou/event/index.html>)



【会場】

都道府県会館 1階 101大会議室  
(東京都千代田区平河町2-6-3)

【アクセス】

- 地下鉄 有楽町線・半蔵門線  
[永田町駅]5番出口から地下鉄連絡通路を  
経て徒歩約1分
- 地下鉄 南北線  
[永田町駅]9番B出口から地下鉄連絡通路  
を経て徒歩約1分
- 地下鉄 丸の内線・銀座線  
[赤坂見附駅]D出口から徒歩約5分

\* 参加申し込み等についてのお問い合わせ先 \*

一般社団法人国際環境研究協会

TEL: 03-5812-2105 FAX: 03-5812-2106 E-mail: seika@airies.or.jp

平成 25 年度環境研究総合推進費研究成果発表会 「環境研究の最前線」  
参加者アンケート集計結果

日時：平成 25 年 10 月 30 日（水）13:00～16:30

場所：都道府県会館 101 大会議室

【参加者内訳】

事前申込者：76 名（申込登録者数：104 名）

当日参加者：5 名

PD/PO：12 名（CO<sub>2</sub> 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 PO 含む）

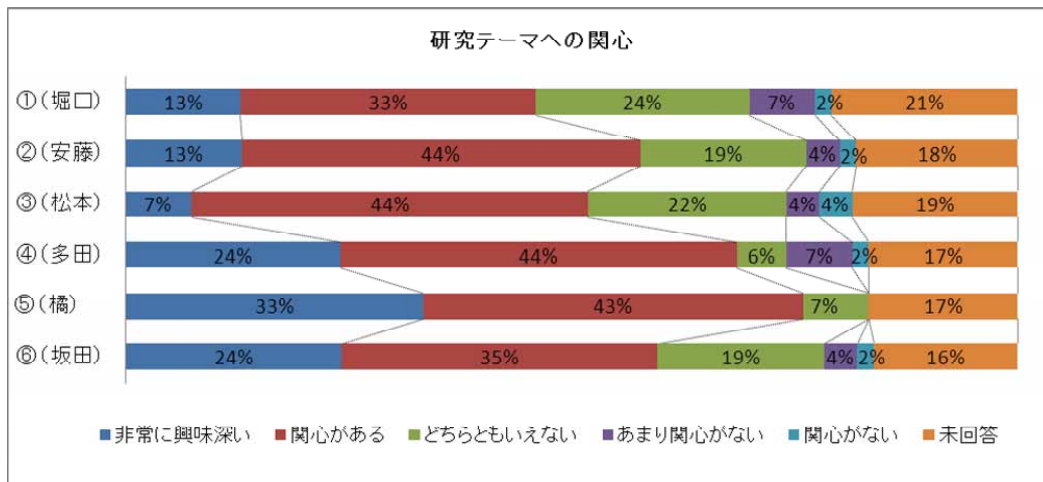
環境省（関係者）：8 名

参加者は PD/PO・環境省（関係者）を除くと、合計 81 名（PD/PO・環境省（関係者）を含めると、101 名）。また、事前申込者の歩留まりは約 73%であった。

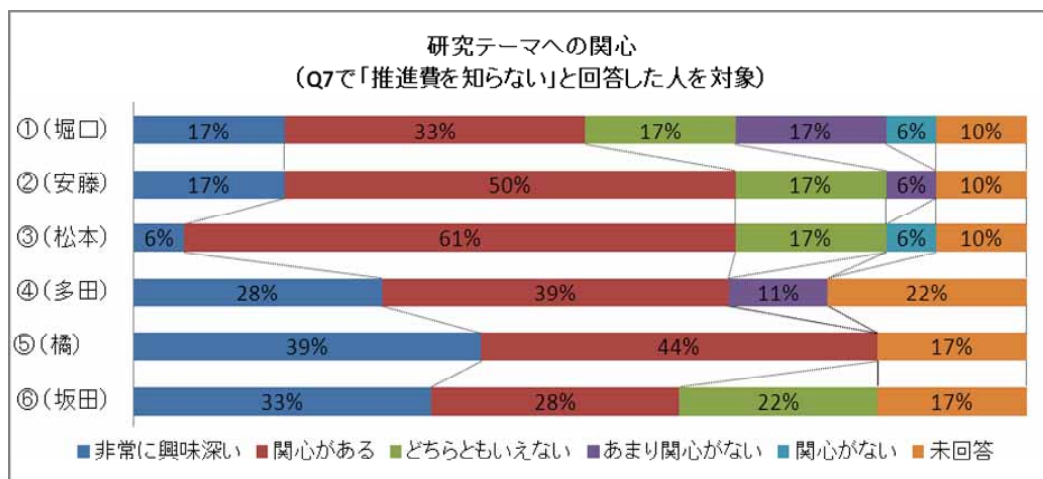
アンケートには、54 名から回答があり、回収率は約 67%であった。またアンケート回答者のうち、18 名が「Q7. 本成果発表会以前、環境研究総合推進費をご存じでしたか？」の問いに対して、「④推進費の存在は知っていたが、制度や研究成果は知らなかった」または「⑤本成果発表会で推進を初めて知った」と回答した。

Q1. 本日の発表についての意見

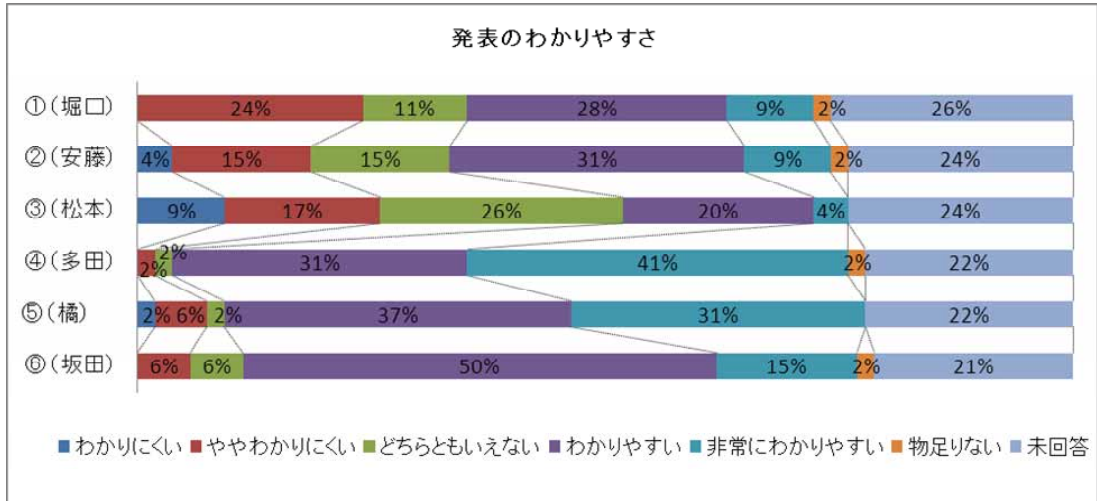
■研究テーマへの関心（全体 54 名）



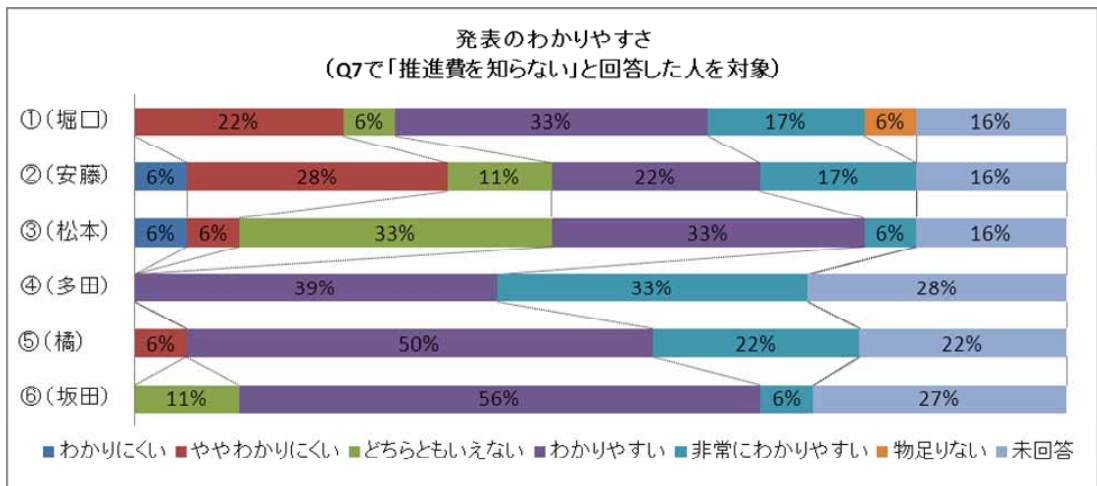
○「推進費」を知らなかった人の場合（前述の 18 名を対象）



■発表のわかりやすさ（全体 54 名）



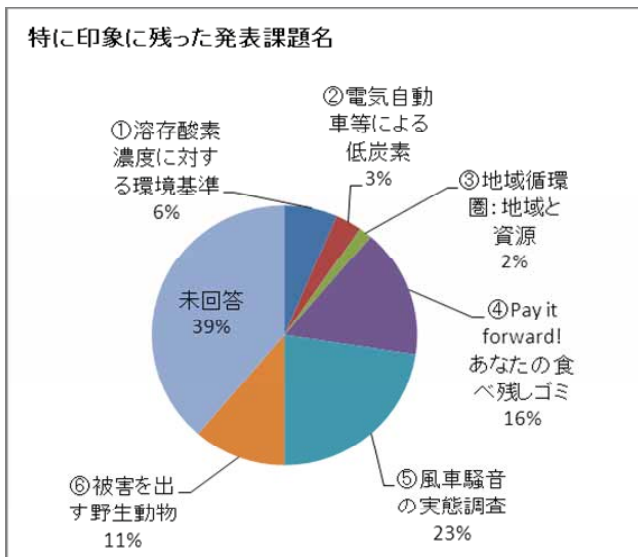
○「推進費」を知らなかった人の場合（前述の 18 名を対象）



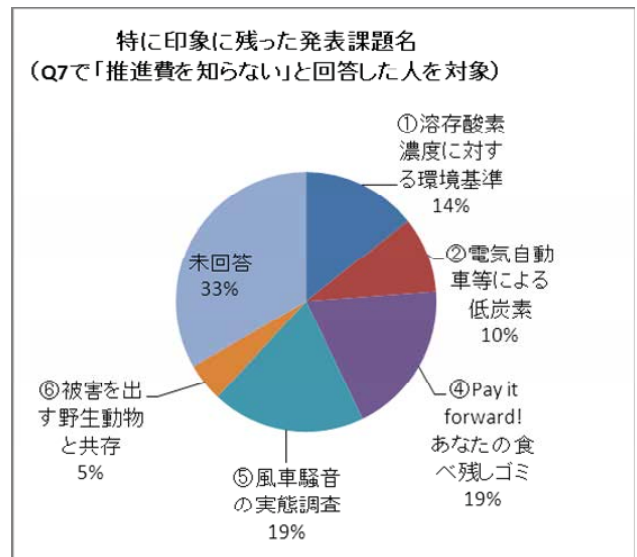
Q2. 特に印象に残った発表課題名とその理由

■印象に残った発表課題名

全体 54 名



「推進費」を知らなかった人 (18 名)



印象に残った理由（全体 54 名、うち「推進費」を知らなかった人は 18 名）

①溶存酸素濃度に対する環境基準：生き物集団を護る考え方と試案（堀口）

<以下は「推進費」を知らなかった人>

- ・ テーマ、内容共に身近。
- ・ 興味ある分野であるため。
- ・ 豊かな海の再生、創出のための DO 基準。基準、類型指定等、具体的に適用・運用していくための課題をどのように検討しているかに大変興味があった。その意味でももう少し詳しい内容が聞きたかった。

②電気自動車等による低炭素の交通社会に向けインフラや制度はどうあるべきか（安藤）

<以下は「推進費」を知らなかった人>

- ・ 低炭素社会の実現に向けた交通施策等が理解できた。また、EV や FCV の現状と市民意向および将来的な活用方法等が認識できてよかった。
- ・ 興味ある分野であるため。

③地域循環圏：地域と資源の特性に応じて考える循環型社会（松本）

- ・ 関連する課題に取り組んでいる。

④Pay it forward! あなたの食べ残しゴミで、ガス灯をともしよう。～鳴子温泉の環境にやさしいツアー：エネツーリズム～（多田）

- ・ やっている内容がよくわかる。
- ・ わかりやすかった。身近の課題だったので。
- ・ 親しみやすい話題で、わかりやすい説明でした。
- ・ コンセプトが明快！
- ・ 当社のビジネスとして、展開を手伝えないか検討してみたい。

<以下は「推進費」を知らなかった人>

- ・ 食べ残しという身近な問題であり、話がわかりやすかった。
- ・ 他の発表は、試算、シミュレーション、調査等だったが、④は規模は小さいが、確実に環境負荷低減の提案をしている。そのような研究に国は金をかけるべきだと考える。
- ・ 身近な行動で、影響力が大きい。
- ・ 興味ある分野であるため。

⑤風車騒音の実態調査の結果（橘）

- ・ 関心のある研究テーマであった。
- ・ 自身が従事している仕事内容に関わる事項であり、今後の方針等興味深いため。
- ・ もっとも系統的に調査が行われている。今後、これらの結果をもとに行政に生かしていく必要があると考えている。
- ・ もう少しゆっくりと聴く時間がほしかった。おもしろかった。
- ・ やっている内容がよくわかる。
- ・ 風車の騒音の実態が科学的によくわかった。

<以下は「推進費」を知らなかった人>

- ・ 風車による騒音問題がクローズアップされているので、今回のような基本的な研究がなされることは有意義と思う。低周波音については、一般の方々が間違った認識をもっていることが多く、正しい情報を早く広く世間に周知してほしいと思う。
- ・ 風力発電の環境影響に関心があり、研究内容も興味があった。発表も非常にわかりやすかった。
- ・ 再生可能エネルギーの有力な活用方法である風車騒音は重要な問題である。奥の深い難しい調査・研究であったようで、さらに聞いてみたい。
- ・ 興味ある分野であるため。

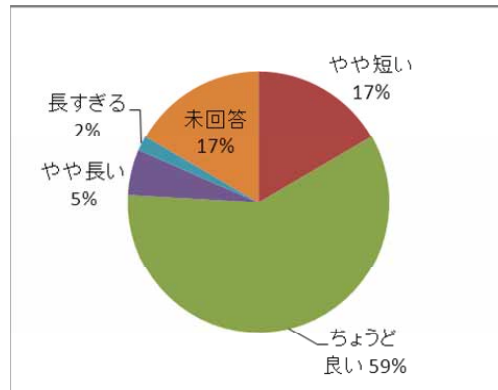
⑥どのように被害を出す野生動物と共存していくか？—情報収集と意思決定の仕組みづくり—（坂田）

- ・ しっかりと実用化に到達していて、またプレゼンも大変上手だったと思いました。
- ・ 非常にわかりよい。もう少し時間をとっていただきたい。
- ・ 定量的データに基づく意思決定の仕組みづくりが、非常に参考になった。
- ・ 野生動物による被害の実態と捕獲の効果、開発システムについて分かりやすく説明していたから。

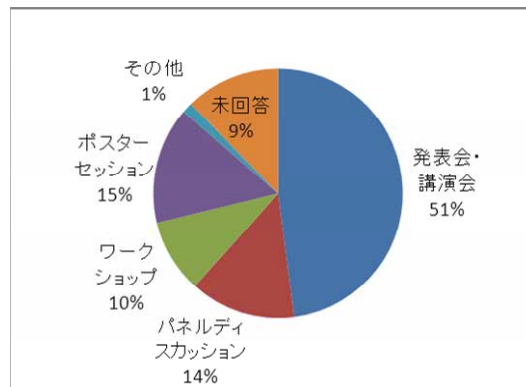
<以下は「推進費」を知らなかった人>

- ・ すでに実用化レベルになっている。

Q3. 会場からの質疑応答時間について



Q4. 今後の本成果発表会の形式について



Q5. 意見・感想等

1 発表会の形態について

- ・ 日時・会場、テーマ設定、時間配分、進行等は適切であると感じた。
- ・ ちょうど良い。
- ・ 発表項目が分散している。分野を絞って欲しい。

2 発表時間について

- ・ 発表時間が短く感じました。条件や方法の説明が省略されがちで、結果も結論だけで図表の説明まで省略(②と③の発表)されては理解ができません。⑤の発表はこの点は非常に分かりやすかったのですが、時間の問題で成果が部分的な説明になってしまった点が残念でした。
- ・ もう少し一つのテーマに時間がほしい。
- ・ 発表時間が短い。午前中から始める。成果を絞って発表する。
- ・ 発表時間がやや短く感じました。

- ・ 1 テーマについての時間が短すぎる。せめて 40 分の発表時間を与える。あるいは次善の策として配付資料を増やして理解を促進させる。それにより時間を節約できると思う。

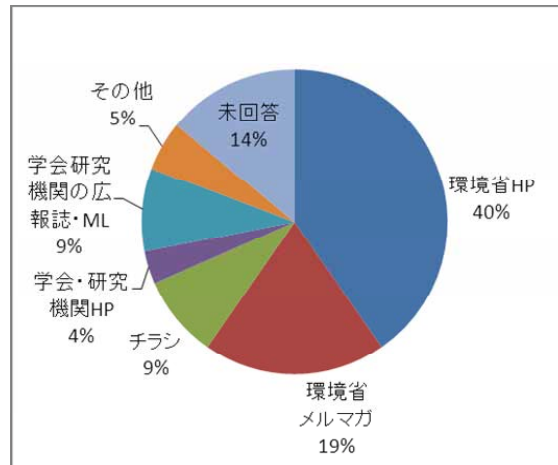
### 3 会場について

- ・ 正面スクリーンが小さく、スライドの文字が小さくてほとんど読めない。

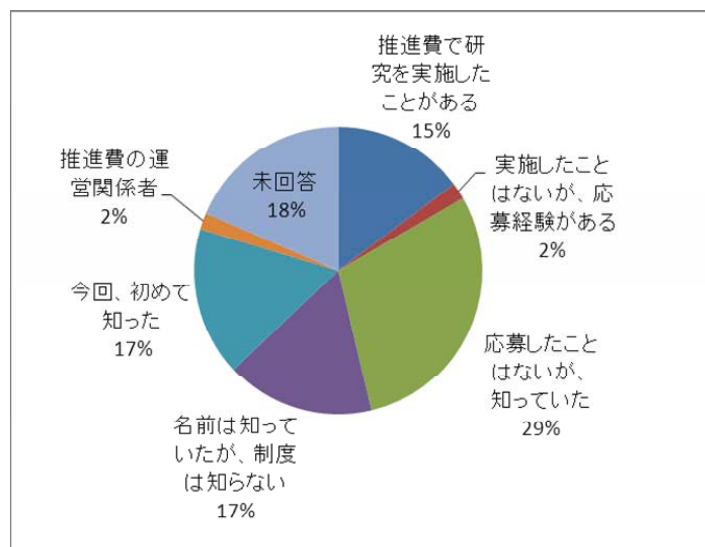
### 4 その他

- ・ 本発表を聞いて本当に有効に研究費を使用しているのかどうか判断ができないものがあった。テーマの範囲が広く当たり前の結果しか発表できないためなのだろうか。あるいは研究者の慣れなのか。
- ・ 環境省の方針、環境研究総合推進費の全体としての方向性を説明する報告があるべきである。
- ・ 最近はネット万能で色々な研究データなども入手できるが、意義深い研究の成果を研究者の肉声で直接聞けて、質疑で深められることも、こうした発表会のメリットであり、継続開催してほしい。
- ・ PR をもっとした方が良い。
- ・ 発表量は良かった。中間レポートを作成して、HP で公表してはどうか。

#### Q6. 今回の成果発表会を知ったきっかけ

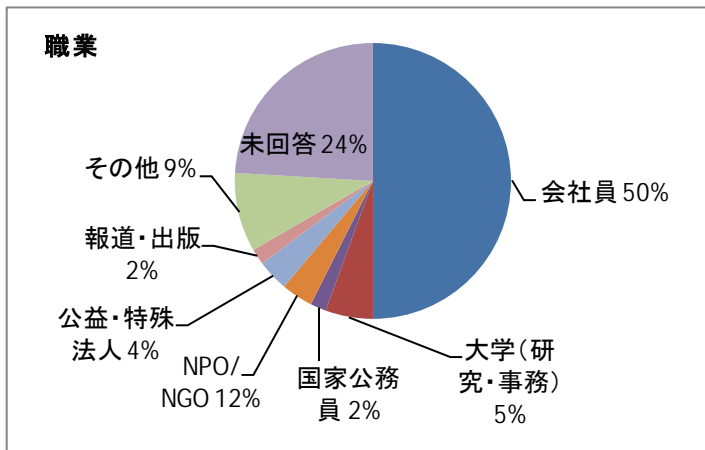
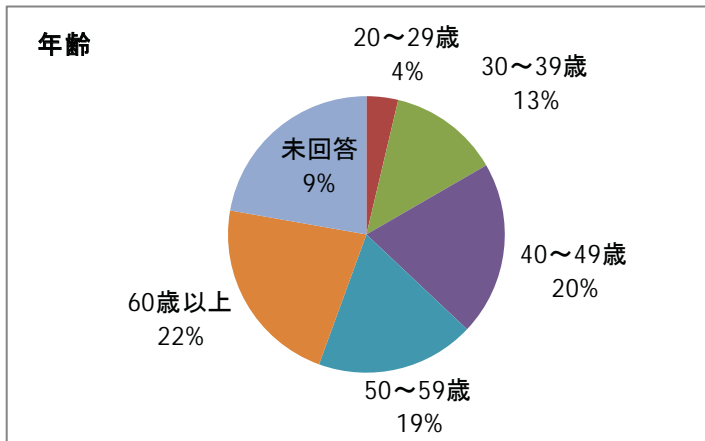
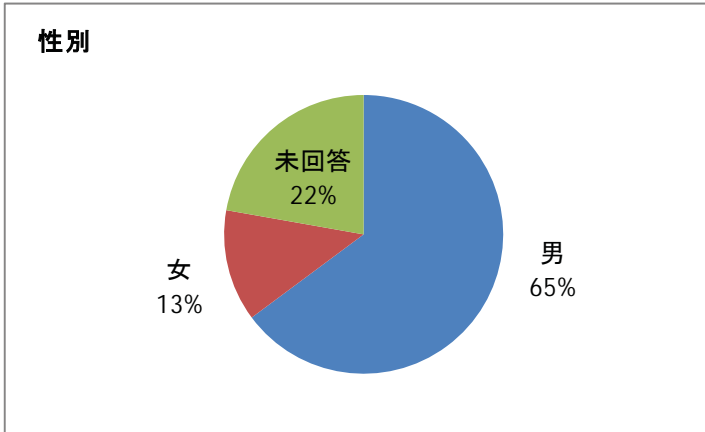


#### Q7. 本成果発表会以前、推進費を知っていたか

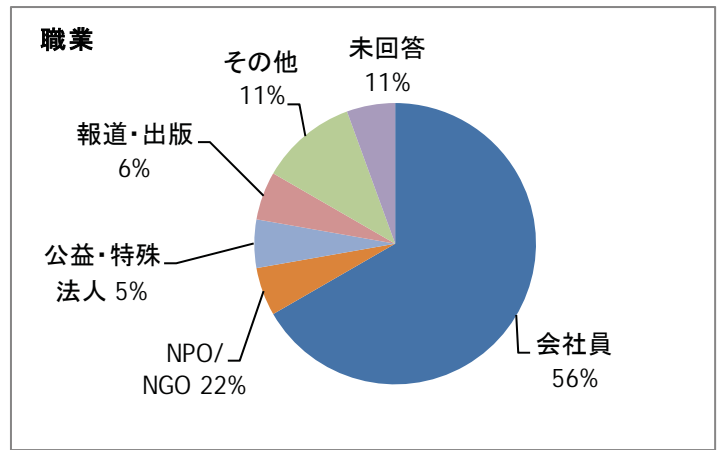
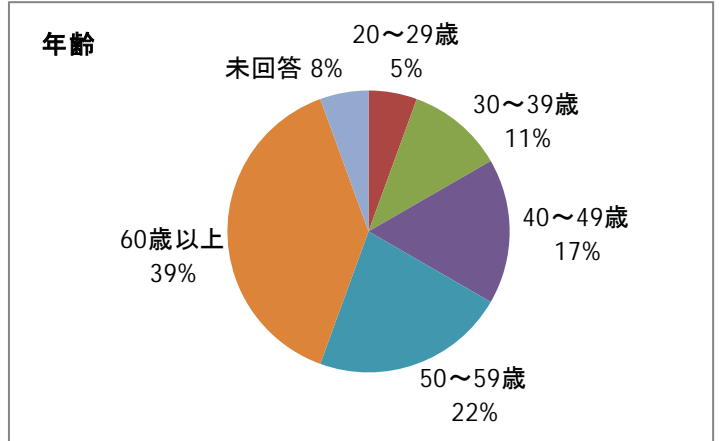
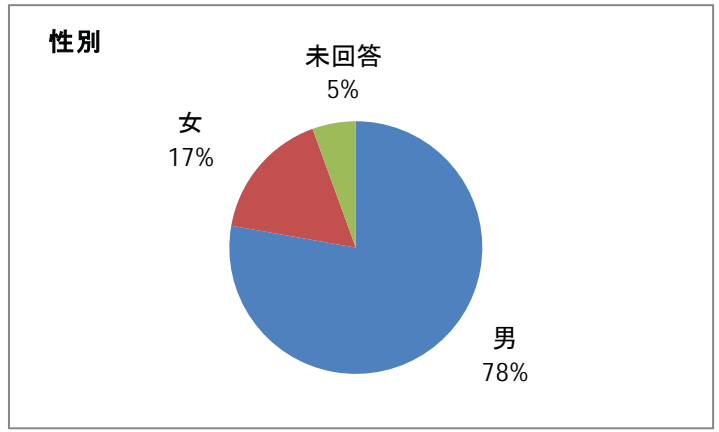


アンケート回答者の属性

全体 54 名



「推進費」を知らなかった人 (18 名)





## 資料 5 学会等の参加報告書



## 日本気象学会 2013 年度春季大会

■ 日時・場所 平成 25 年 5 月 15 日 (水) ~18 日 (土) 国立オリンピック記念青少年総合センター (渋谷区)

■ 出席 PO 笹野泰弘

### ■ 概要

日本気象学会 2013 年度春季大会が 5 月 15 日 (水) ~18 日 (土)、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催された。15 日午後は、口頭研究発表および専門分科会 (13:30~17:00) が 4 会場において行われ、さらに、地球観測衛星研究連絡会等の研究会 (17:30~19:30) が 3 会場において開催された。17 日午後は、シンポジウム「変化する地球環境と気象学の役割」(13:30~17:00) が開催された。15 日午後の専門分科会 B 会場 (エアロゾルの気候と大気環境への影響)、地球観測衛星研究連絡会、ならびに 17 日午後のシンポジウムの内容紹介と、得られた知見を以下に記す。

### ○専門分科会 B 会場 (エアロゾルの気候と大気環境への影響)

本専門分科会では、「エアロゾルの観測：モデル評価に資する通年観測と先端的計測」、「名古屋におけるエアロゾル光吸収特性の観測：レンズ効果およびブラウンカーボンの寄与」、「HTDMA および CCN カウンタによる大気エアロゾル粒子の吸湿性・雲凝結核活性の側面的」、「ブラックカーボンの航空機観測から実証されたエアロゾルの湿性除去効率の粒径依存性」、「受動型イメージャーから観る雲・エアロゾル・放射」、「衛星搭載アクティブセンサによる雲研究：現状と今後の展開について」、「直接・間接効果の高精度推定に向けた詳細エアロゾルモデルの開発と検証」、「数値モデルを用いたエアロゾルの気候影響評価の現状と今後の展開」、「データ同化を用いたエアロゾルの不確かさ低減への取り組み」、「海洋生態系とエアロゾルの物質循環相互作用」、「大気質改善に対する海洋への可溶性鉄供給量変化の将来予測」の 11 件の発表が行われた。

特に、気候変動将来予測モデルの中で重要な放射収支計算に寄与するブラックカーボンを含むエアロゾル粒子の実態や、生成メカニズム、放射影響に関する知見が依然として不十分であり、観測、モデリングの両面からのさらなる研究が必要であるとの発表が複数あった。

### ○地球観測衛星研究連絡会

幹事による趣旨説明ののち、「気象学における衛星観測の意義」、「地球観測衛星の国際的状況」、「日本の地球観測衛星の現状と将来」について講演と質疑応答がなされた。

最近改訂された我が国の「宇宙基本計画」のもとでの、地球観測衛星の優先度の低さについて多く議論され、気象学会としての一層の取り組みの強化が必要との意見も出された。

### ○シンポジウム「変化する地球環境と気象学の役割」

本シンポジウムでは、「大気と陸域生態系間の炭素循環をつなぐ衛星観測の進展」、「熱帯域における台風観測とシミュレーション～雲と降水をどこまで再現出来れば満足か?～」、「気候・地球環境研究におけるエアロゾル-雲-降水過程の役割」、「下層雲の LES とその気候研究への応用」、「気候感度の不確かさと地球温暖化予測」について、それぞれ総合的な見地からの講演が行われ、最後に「新しい大気科学の方向性について-地球環境研究との接点-」と題したコメントが東大・中島 (映) 教授から示された。

気象学は気象学本来の研究分野の研究を進展させる必要とともに、今や、大気科学として環境問題の解決に寄与することが求められており、気象庁のみならず環境省との更なる連携が必要であるとの議論があった。

### <PO 所感>

地球環境研究における衛星観測の重要性、モデルと観測との統合研究の必要性等、かねてから重要とされている事項を再確認する場であったとも言える。研究者のこうした考え方が、研究資金供給者側に正しく早く伝えられることが極めて重要であるとの印象を持った。

### ■ 特記事項 (環境研究総合推進費の研究推進に関連する事項等)

脱温暖化社会領域の中でも、地球温暖化現象の解明につながる観測およびモデル研究が多面的に行われており、全体像の把握が今後の研究展開に必須であると思料される。

## 日本地球惑星科学連合 2013 年大会

■ 日時・場所 平成 25 年 5 月 19 日（日）～24 日（金） 幕張メッセ国際会議場（千葉）

■ 出席 PO 笹野泰弘

### ■ 概要

日本地球惑星科学連合 2013 年大会が 5 月 19 日（日）～24 日（金）、幕張メッセ国際会議場において開催された。本連合大会は、所属する 54 に上る学協会の合同研究発表大会であり、19 会場に分かれた口頭発表、ポスター発表の他、各種セッション等、多様多彩なイベントが開催された。以下では、当 PO が参加した「Activity of GEO task “Integrated Global Carbon Observation and Analysis System (CL-02)” in Japan (GEO Carbon)」の概要紹介と、得られた知見を以下に記す。

### ○Activity of GEO task “Integrated Global Carbon Observation and Analysis System (CL-02)” in Japan (GEO Carbon)

本セッションは、「領域外・複数領域/宇宙開発・地球観測/国際セッション」の区分に位置付けられ、地球観測、特に、GEOSS（全地球観測統合システム）のタスクの一つである、「地球規模の炭素循環に関わる観測と解析システム」にかかる発表と議論が行われた。

報告は、「GEOSS および GEO Grid」、「GEO CL-02 task and activity of EMTEC / AIST related to GEO carbon task」、「GEO 炭素循環システムの整備とアジアにおける貢献の提案」、「GOSAT プロジェクトの全球炭素観測と炭素収支推定への貢献」、「地上設置および船舶搭載高分解能分光計を用いた海洋上の GOSAT CO<sub>2</sub> および CH<sub>4</sub> カラム平均濃度の検証」、「Global Monitoring of greenhouse gases using various earth observation platforms」、「温暖化予測モデル開発の立場からの炭素循環観測研究への期待」、「衛星 RS を使った広域炭素収支評価における地上検証および長期観測の重要性」、「産総研における長期森林生態系炭素収支観測とそのデータ解析」の演題で行われ、その他 5 件のポスター発表があった。

国際的な統合地球観測体制の構築を目指す GEOSS の中で、日本の貢献を明らかにしていくために、我が国の関係機関での活動状況が報告され、総合討論の中で、今後の取り組みについて議論がなされた。

### <PO 所感>

全球炭素分布や炭素循環過程の実態解明につながる観測研究が多面的に行われている。国際的な研究コミュニティの中でプレゼンスをいかに高めていくか、これまでの取り組みの不十分な点を反省しつつも、新たな取り組みを始めようという意気込みが感じられた。

### ■ 特記事項(環境研究総合推進費の研究推進に関連する事項等)

上記所感に記した新たな取り組みは、今後の推進費研究展開の方向性のひとつであると考えられる。

## 第 22 回日本エネルギー学会大会

■ 日時・場所 平成 25 年 8 月 5 日 (月) ～6 日 (火) 工学院大学新宿キャンパス (新宿区)

■ 出席 PO 安田憲二

### ■ 概要

本学会では、石炭・重質油等、天然ガス・メタンハイドレート、新エネルギー、環境対策・リサイクル、バイオマス等、エネルギー評価・経済など、8 つのセッションで合計 170 件の研究発表に加え、各部会企画による特別講演、招待講演、基調講演が行われた。この中で「エネルギー学」分野と若手勉強会主催の京都大学名誉教授の加藤尚武氏による「資源クライシスーだれがその持続可能性を維持するのか？」の「招待講演」が行われた。

#### (1) 環境対策・リサイクル (E 会場)

このセッションでは、リサイクル関係が 3 課題および環境対策関連の 2 課題について発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・電気抵抗式灰溶融炉における金属リサイクル
- ・褐炭を利用したエッチング廃液からの銅回収および低温酸化銅微粒子生成法の開発
- ・放射能汚染水処理と水素製造

#### (2) 震災復興・メタン発酵等 (H 会場)

本セッションでは、バイオマス等のセッションにおける一課題として、放射性セシウムに汚染されたバイオマスの有効利用や被災地でのバイオマス利用等について 5 課題の報告があった。主な報告は、以下のとおりであった。

- ・放射性セシウムを含むバイオマスのガス化発電による効果的な減容化
- ・セシウム汚染バイオマスからのエネルギー利用：炭化後燃焼
- ・木質バイオマス発電の FIT 制度下における事業化の現状と課題

#### (3) 「招待講演」(A 会場)

この招待講演では、ヘーゲル哲学が専門である加藤尚武氏が、エネルギー問題、資源問題など、因果関係が長期にわたる問題に対して、責任ある対処が必要であるといわれても、長期的に持続する責任主体は存在しない。民主主義は、そのような長期的な課題に対して合理的に対処することができるかなど、哲学的な解釈で軽妙な講演をされ、大変興味を持てた。

#### (4) 特別講演「シェールガス革命と日本市場に与える影響」(A 会場)

特別講演では、東京ガス株式会社の波多野邦夫氏が①世界および日本における天然ガスの在来型と非在来型の確認埋蔵量、日本を含むアジア圏での天然ガス購入価格 (アジアプレミアム) の状況、②米国を中心に行われているシェールガスの採掘状況、③米国シェールガスによるアジアプレミアム価格への影響、欧州等の地域への影響、米国以外の天然ガス資源国の輸出動向、などについてタイムリーな最新情報を基に含蓄のある講演が行われ、大変好評であった。

#### (5) 基調講演セッション 7 「製鉄所の廃プラスチックのケミカルリサイクル」(E 会場)

この基調講演では、新日鐵住金株式会社の鋏取英宏氏がケミカルリサイクル技術の特徴と実績および将来展望について、同社のこれまでの事例に基づいて具体的に詳細な報告があった。将来的には、コークス炉化学原料化法が有効であるとの説明は共感が持てた。

#### (6) その他の基調講演 (A, I, D 会場)

その他の基調講演は以下のとおり。

- ・水生・海洋バイオマスの生産および燃料転換技術の開発と展望 (東京農工大 松永 是教授)
- ・省エネルギー、火力発電の効率向上 (電力中研 幸田栄一氏)
- ・海洋メタンハイドレートガス生産実験から商業的開発に向けての課題 (東大 増田昌敬教授)

#### <PO 所感>

この学会では、環境対策・リサイクル、震災復興・メタン発酵等および各部会企画による講演を中心に聴講した。この中で、シェールガス革命に関する特別講演では、最新情報に基づいたドラマチックな講演に興味を持てたが、米国によるシェールガスの採掘に際して当時大統領であったブッシュ氏が環境汚染に関する法律を改悪したため、現在でも採掘による環境汚染問題が苦慮されているが、講演ではこの部分の説明がなかったので、とても残念であった。

## 第 62 回高分子学会討論会

■ 日時・場所 平成 25 年 9 月 11 日 (水) ~13 日 (金) 金沢大学角間キャンパス (金沢)

■ 出席 PO 安田憲二

### ■ 概要

本学会では、高分子の合成、構造、都市鉱山、物性のほか、バイオプラスチック開発の進展、資源の循環利用に向けた高分子科学と技術、環境と高分子など、高分子に係る広範囲な研究課題を扱っている。また、このほかにも招待講演、受賞講演およびテーマ別の特別発表など、数多くの多彩な分野で講演が行われた。

#### (1) 招待講演 (A 会場)

この招待講演では、「未来の車は植物で創る—セルロースナノファイバーで見る夢—」の演題で、京都大学生存圏研究所の矢野浩之センター長が講演された。セルロースナノファイバーは鋼鉄の 1/5 の軽さで、その 5 倍以上の強度を有している。この講演では、主に、セルロースナノファイバー強化による自動車用部材の高機能グリーン化を目指して行ったグリーン・サステイナブルケミカルプロセス (GSC) 基盤技術開発の成果について紹介があり、野心的で大変興味深い講演であった。

#### (2) 受賞講演 (A 会場)

ここでは、三菱化学賞の受賞課題「分子組織化ナノチューブ材料の開発とバイオ分野への応用」(産総研・清水敏美氏) について講演があった。この研究では、ナノチューブの内・外表面への化学的官能基化と合目的な官能基の配置、多成分集積などの手法を駆使して、生体高分子の包接、拡散、徐放挙動に関する物理化学特性を明らかにしたこと、応用研究として分子組織化ナノチューブの大量製造技術の開発などについて紹介された。

#### (3) 特定テーマ特別発表 (B 会場)

本講演の発表課題は、「イオン液体のバイオテクノロジーへの応用」であり、九州大学大学院の後藤雅宏教授が講演された。イオン液体は比較的極性が高く、かつ分子構造を変化させることで疎水性にすることもできる。また、イオン液体は不揮発性であり、エーテルなどの有機溶媒とは混和しないため、反応後にエバポレーションや有機溶媒での洗浄によりイオン液体中の基質と生成物を回収し、酵素を含むイオン液体相を再利用するといった新規バイオプロセスの構築が可能となる。本講演では、イオン液体のバイオテクノロジーへの応用例を中心とした紹介があった。

#### (4) バイオプラスチック開発の新展開 (X 会場)

このセッションでは、進展著しいバイオプラスチックの開発分野について発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・分岐ポリ乳酸によるバイオマスプラスチックの改質
- ・非可食バイオマスからのグリーン化学品・樹脂原料の生産
- ・微生物プロセスによるバイオマスからのビニルモノマー生産
- ・微生物重合系に基づく乳酸ポリマーからの拡張
- ・組み換え大腸菌における超高分子量ポリヒドロキシアルカン酸生産と生合成メカニズム

#### (5) バイオプラスチック開発の新展開 (Y 会場)

本セッションは、高分子材料を利用したレアメタルの回収等について発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・ジオチオカーボナイト構造を持つ親水性ゲルによる鉱山廃水からの貴金属の捕集
- ・選択的な吸着能を有するインプリントゲルによる都市鉱山からのレアアースの選択的回収
- ・メラミンとシアヌル酸の複合体形成を利用したレアメタル回収
- ・リグノセルロースのユニバーサル資源化・塩基性環境における分子再配列と機能変換

#### <PO 所感>

この学会には多くの民間企業からの参加者があり、新たな技術開発や実用化に関する発表では、コストパフォーマンスについては厳しい質問が相次ぐなど、コスト評価の重要性が際立った。残念なことに、ほかの学会でも同様であるが、学生の発表では、多くが質問に立ち往生する光景が見られた。

また、他分野との境界領域の発表では、専門性がピンポイントなため、議論が少ないなど、専門分野が少しづれていると異星人同士の会話状態になるケースが見られた。

## 化学工学会 第45回秋季大会

■ 日時・場所 平成25年9月16日(月)～18日(水) 岡山大学津島キャンパス(岡山)

■ 出席PO 松岡正邦

### ■ 概要

推進費関係の研究報告については、S-10に関連した発表(XG115)の1件のみであった。31の会場で講演発表が並行して行われ、以下のセッションに参加した。

#### ○シンポジウム<IPCC第5次報告書の動向>

同報告書を構成するWG1～WG3に参画している3名の招待講演と関連する展望講演及び報告があった。

- ・WG1:温暖化シグナルの検出とその原因特定(XG113)、WG2:地球温暖化が引き起こす影響(XG115)、気候変動緩和に関する最近の研究・分析動向(XG117)、[展望]途上国の持続可能なバイオマス利活用への道(XG121)、最貧地域の太陽光発電利用の水供給システム(XG119)

#### ○シンポジウム<環境部会シンポジウム>

- ・生物・微生物による環境浄化:ユウレイボアの海水ろ過能力(ZF100)、キノプロファイル法を用いた堆肥の微生物群構造(XF105)、膜反応器の更新型長期膜差圧予測モデル(XF106)、[展望]バクテリアのコミュニケーション機構制御によるバイオフィーム・バイオフィアリング対策(XF107)
- ・環境汚染物質の挙動解析:日本海における環境汚染物質の分布と挙動(XF101)、Ca-Al化合物を用いたフライアッシュの固化(XF216)、CaO-MgO-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-SiO<sub>2</sub>系スラグ融液へのCaO粒子の溶解特性(XF217)、スラグ中のCaフェライトの加圧炭酸化・抽出特性(XF218)
- ・有害物質等の分解処理または回収技術:光フェントン反応によるジオキサンの酸化分解(XF102)、オルガノクレーによる水中抗菌剤の捕集・分解(XF103)、ルミドロス由来LDHの有機化合物の除去(XF104)、汚泥灰からのリン回収における重金属挙動(XF201)、下水汚泥焼却灰からの重金属の塩化揮発(XF202)、湿式法による廃希土類磁石からの希土類元素の回収(ZF203)、タングステンバイオソープション(XF206)、積層型多流路反応器による金属イオン溶媒抽出操作の設計(XF207)
- ・レアアースなどの回収:リン酸石膏からのレアアースの回収(XF204)、イオン液体利用の廃蛍光管からのレアアースの分離回収(XF205)、溶媒抽出によるベースメタルからの白金族金属分離(XF208)、希土類元素の吸着分離剤の開発(XF209)、金属のダイナミックマテリアルフロー分析(XF213)、酸化セリウム系ガラス研磨材粒子(XF219)

#### ○シンポジウム<再生可能エネルギーリサイクルの実現に寄与するカーボンフリーエネルギーキャリア研究の最新動向>

- ・アンモニア関連技術:吸蔵物質による蒸気圧制御(H303)、充填層型反応器を用いた金属塩化物の吸収・固定化特性(H304)、[展望]再生可能エネルギーによる合成プロセス(H313)
- ・メチルシクロヘキサン関連技術:水素分離膜と脱水素膜型反応器(H305)、有機ハライドによる水素エネルギー貯蔵・輸送システム(H307)、[展望]水素エネルギーの大量貯蔵輸送技術(H308)
- ・その他:コバルト酸リチウムを用いた新規熱化学水分解(H306)

### ■ 特記事項(環境研究総合推進費の研究推進に関連する事項等)

展望講演等を除いては、個別の基礎研究および技術開発に関するものが多く、環境問題への位置づけが明確ではないものも見られた。

## 化学工学会 第45回秋季大会

■ 日時・場所 平成25年9月16日(月)～17日(火) 岡山大学津島キャンパス(岡山)

■ 出席PO 安田憲二

### ■ 概要

本学会では、環境部会、エネルギー、プロセス安全管理、資源・エネルギー・環境分野における反応工学の新展開、合成生物学が拓くバイオプロセス開発のインパクト等50のセッションで口頭発表や展望講演等があり、この他には特別講演としてナイカイ塩業㈱の野崎泰彦氏による「塩屋一筋184年」の講演も行われた。

#### ○シンポジウム<バイオ関連先端技術・次世代研究によるグリーンイノベーション>(G会場)

このセッションでは、第一線でバイオ関連先端技術・次世代研究に携わっている研究者による「招待講演」(発表40分)9課題と「展望講演」(発表1時間)1課題が報告された。内容は多岐にわたっており、一線級の研究者による講演であったこともあり、大変勉強になった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・機能性たんぱく質の部位特異的アセンブリ技術の開発と応用(招待講演)
- ・耐熱性酵素モジュールによるIn vitro代謝工学への挑戦(招待講演)
- ・新たな挑戦:イノベティブ・バイオプロダクション(展望講演)
- ・バイオリファイナリーを目指したイオン液体の活用(招待講演)
- ・遺伝子組換え微生物を用いたイソプロパノール生産(招待講演)
- ・高品質バイオ燃料を連続製造可能な環境配慮型反応分離技術の開発(招待講演)
- ・バクテリアナノファイバー蛋白質の機能を基盤とする界面微生物の構築(招待講演)

#### ○シンポジウム<環境部会シンポジウム>(XF会場)

本セッションでは、バイオマス、汚泥灰や廃蛍光管からのリン回収およびレアメタルを含む金属回収等について発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・バクテリアのコミュニケーション機構制御によるバイオフィルム・バイオフィアウリング対策技術の開発(展望講演)
- ・使用済み蛍光管からのリン溶出と回収
- ・汚泥灰からのリン回収における重金属の挙動
- ・湿式法による希土類磁石からの希土類元素の抽出
- ・イオン液体を利用した廃蛍光管からのレアアースの分離回収
- ・溶媒抽出によるベースメタルからの白金族金属分離
- ・金属のダイナミックマテリアルフロー分析(展望講演)

#### ○シンポジウム<資源・エネルギー・環境分野における反応工学の新展開>(H会場)

このセッションでは、資源・エネルギーに関連した反応工学分野の発表が多かった。時間の関係で、2課題の講演を聴講した。聴講した課題は、以下のとおりであった。

- ・ソノケミカルエンジニアリングプロセスの効率化(招待講演)
- ・商業化を見据えたグリーンイノベーション技術開発(展望講演)

#### <PO所感>

この学会では、バイオ関連先端技術・次世代研究によるグリーンイノベーションおよび環境のシンポジウムに関する発表課題を中心に聴講した。学生による発表の多くの討論が低調なため、招待講演、展望講演を積極的に聴講した。展望講演のうち「新たな挑戦:イノベティブ・バイオプロダクション」(60分)、「金属のダイナミックマテリアルフロー分析」(60分)、「金属のダイナミックマテリアルフロー分析」(60分)の3課題が、また招待講演については「機能性たんぱく質の部位特異的アセンブリ技術の開発と応用」(40分)、「バイオリファイナリーを目指したイオン液体の活用」(40分)、「高品質バイオ燃料を連続製造可能な環境配慮型反応分離技術の開発」(40分)の3課題が、現状解析を踏まえて、これまでの成果や展望をわかりやすく整理したうえで、今後目指すべき研究の方向性、可能性を明確に示しているなど、大変示唆に富む講演であった。



## 第 54 回大気環境学会年会

■ 日時・場所 平成 25 年 9 月 18 日 (水) ~20 日 (金) 新潟コンベンションセンター (新潟)

■ 出席 PO 幸田清一郎

### ■ 概要

第 54 回大気環境学会年会が、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター (新潟市) で開催 (9 月 18 日 ~20 日) され、19~20 日参加した。聴講したのは、特別講演「最近の中国大気汚染問題と日中環境協力の展望」とシンポジウム「東アジアの大気汚染問題に関する最新の取り組みと今後の課題」、および特別集会 3「福島原発事故による環境影響調査結果と放射性物質の動態研究の再構築に向けて」である。

#### ○特別講演「最近の中国大気汚染問題と日中環境協力の展望」(小柳秀明：(公財)地球環境戦略研究機関)

講師は、上述の財団法人の北京事務所長を長く務め、2013 年初に発生した激甚大気汚染に至る、これまでの中国の大気環境問題に深く関心を持っている。その立場から、中国の環境問題として、①非常に広い面積、②環境問題が民族問題・貧困問題とも強く関係している、③各省の独立性が強く、中央政府の一貫した政策が浸透しにくい面がある、④多様な自然環境、⑤郷鎮企業が環境問題を引き起こしやすい等の特徴が説明された。さらに、時間的推移の面からは、大気汚染、化学物質問題、砂漠化や生態保全問題、地球温暖化問題が同時平行的に起こっており、これらの問題が時系列的に起こった日本に比べ対応がより困難であるという意見が述べられた。激甚大気汚染以降、中国政府はかなり抜本的な対応政策を打ち出していることや、日中環境協力の状況の説明があった。しかし今後どのように推移していくかについて講師の見解が十分には示されなかった。

#### ○シンポジウム「東アジアの大気汚染問題に関する最新の取り組みと今後の課題」

##### (1) 遠隔地での観測による越境大気汚染の実態 (高見昭憲：国立環境研究所)

北部九州地区における PM2.5 など微小粒子状物質の大気中動態について、観測結果の報告があった。エアロゾルの質量濃度、組成、後方流跡線解析などから、越境汚染の状況、さらに最近可能になりつつある粒子内部構造観測による詳細な粒子生成の検討の可能性などが議論された。

##### (2) 水銀に関する水俣条約と大気環境研究 (鈴木規之：国立環境研究所)

採択予定の水俣条約の概要、日本国内・地球規模での水銀動態の把握の現状が報告された。今後、排出、観測、またモデル等の大気環境研究が求められるだろうとの予測が述べられた。

##### (3) 衛星観測による東アジアにおける大気質変動理解へのアプローチ (北和之：茨城大学) 他

オゾンおよびその前駆気体の衛星観測の必要性・可能性の考察に基づき、静止大気環境観測衛星の打ち上げ、国際宇宙ステーションの利用などの検討状況が報告された。

##### (4) 東アジアにおけるコベネフィットアプローチに対する行政的取り組み (藤田宏志：環境省水・大気環境局)

コベネフィットアプローチの必要性、日中韓環境大臣会合、アジア・コベネフィット・パートナーシップの活動、短寿命気候汚染物質対策への取り組みの現状などが報告された。この議論の中で、政策側への科学的な情報のインプットが重要であり、学会に期待したい旨の発言があった。

#### ○特別集会 3「福島原発事故による環境影響調査結果と放射性物質の動態研究の再構築に向けて」

事故から 2 年半が経過したこの時点で、これまでの観測・調査結果の状況を整理し、そのうえでこれからの動態の研究を再構築していくべきではないかとの世話人 (鶴田治雄 (東京大学)・森野悠 (国立環境研究所)) の意識のもと、座長 (渡邊明 (福島大学)) の司会で 7 つの講演が行われた。詳細は省略するが、現時点で新規な研究の進展も見られ、事故からの時間が経過してはいるものの、将来にわたってきちんとした研究により放射性物質の動態がより明確に解析・理解されていく可能性が示された。

#### < PO 所感 >

安全安心な社会の構築には、PM2.5 や放射性物質の動態等の科学的知見の集積が重要であるが、これへ向けた大気環境研究の現状が把握できた。研究の成果が、政策面にも生かされることを期待したい。

## 第 54 回大気環境学会年会

■ 日時・場所 平成 25 年 9 月 18 日 (水) ~20 日 (金) 新潟コンベンションセンター (新潟)

■ 出席 PO 野内 勇

### ■ 概要

第 54 回大気環境学会年会が、朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター (新潟市) で開催 (9 月 18 日 ~20 日) され、18~20 日参加した。聴講したのは、18 日午後のポスターセッション、植物分科会「森林における大気汚染物質の乾性沈着」、19 日午前の一般研究発表「生体影響」、午後の特別講演「最近の中国大気汚染問題と日中環境協力の展望」とシンポジウム「東アジアの大気汚染問題に関する最新の取り組みと今後の課題」、20 日午前の特別集会 3「福島原発事故による環境影響調査結果と放射性物質の動態研究の再構築に向けて」である。19 日午後から 20 日午前にかけては幸田 PO と出席が重なっており、そこは幸田 PO の詳しい報告があるので、ここでは 18 日午後から 19 日午前を中心に報告する。

### ○ポスターセッション

オゾン、PM2.5 などの粒子状物質、大気中水銀、揮発性有機化合物など様々な物質を対象として、測定法、観測、動態、生体・植物影響などが発表された。推進費関連課題として「B-1008：大気境界層における大気中水銀の長距離輸送の解明 (滋賀県立大学)」、「B-1008：乗鞍岳における大気中水銀および同期するガス状成分の観測 (滋賀県立大学)」、「5-1306：中国の異なる砂漠地域で採集した黄砂の物性比較 (金沢大学)」、「5-1306：黄砂粒子表面における多環芳香族炭化水素のニトロ化促進メカニズム (金沢大学)」、「5B-1105：ブナ、コナラ、ミズナラおよびシラカンバの葉の気孔を介したオゾン吸収量の推定 (東京農工大学)」、「5B-1105：落葉広葉樹 4 種の葉の純光合成速度に及ぼす 1 成長期間のオゾン曝露の影響とオゾン吸収量との関係 (電力中央研究所)」があり、説明を受けるとともに、質疑・応答をかわした。

### ○植物分科会「森林における大気汚染物質の乾性沈着」

#### (1) 日本海側の森林集水域における大気沈着特性とその影響 (佐瀬裕之：アジア大気汚染研究センター)

SO<sub>2</sub>-や NO<sub>3</sub>-などの大気沈着量とその森林生態系への影響評価、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET) においての日本海側に面した森林集水域で大気沈着量の 10 年間の観測結果の報告があった。樹木衰退は顕在化していないが、渓流水の酸性化、冬季に SO<sub>4</sub>-などイオン成分の大気沈着量増加などが観測され、季節風による越境大気汚染の影響の顕在化の可能性が議論された。本講演には推進費 C-052、C-081、B-801 の成果が含まれている。

#### (2) 最近の乾性沈着研究における留意事項 (松田和秀：東京農工大学)

近年、ガスやエアロゾルの乾性沈着フラックス観測が行われる機会が多くなり、沈着速度の知見が蓄積されてきているが、乾性沈着の調査や手法に関して留意すべきことの報告があった。乾性沈着フラックスの測定法である渦相関法と濃度勾配法における濃度差を計測する上での問題点や、風速の高度補正による計算高度 20m の新基準設定などわかりやすい説明であった。

### ○一般講演発表「生体影響」

黄砂や PM2.5 の健康影響、その他の大気汚染物質の疫学調査事例など 9 課題を聴講した。推進費関連では以下の講演発表があった。

【5C-1154】黄砂・大気汚染日の経路・成分による分類および人体へ及ぼす健康影響評価 (鳥取大学)

【S-7】東アジアの PM2.5 とオゾンによる健康リスクの経済的評価 (アジア大気汚染研究センター)

### <PO 所感>

大気環境学会の研究発表は、オゾン関連物質、PM2.5 を含む粒子状物質、酸性雨、自動車排ガス関連でほとんどを占める中、推進費の成果が確実に発表されている。一般講演では、注目すべき議論が戦わされるという場面はほとんどなく、淡々とした質疑応答であった。一方、特別集会 3「福島原発事故による環境影響調査結果と放射性物質の動態研究の再構築に向けて」では、活発な論議があり関係者の熱意が感じられた。

## 環境経済・政策学会 2013 年大会

■ 日時・場所 平成 25 年 9 月 21 日（土）～22 日（日） 神戸大学（神戸）

■ 出席 PO 福山研二

### ■ 概要

表記学会大会が神戸大学で、開催された。

初日は、公開シンポジウム「グリーンサプライチェーンの展開と政策的課題」に参加した。問題提起を神戸大学の國部克彦氏が行い、環境責任が企業単一から、供給体制（サプライチェーンにまで拡大してきていることを、企業と消費者という観点から問題提起した。環境負荷の発生する場所やサプライチェーンの法的な問題、境界の問題などを述べ、サプライチェーンに消費者も含めるべきとの論であった。グリーンサプライチェーンへ向けた政策的課題として、自主的な促進政策は、イニシアチブは誰が取るのか、情報開示、消費者の役割、海外企業との連携などについて問題提起がされた。基調講演は、コニカミノルタの家氏信康氏が企業でのサプライチェーンの取り組みと課題について報告した。その後、パネルディスカッションとして、植田和弘氏（京都大学）を座長とし、有村俊秀氏（早稲田大学）、伊藤宗彦氏（神戸大学）、國部克彦氏（神戸大学）、荒井喜章氏（パナソニック）、葎嶋真理氏（CDP 事務局）の各氏の短い報告と会場との討論などが行われた。

2 日目は、S-11 の成果を中心とした企画「統合的持続可能な開発目標の検討と提示へ向けて」に参加した。内容は、東北大学の楊氏他による「統合的持続可能な指標の計測：地球環境データを補完した Inclusive Wealth Index」という報告、東京工業大学の蟹江氏他による「ポスト 2015 年開発アジェンダにおける持続可能な開発目標」、IGES の森氏他による「持続可能な開発目標実施のためのマルチレベル・ガバナンスのあり方」という報告があり、会場からも多くの質問やコメントが出ていた。

その後、再生可能エネルギーのセッションに参加した。ここでは、小水力発電による地域経済波及効果の高知県における分析や固定買い取り制度の自治体導入施策のケーススタディー、長崎県小浜温泉での地熱発電への地域住民主導の取り組みなどが紹介されていた。条件を整えば、小規模な再生エネルギーの導入が可能であることが示されていたが、これをどれだけ全国に拡大できるかが課題であろう。

午後は、学会長の大沼あゆみ慶應義塾大学教授による「自然資本の役割と持続可能な保全」と題した講演があり、世界の自然資本が貧困層にとって重要な収入となっており、それを保全することが貧困回避につながり、その為に 1,000 億ドル/年の予算が必要であること、それを世界から供出することは可能であることを示されていた。ただし、供出された資金をどのように使うかが問題であると感じた。その後は、生物多様性や生態系サービスの経済的価値のセッションなどに参加した。

### ■ 特記事項（環境研究総合推進費の研究推進に関連する事項等）

特になし。

## 水文・水資源学会 2013 年度研究発表会

■ 日時・場所 平成 25 年 9 月 25 日（水）～26 日（木） 神戸大学（神戸）

■ 出席 PO 志水俊夫

### ■ 概要

水文・水資源学会 2013 年度研究発表会が 9 月 25 日（水）～27 日（金）まで、神戸大学百年記念館、六甲ホールほかで、一般口頭発表、ポスター発表、研究グループ発表、シンポジウム等が開催された。今回は 25 日～26 日の二日間参加した。

降水、降雪、流出、河川・湖沼、海岸、気候変動、地球環境、流域水管理、森林・農地・都市水文、リモートセンシング等のセッションにおいて多数の発表が行われた。PO 業務の参考とするため、推進費の研究対応に参考となるような発表を主に聞いた。以下は、推進費の支援による謝辞の記載が要旨集において確認された発表課題である。

- ・成分分離を利用した流域の貯留量変動および貯留容量の推定法の検討、小林秀平・横尾善之（福島大学）、S-8-1(4)による支援研究
- ・過去 30 年間の裏磐梯檜原湖の表流水量データの解析、渡邊泰世・横尾善之（福島大学）、S-8-1(4)による支援研究
- ・地域気候シミュレーション結果から得られた夏季降水量の将来変化と地形との関係、常松展充・大楽浩司・平野淳平（防災科学技術研究所）、S-5-3 による支援研究
- ・確率台風モデルによる台風暴露人口の将来予測と台風データの統計解析、井芹慶彦・楠原啓右・岩崎明希人・鼎 信次郎（東京工業大学）、S-10 による支援成果
- ・統計手法と力学手法を用いた表層崩壊危険度評価、小野桂介・風間 聡（東北大学）、S-8 による支援研究
- ・温暖化に伴う土砂災害に起因する人的影響の評価、宗像佑磨・江坂悠里・川越清樹（福島大学）、S-8 による支援研究

また、東日本大震災時の福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の拡散とその後について、水・土壌・河川環境に係わる本学会がどのように取り組んできたか、取り組んでいるか、その一端を見るために、震災関連の発表を聞いた。

- ・移川流域における放射性セシウムの移行に関する研究、小俣哲平・木内 豪（東京工業大学）
- ・水田灌水による土壌からの放射線量低減効果の検討、飯田俊彰・久保成隆・溝口 勝・西村 拓・登尾浩助（東北大学）
- ・福島県真野川における底生生物および流下物からの放射線量の計測、野本健志・藤野 毅（埼玉大学）

### <PO 所感>

水文・水資源学会は、個々の専門分野では対応が難しい学問領域の問題に対応するために、気象学、地理地質学、土木工学、農業工学、林学砂防工学、人文科学などの専門分野が横断的に連携し、活動を行うことを目指して始まり今年で 25 周年となったが、最近の学会発表傾向を見ると、学際的というより各専門分野の一発表会場という印象が強い。他の専門分野の発表を聞けばそれはそれで意味はあると思うが、折角の連携学会であるので、その利点を生かした発表、活動があるとよいと感じた。

### ■ 特記事項（環境研究総合推進費の研究推進に関連する事項等）

特になし。

## 第 24 回廃棄物資源循環学会研究発表会

■ 日時・場所 平成 25 年 11 月 2 日 (土) ~4 日 (月) 北海道大学 (札幌)

■ 出席 PO 安田憲二

### ■ 概要

本学会では、ごみ発生・排出抑制、有料化・経済的手法、LCA・低炭素社会、災害廃棄物処理、自動車・家電・電子機器・プラスチックの資源化、中間処理 (焼却技術・ごみ発電・熱利用等)、埋立処分、有害廃棄物など、廃棄物の処理・処分等における広範な分野にわたって、50 以上のセッションで口頭およびポスター発表が行われた。この他には特別プログラムとして「北海道におけるエゾシカ問題―被害・捕獲・処理・有効利用―」の講演も行われた。

#### (1) C2 排ガス処理・監視 (第 4 会場)

このセッションでは、低温無触媒脱硝法の実証、廃棄物発電ボイラへの重金属の付着およびマレーシアにおける水銀排出インベントリ等に関する発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・励起アンモニアインジェクションによる低温無触媒脱硝法の実証
- ・廃棄物発電ボイラへの重金属付着挙動
- ・マレーシアにおける水銀排出インベントリ及びポテンシャルに関する調査

#### (2) C4 熱処理における放射性物質・重金属の挙動 (第 4 会場)

本セッションでは、放射性物質汚染廃棄物の燃焼における放射性セシウムの挙動と焼却炉内の耐火物への浸透などについて報告があった。主な報告は、以下のとおりであった。

- ・ごみ燃焼時のセシウム挙動の研究
- ・放射性物質汚染廃棄物の燃焼における放射性セシウムの挙動に対する組成と温度の影響
- ・一般廃棄物焼却施設内部に蓄積した放射性核種と空間線量率の調査

#### (3) C5 熱処理における放射性物質・重金属の挙動 2 (第 4 会場)

このセッションでは、熔融技術による除染廃棄物からのセシウムの分離、焼却残さの熔融処理におけるセシウムの挙動、実稼働の灰熔融施設におけるスラグ中放射性物質濃度の低減等に関して発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・福岡県における使用済み蛍光管からのレアアースリサイクルの取り組み
- ・東京都内の焼却・熔融処理における希少金属の挙動
- ・熔融技術による都市ごみ焼却残さ、下水汚泥、土壌からのセシウム分離

#### (4) G3 熱・エネルギー供給と廃棄物処理施設 (第 4 会場)

本セッションは廃棄物計画部会の企画セッションであり、廃棄物処理計画 (論) へのアプローチを主体とした発表があった。主な報告は、以下のとおり。

- ・日本の廃棄物処理施設の熱・エネルギー供給の可能性と現状
- ・熱・エネルギー供給を有効にするための廃棄物処理施設の立地

#### (5) C3 ごみ発電・熱利用 (第 4 会場)

このセッションでは、ごみ焼却施設における発電・熱利用の推進に向けた発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・14C 法による都市ごみ中バイオマス割合の時間的変動の推定
- ・ごみ焼却・バイオマス化複合システムの運転

#### (6) G8 災害廃棄物の焼却処理 (第 4 会場)

本セッションは焼却部会の企画セッションで、仮設焼却炉による災害廃棄物の焼却処理の実施状況等について発表があった。主な発表課題は、以下のとおり。

- ・東日本大震災より発生した災害廃棄物の焼却処理の全体概要
- ・仮設焼却炉調査結果報告

### <PO 所感>

本学会では、焼却処理を中心に聴講した。災害廃棄物の処理に関する発表が多く、特に熱処理における放射性物質の挙動についての発表では質問が多く、活発な討議が行われた。また、焼却に伴うごみ発電や熱利用は環境行政の重要課題でもあることから、ほかの会場と比べて参加者が多く、活況を呈していた。この分野での発表は、今後も増える可能性を示唆させる状況であった。

## 第 24 回廃棄物資源循環学会研究発表会

■ 日時・場所 平成 25 年 11 月 2 日 (土) ~4 日 (月) 北海道大学 (札幌)

■ 出席 PO 井上雄三

### ■ 概要

ごみの発生・抑制・フロー・経済、廃棄物の計画・行政・管理・住民参加、各種資源化システム・技術、焼却・ごみ発電・熱利用技術、排ガス・灰処理技術、埋立処分、有害廃棄物管理・処理技術、災害廃棄物処理、放射性物質の処理など、廃棄物管理・資源化に関する広範な分野にわたり、41 のセッションで 379 編 (口頭発表 : 232 編, ポスター発表 : 100 編, International Hybrid Session : 47 編) の口頭およびポスター発表が行われた。また、特別プログラム「北海道におけるエゾシカ問題 ー被害・捕獲・処理・有効利用ー」及び International Symposium “PCB and POPs Management”が行われた。

以下報告者が参加したセッションの概要を述べる。

### (1)A3 ごみフロー・物質フロー (第 7 会場)

- ・地域特性とエコタウン特性の分析によるエコタウン事業の類型化
- ・小型家電製品のリサイクルプロセスの経済性・環境性評価

### (2)A8 LCA・低炭素社会 (第 7 会場)

- ・ごみメタン化施設への FIT の導入による経済性検討
- ・ごみ焼却施設での汚泥混焼による財政面及び環境面での改善効果の試算

### (3)B4 無機性廃棄物の資源化 (第 2 会場)

- ・焼却灰を利用した CO<sub>2</sub> 固定・資源回収装置の開発
- ・石炭灰を活用した防潮堤盛土実証試験の結果報告
- ・電気二重層イオン除去による焼却灰洗浄のクローズド化に向けての電極開発

### (4)B6 食品廃棄物・生ごみの資源化 (第 3 会場)

- ・埼玉県本庄市を対象とした食品系廃棄物の有効利用方法の提案と評価
- ・焼酎粕リサイクル施設の長期安定運転実績とその運転管理について

### (5)B10 有機性廃棄物の資源化 (第 3 会場)

- ・バイオマスメタン発酵液肥の隣接自治体間での需給調整による広域連携の効果
- ・地域活性化をめざしたバイオマス利用技術戦略の立案手法

## ○環境研究総合推進費 (第 3 研究部会) 課題の発表

### (1) 研究事業 (一般枠)

K2360 (菅原龍江) 1 件、K2363 (樋口壯太郎) 2 件、3K113012 (浅利美鈴) 1 件、3K113017 (谷川 昇) 5 件、3K113019 (北口敏弘) 1 件、3K113022 (川崎幹生) 1 件、3K113024 (渡辺洋一) 2 件、3K113026 (高橋 史武) 1 件、3K123010 (田中 茂) 1 件、3K123016 (平井康宏) 2 件、K2304 (山脇 敦) 5 件、K2370 (稲葉陸太) 2 件、K2338 (河井紘輔) 1 件、3K123001 (酒井伸一) 2 件、3K123004 (川本克也) 2 件、3K123020 (中谷久之) 1 件、3K113001 (高岡昌輝) 1 件、3K113004 (肴倉宏史)、3K113023 (松藤敏彦) 1 件

### (2) 研究事業 (復興枠)

3K122102 (島岡隆行) 3 件、3K122103 (大迫政浩) 3 件、3K123108 (山本貴士) 1 件

### (3) 次世代事業

3J112002 (高田純一) 1 件、J122001 (中山 剛) 1 件、J112001 (松本信行) 1 件、J112002 (富山茂男) 2 件

### <PO 所感>

物質フロー、資源化を中心に聴講した。研究の中心が技術開発から計画や評価に移りつつあるという印象を受けた。資源化においては高品質物は商用化、実装化が進んでいるが、低品質物は実装化が遅れ、新たな解決策が求められている。特別プログラムでは野生動物対策、特にエゾシカ対策が取り上げられ、農業被害が多くなっており、駆除と駆除動物の安全な処分、駆除動物の有効利用の事例が紹介された。

## 日本気象学会 2013 年度秋季大会

■ 日時・場所 平成 25 年 11 月 19 日 (火) ~21 日 (木) 仙台国際センター (仙台)

■ 出席 PO 笹野泰弘

### ■ 概要

日本気象学会 2013 年度秋季大会が 11 月 19 日 (火) ~21 日 (木)、仙台国際センターにおいて開催された。分野毎の 13 のセッション、ポスターセッション、各賞受賞記念講演、「二酸化炭素研究の新展開」と題するシンポジウムが行われた他、6 件のスペシャルセッションが実施された。21 日午前の専門分科会 A 会場 (データ同化・気象予報)、ならびに同日午後のスペシャルセッション (大気-陸面間の水・エネルギー・炭素フラックスに関する最新研究 2013) に参加したので、それらの概要を紹介する。

### ○専門分科会 A 会場 (データ同化・気象予報)

本専門分科会では、「気象庁現業ドップラーレーダーで求めた屈折率の同化実験」、「EnKF・EnVAR の統合メソデータ同化実験システムの開発」、「新しい NHM-4DVAR を用いたデータ同化実験」、「高頻度衛星観測による大気追跡風 (AMV) の同化実験」、「全球データ同化システムによる AIRS データの観測誤差調整」等のデータ同化に関わる最新研究、また新しい格子 (グリッド) 設定による数値モデルの開発に関する研究等、計 15 件の発表が行われた。

### ○スペシャルセッション (大気-陸面間の水・エネルギー・炭素フラックスに関する最新研究 2013)

本スペシャルセッションの開催の背景は、「陸域の水、熱、炭素循環は大気循環をコントロールする重要な素過程であり、さまざまな学問分野・視点から数多くの研究がなされてきたが、時間・空間スケールや対象領域、手法が多岐に渡る分野横断型の研究であるため、これらの研究に携わる異分野の研究者が一堂に会する機会が少なく、情報の共有が必ずしも十分に進んでいないのが現状であった」ことにあり、若手を中心とした異分野の研究者が研究内容や各分野の現状が紹介された。

研究対象の空間スケールを考慮して、全球スケール、領域スケール、地点スケールに 3 区分され、それぞれの区分の中で多様な研究の紹介がなされた。

### <PO 所感>

異分野の研究者の交流を促進する試みを、学会活動として若手研究者が中心になって始めたことは評価される。

### ■ 特記事項 (環境研究総合推進費の研究推進に関連する事項等)

異分野連携を促進する上で、推進費の戦略課題の設定等においても、広い視点からの提案を進めていくことが必要である。

## 第9回日本 LCA 学会研究発表会

■ 日時・場所 平成26年3月4日(火)～6日(木) 芝浦工業大学豊洲キャンパス(江東区)

■ 出席 PO 松岡正邦

### ■ 概要

要旨集によると、環境研究総合推進費の援助を記載した報告は15件であった。基調講演以外は4～5会場で発表が並行して行われた。都合により、第1日目(3月4日)と第3日目(3月6日)の以下のセッションを聴講した。各講演のキーワード(題目)を示す。

### 基調講演

「リーテムにおける LCA/MFA の活用と資源循環」(株)リーテム 中島賢一

同社の会長として、資源リサイクルに関する制度の展開を政府委員の経験も踏まえた講演。

「生活者、消費者を起点とする環境政策」中央学院大学 福嶋浩彦

我孫子市長及び消費者庁長官の経験に基づくリスクコミュニケーションから市民性教育までの持論展開。

### セッション「地域エネルギーシステム」

いずれも具体的な地域を対象とする小規模な再生可能エネルギーシステムの導入に関する研究。(A1-01) 北海道を例とする再生可能エネルギー導入構想への LCA 手法の活用、(A1-02) 近畿地方における分散型発電の需給バランスと電力融通ポテンシャルの評価、(A1-03) 都留市を例にした再生可能エネルギー技術導入の影響分析、(A1-04) 淡路島を事例とした再生可能エネルギー自給可能性の検討。

### セッション「バイオマスと再生可能エネルギー」

バイオマス利用の意思決定、戦略、プロセス解析等。(A1-06) 三浦市を例とする地域バイオマス事業の意思決定への LCA の活用、(A1-07) 地域活性化を目指すバイオマス利用戦略、(A1-08) バイオマス未利用エネルギーのシステム設計、(A1-09) パイロット試験の効率化への LCA の応用のケーススタディ。

### セッション「住宅構造・設計」

木造住宅建設における LCA 評価。(A1-20) 木造、鉄骨、鉄筋住宅の LCA 比較、(A1-21) 4 棟の建設現場で発生した副産物(廃棄物)の管理手法、(A1-22) 長野県の木造住宅による炭素貯蔵量の推計。

### セッション「再生可能資源のフロー分析」

各種資源のフローのモデル解析。(C3-01) 食糧・バイオエネルギーの需要予測と農地必要量、(C3-02) 構造経路分析手法による農産物のキャッシュフロー分析、(C3-03) 新潟県産スギ材を用いた住宅建設における炭素収支、(C3-04) グループ意思決定分析による選択権。

### セッション「再生可能資源の将来予測」

(C3-06) 再生可能エネルギー産業連関モデルの開発、(C3-07) 第一世代バイオマスの需給量変化の予測、(C3-08) 住宅による炭素蓄積量の予測、(C3-09) 石油精製システムへのバイオマス利活用システムの設計。

### セッション「金属資源利用の制約」

(D3-13) 都市鉱山からの回収機構のモデル化、(D3-14) 鉱山権益に基づく鉱物資源利用可能性の評価、(D3-15) 鉱物資源の LC 評価手法の開発、(D3-16) 金属使用量の飽和時点における各国の経済成熟度の比較。

### <PO 所感>

質疑応答および総合討論で講演者と参加者との間で意見交換がなされて、問題点が明らかにされることが多かった。



## 第9回日本LCA学会研究発表会

- 日時・場所 平成26年3月4日(火)～6日(木) 芝浦工業大学豊洲キャンパス(江東区)
- 出席PO 安田憲二

### ■ 概要

日本LCA学会では、地域エネルギーシステム、地域と都市、バイオマス、資源循環、フットプリントなどの広範囲の分野について、LCAによる定量評価を中心とする研究発表が行われており、第3(循環)研究部会で研究を実施している研究者も発表会に多数参加している。また、2課題の基調講演も行われ、このほかに、インパクト評価、消費者行動とライフスタイル、環境教育など7つの特別セッションが設定されていた。主なセッションにおける発表課題は以下のとおりである。

#### (1) 基調講演 (M 会場)

2課題の基調講演のうち、「生活者、消費者を起点とする環境政策」の演題では、千葉県我孫子市の市長を3期、消費者庁長官を2年歴任した中央学院大学の福嶋浩彦氏が、自分の判断で行動することの重要性を指摘し、自然の保全や生活環境等を守るためには、国に頼ることなく地域をベースにした行動や発信が重要であり、そのためのツールとしてLCAの知見等が活用できるようにしてほしいとの要望がなされた。

#### (2) 廃棄物処理システム (3/4C 会場)

このセッションでは、廃棄物処理施設からの環境負荷の評価、ガラスを中心としたセラミックス系の循環利用等について3課題の発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・産業廃棄物中間処理施設から排出される環境負荷の評価
- ・ガラスを中心とした酸化物系セラミックスの循環利用システム的设计

#### (3) 廃棄物のエネルギー利用 (3/4C 会場)

このセッションでは、廃食油等の廃棄物からのエネルギー回収と利用効率、生ごみと下水汚泥の処理・利用システムおよび家畜排せつ物の利活用等について4課題の発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・廃食油を用いたバイオディーゼル燃料の環境効率性分析
- ・廃棄物からのエネルギー回収の高度化に関する研究
- ・生ごみと下水汚泥の処理・利用システムのライフサイクル分析

#### (4) マテリアルフロー分析 (1) 資源消費のフットプリント (3/4E 会場)

このセッションでは、資源利用強度、マテリアルフローフットプリントおよび企業レベルでの資源生産性指標等について発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・財・サービスの資源利用強度と需要構造が国の資源生産性に与える影響—10か国の時系列変化—
- ・日本のマテリアルフローフットプリント
- ・企業レベルでの資源生産性指標の試算

#### (5) マテリアルフロー分析 (2) 資源循環ポテンシャル (3/5D 会場)

本セッションは、廃自動車、廃太陽電池パネルの資源循環ポテンシャル等について4課題の発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・廃棄自動車マテリアルフロー推定と環境評価への応用
- ・時間変化する残存率の簡易推定と新興国自動車保有台数の現状推定
- ・太陽電池パネル廃棄量の地域別発生量予測に基づく輸送・再資源化の最適配置

#### (6) 特別セッション：インパクト評価 (3) グローバルスケール (3/6B 会場)

このセッションでは、LIME3を用いた資源採掘等による土地利用の変化に伴う生物多様性などへの定量的な影響評価手法について5課題の発表があった。主な発表課題は、以下のとおりであった。

- ・LIME3：世界版ライフサイクル影響評価手法の開発
- ・LIME3に向けた土地及び森林資源利用による生態系への被害評価手法の検討

<PO 所感>

本学会は設立後9年と短いため、参加者は大学院生などの若手が多く、質問に答えられないために立ち往生する場面も少なくなかった。また、LCAでは評価手法の条件付け、境界条件の設定が重要であるが、入手できるデータだけを利用しており、現場認識が希薄なために具体的なイメージが描けない発表も多数あるなど、発表レベルは玉石混交との印象を持った。

## 第9回日本 LCA 学会研究発表会

- 日時・場所 平成26年3月4日(火)～6日(木) 芝浦工業大学豊洲キャンパス(江東区)
- 出席 PO 井上雄三

### ■ 概要

第9回大会では口頭発表155件(一般セッション84件、特別セッション71件)、ポスター116件の発表が行われた。一般セッションは、①地域エネルギーシステム、バイオマスと再生可能エネルギー、廃棄物のエネルギー利用などの再生可能エネルギー関連、②住宅構造・設計、地域と都市、製品と生産プロセス、運輸、建設、消費者生活とサービスなど都市や産業システム関連、③サブスタンスフロー分析、マテリアルフロー分析(資源消費のフットプリント、資源循環ポテンシャル)、発電技術の分析(太陽光と風力、従来型発電)、再生可能資源のフロー分析などのシステム分析関連の20セッションに分けられた。特別セッションは、環境情報の活用、消費者行動とライフスタイル、一次産業と食のLCA、サプライチェーンのリスク管理、環境教育、企業LCA/LCM及び企業の環境負荷削減評価、インパクト評価の8セッションに分けられた。また、リサイクル事業経営者「リチームにおけるLCA/MFAの活用と資源循環」及び元我孫子市市長「生活者、消費者を機転とする環境政策」による基調講演が行われた。以下は報告者が参加したセッションの概要である。

#### (1) 地域エネルギーシステム (A会場)

近畿地方における分散型発電の需給バランスと電力融通ポテンシャルの評価/地域産業連関モデルに基づいた再生可能エネルギー技術導入が中山間地域にもたらす影響分析/淡路島を事例とした再生可能エネルギー自給可能性の検討

#### (2) バイオマスと再生可能エネルギー (A会場)

地域バイオマス事業の意志決定プロセスにおけるLCAの活用/地域活性化を目指したバイオマス利用の諸政策で構成された戦略の提案/プロセス解析に基づくバイオマス未利用エネルギーの利活用システム設計

#### (3) 地域と都市 (C会場)

国内外都市の総合評価手法の開発 その1 CASBEE都市の評価可能範囲の拡張/その2 アジア新興国の都市を対象とした現在・未来の総合評価/都市緑地を対象とした生態系サービスの経済評価手法の開発/地域の安全性・頑健性評価手法の試行-地域の持続可能性評価に向けて/持続可能社会シナリオ作成のための社会の価値観に基づく社会像構築の試み

#### (4) 再生可能資源のフロー分析 (C会場)

将来の食品・バイオエネルギーの需要に係る土地制約/構造経路分析を用いた農産物のフロー分析/新潟県産牧西のライフサイクルアセスメント調査 その2 上越地域から中越地域に至る流通経路におけるライフサイクルアセスメント調査と端材の利活用状況に基づいたカーボンバランスの算出/グループ意志決定分析によるエネルギー選択支援の可能性-再生可能エネルギーへの転換を念頭にいた包括的サーベイ

#### (5) 再生可能資源の将来予測 (C会場)

再生可能エネルギー産業連関モデルの開発/仮想水分析のための第一世代バイオマスの需給量変化の将来予測/建築における木質バイオマスの有効利活用に関する研究-炭素蓄積量の観点から見た年次推移分析と効率的利用に向けた検討/石油精製への影響を考慮したバイオマス利活用システム設計

#### ○環境研究総合推進費(第3研究部会) 課題の発表

K122024 (3件)、S-11-2 (2件)、K2420、1E-1105 (2件)、E-1001 (1件)、K113002 (1件)、2-1302 (7件)、1E-1106 (1件)、5-006 (1件)

#### <PO所感>

地域エネルギー、再生可能資源・エネルギーを中心に聴講した。LCA 或いはライフサイクル思考、またその結果を用いた意志決定や成果の社会還元に関する研究発表であった。しかし、私が聴講した分野が特にその傾向が強かったのかもしれないが、施設(ハード)導入を含むシステム設計や評価に関する研究であるにもかかわらず、ほとんどハードを知らないという印象を受けた。机上のシステム設計に大きな不安を感じたが、同時に意志決定手法の確立やその過程が今後益々重要になると思われた。

## 第 61 回日本生態学会大会

■ 日時・場所 平成 26 年 3 月 14 日（金）～ 18 日（火） 広島国際会議場（広島）

■ 出席 PO 福山研二

### ■ 概要

表記学会大会が広島国際会議場で、以下の日程で開催された。

3 月 14 日（金）受付、自由集会

3 月 15 日（土）シンポジウム、ポスター発表

3 月 16 日（日）公開講演会、企画集会、一般発表、ポスター発表

3 月 17 日（月）総会、学会賞記念講演会、ポスター発表、自由集会

3 月 18 日（火）企画集会、一般発表

初日は、主に自由集会が開催されたので、外来種関係の集会などに参加した。推進費でも重要な課題となっている、小笠原のグリーンアノールや奄美のマンガースの駆除への化学薬品の導入についての報告があった。

2 日目は、熱帯林保全問題、外来動物の防除、ポスターセッションを中心に参加した。問題となっているセイヨウオオマルハナバチの昆虫成長制御剤を利用して巢内の次世代生産力を抑制する新規防除手法の紹介などがあった。また、アルゼンチンアリについても化学防除を中心とした防除の成功事例の紹介があった。

3 日目は、外来種と進化生物学に関するセッションに参加した。外来種を生物進化の実験と位置づけ、遺伝的変化や他の生物との相互作用、環境適応性などについて興味深い発表が行われた。

その他、公開講演会を聴講した。

公開講演会は、「里山のこれまでとこれから」というテーマで、広島大学の中越氏が趣旨説明を行い、

「里山の今とこれから」（鎌田鷹人・徳島大学）

「樹木の萌芽性から里山管理を考える」（伊藤 哲・宮崎大学）

「チョウ類を指標とした里山の植生管理」（石井 実・大阪府立大学）

「里山の文化多様性を活かすために」（深町加津枝・京都大学）

「草の里山」と生きる阿蘇草原再生協議会の活動から」（高橋佳孝・近畿中国四国農業研究センター）

と題する 5 題の講演があった。

4 日目は、総会が開催され、各種学会賞の授賞式に続き、記念講演があった。

5 日目は、企画集会と一般講演に参加した。

## 化学工学会第 79 年会

■ 日時・場所 平成 26 年 3 月 18 日 (火) ～ 20 日 (木) 岐阜大学柳戸キャンパス (岐阜)

■ 出席 PO 松岡正邦

### ■ 概要

参加した 3 つのセッション「未来のエネルギー問題を考える」、「環境」、「化学産業技術フォーラム」について、概要を報告する。なお、要旨集によると、推進費関連の報告は P204 (1F-1102) の 1 件のみであった (●印)。

### セッション「未来のエネルギー問題を考える」

化学工学会の次世代エネルギー社会検討委員会の活動 (J116)、豊田市低炭素社会システム実証プロジェクト (J117)、再生可能エネルギーの導入拡大と大規模災害を踏まえた連系線整備に向けた ESCJ の活動 (J119)。

### セッション「環境」

#### CO<sub>2</sub> 分離回収用の吸収液：

2 級アミノアルコールの吸収特性 (P118)、シミュレーションによるアミン系吸収剤のエネルギー評価 (P119)、アミン吸収液の酸素劣化効果 (P202)。

#### 製鋼スラグ利用：

陰イオン交換体による水質浄化(P122)、藻場再生技術における有機物添加の影響 (P123)、●浅場造成への利用を志向した浚渫土添加による固化制御 (P204)。

#### 金属回収：

有機溶媒を用いた新たな貴金属回収プロセス (P206)、積層型多流路反応器による金属イオン連続多段抽出プロセス (P207)、燃料電池からの白金回収 (P214)。

#### リン回収：

MAP (リン酸マグネシウム) 担持竹炭を利用した畜産排水からのリン回収 (P218)、コンクリートスラッジ由来の脱リン材を用いた実下水からのリン回収 (P220)、バイポーラ膜を用いた土壌からのリン抽出プロセスの開発 (P221)、ホタテ貝殻によるアパタイト生成を利用したリン及びフッ素の同時除去挙動 (P222)。

#### リサイクル・回収：

塩基性廃棄物の炭酸塩鉱物化による地球温暖化対策技術・再資源化技術 (P124)、ジグリコールアミド酸型配位子を導入した吸着分離材による希土類元素の選択的分離・回収 (P213)、Li イオン電池の電極製造工程における有機溶剤の新規リサイクルプロセス (P215)。

除染：磁性メソポーラス炭素による放射性物質の吸着特性と除去 (P209)。

#### その他：

石灰焼成炉による廃プラスチック処理時の塩素挙動 (P121)、コンクリート廃棄物による中国劣化土壌改良効果 (P201)、重油とバイオディーゼル燃料の混焼発電における燃焼排ガスによる環境影響評価 (P203)、古紙由来の粘着物障害に対するフェノール樹脂の適用効果 (P208)、稲わらからのバイオエタノール生産プロセスに対する米糠添加の効果 (P217)、直流電場を利用した液中微粒子凝集技術 (P223)、高炉吹込み用使用済みプラスチック微粉化技術の開発 (P224)、Future Earth 時代の化学工学研究開発に必要な視座 (P216)。

### セッション「化学産業技術フォーラム」

国内エネルギー需給構造を踏まえた供給側技術オプションの調査 (J304)、同 (J305)、エネルギーシステムにおける中・長期的課題と論点 (J306)。

### ■ 特記事項(環境研究総合推進費の研究推進に関連する事項等)

環境政策または環境総合推進費に関連する研究発表は少なかった。

## 公開シンポジウム

### 「私たちの暮らしと森林・木材の放射能 ―森林総研が解き明かすその実態と今後―」

■ 日時・場所 平成25年7月18日(木) 木材会館(江東区)

■ 主催 (独)森林総合研究所

■ 出席PO 福山研二

#### ■ 概要

今回の公開シンポジウムは、森林総合研究所が実施している、東京電力福島第1原子力発電所からの放射能の森林や木材に与える影響についての調査報告とパネルディスカッションにより構成されていた。

報告概要は、以下のとおりである。

#### ○プログラム

「森林や木材における放射性物質研究の概要」(高橋正通)

「森林の放射性セシウム蓄積と分布の変化を探る」(金子真司)

「森林の渓流水の放射性セシウムをモニタリングする」(坪山良夫)

「森林にすむ生物内の放射性物質 ミミズとネズミの放射性セシウム濃度を中心に」(長谷川元洋)

「木材中の放射性セシウムの動きを追う」(高野 勉)

「栽培きのこの放射性セシウム吸収を抑制するために」(根田 仁)

「スギ花粉による放射性セシウムの拡散の可能性」(赤間亮夫)

#### パネルディスカッション

パネリスト：吉田 聡	(独)放射線医学総合研究所
山口紀子	(独)農業環境技術研究所
宗形芳明	福島県木材協同組合連合会
中村道人	林野庁研究指導技術開発推進室

#### <PO 所感>

森林に降った放射性セシウムなどは、当初主に葉や枝に存在していたが、時間の経過と共に土壤に移行し、渓流水には大雨の後などの出水時には懸濁物としてのみ流出する以外は溶存体の形ではほとんど出ていないことが報告された。材内のセシウムは、樹皮近くに多い一方で、心材部にもわずかながら浸透していることが分かり、材内での拡散による移動が示唆されていたことは興味深かった。

## 公開シンポジウム「気候変動のリスクを知る」～リスク情報の創り方～

■ 日時・場所 平成 25 年 9 月 25 日（水） 国際連合大学（渋谷区）

■ 主催 （独）海洋研究開発機構

■ 出席者 約 300 名

■ 出席 PO 笹野泰弘

### ■ 概要

文部科学省が平成 24 年度から実施している「気候変動リスク情報創生プログラム」は、4 つの領域テーマ（A：直面する地球環境変動の予測と診断、B：安定化目標値設定に資する気候変動予測、C：気候変動リスク情報の基盤技術開発、D：課題対応型の精密な影響評価）のもとに 9 件の領域課題が設定され、合計で 27 件のサブ課題が設けられている。今回は、A 領域から「近年の気候変化を『仕分け』する一温暖化研究の新たな展開」、将来予測に向けて過去をよく理解するための技術、C 領域から「ダウンスケールデータの影響評価研究への適用について」、「温暖化に伴いスーパー台風はどこまで強くなるか」、計 4 件の講演と質疑応答があった。

なお、4 件の講演に先立ち、文部科学省の担当審議官から開会の挨拶、本プログラムのプログラムディレクター住明正氏（文部科学省参与、（独）国立環境研究所理事長）からプログラムの全体像と本シンポジウムの構成についての説明があった。また、4 件の講演の後に木村富士男氏（文部科学省参与、（独）海洋研究開発機構プログラムディレクター）が講演総括を行った。講演毎の主な内容は以下の通り。

「近年の気候変化を『仕分け』する 一温暖化研究の新たな展開」

渡部雅浩・東京大学大気海洋研究所

地球温暖化は止まっていないこと、近年の地表の温暖化停滞傾向は自然の気候変動である太平洋十年規模変動と同期しており、やがては温暖化の加速期に戻ると予想されること、等が報告された。

「将来予測に向けて過去をよく理解するための技術」

石井正好・気象庁気象研究所

長期的な観測データの信頼性の評価を確保し大気海洋の 3 次元構造を推定するためのアプローチについて、過去の観測手法や観測データの整備・精査・シグナル検出の状況を紹介しつつ、最新のデータ取得手法、データ同化手法、国際的な取り組みについて報告された。

「ダウンスケールデータの影響評価研究への適用について」

高藪 出・気象庁気象研究所

今世紀末においては、東京の気候は例えば中国大陸の温州近辺の現在気候に近いものになること、大雨は現在よりも強いものになること、スーパーセルに伴う竜巻が発生する条件が整う頻度が春季・秋季に場所により現在の 2 倍程度になる可能性があること、等が報告された。

「温暖化に伴いスーパー台風はどこまで強くなるか」

坪木和久・名古屋大学地球水循環研究センター

現在気候・将来気候における台風の最大強度を精度よく推定することが可能となっていること、海面水温（海の貯熱量）が台風の強度を第一義的に決めていること、台風の強度は大気海洋相互作用の結果として決まること、等が報告された。

### <PO 所感>

プログラムは多数のサブ課題から構成されており、それらの成果をすべて報告することは現実的には不可能で、こうしたシンポジウムではトピックス的にならざるを得ないことは理解するが、それぞれのトピックスのプログラムの中での位置づけや他のサブ課題との関連性についての説明があれば、プログラムのシンポジウムとしてより相応しいものになったと考えられる。

## 公開講演会「技術イノベーションで広がる林業・木材産業」

■ 日時・場所 平成 25 年 10 月 9 日（水） イイノホール（千代田区）

■ 主催 （独）森林総合研究所

■ 出席 PO 福山研二

### ■ 概要

今回は、10月9日の講演会と10月10日の詳細なポスター発表によるオープンラボ形式で開催されたが、講演会のみに参加した。

報告概要は、以下のとおりである。

### ○プログラム

- |  |                          |
|--|--------------------------|
| 基調講演 I 「新段階の森林・林業再生政策とその論理」              | 岡田秀二（林政審議会会長、岩手大学教授）     |
| 成果報告 1 「林業再生に向けた新たな再造林技術のシステム化」          | 田中 浩                     |
| 基調講演 II 「自伐林業経営現場における最近の動向」              | 速水 亨（日本林業経営者協会顧問、速水林業代表） |
| 成果報告 2 「シカ対策技術のイノベーション」                  | 小泉 透                     |
| 成果報告 3 「森林吸収源対策に向けたエリートツリーの今後の活用について」    | 星 比呂志                    |
| 成果報告 4 「大規模建築物のための革新的木質構造材の開発と規格化」       | 渋沢龍也                     |
| 成果報告 5 「木質バイオマスの総合利用システムー収集から利用までの一気通貫ー」 | 木口 実                     |

### <PO 所感>

今回の発表で興味深かったことは、個別に行うとコストがかかるものでも、収穫と植え付けを同時に行ったり、収穫と加工を同時に行ったり、収穫から利用までの一貫したシステムを作ることにより、コスト削減につながり、森林バイオマスの利用を促進できる可能性が見えてきたことであった。特に、バイオマスでは、木質資源のほとんどはすでに再利用されているが、森林に残されている林地残材と呼ばれる資源だけがまったく利用されておらず、その潜在量は相当多いことが報告された。これらをいかに利用できるかが、課題としてあがっているわけであるが、森林の複合的な利用の中で、製材としての利用ばかりでなく、針葉からの製油の採取、枝葉や根元部分のバイオマスとしての利用など、多面的な利用を同時に考慮することにより、コストを大幅に削減できる可能性が示されていた。

## 公開セミナー：気候変動とエネルギー/持続可能な社会のための政策統合 「アジアにおける低炭素都市形成セミナー」

- 日時・場所 平成 25 年 10 月 22 日 (火) パシフィコ横浜会議センター (横浜)
- 主催 (公財)地球環境戦略研究機関、環境省
- 出席者 約 180 名
- 出席 PO 安田憲二

### ■ 概要

本セミナーは、環境省、地球環境戦略研究機関 (IGES) の主催により、アジア各国の都市や自治体の職員を招聘し、アジア地域が経済成長しながら生活レベルを向上させ、低炭素で循環型、自然共生社会を達成する“蛙飛び型”(リープフロッグ)の成長に向けて、国際的な都市間協力体制の構築、各自自治体における低炭素政策や経験の共有、我が国の優れた環境技術の紹介、二国間クレジット制度 (JCM) 案件形成事業や各種の支援制度について関係者間で共有することを目的として実施されている。

ここでは、3つの事例報告とパネルディスカッションが行われた。

### スラバヤ (インドネシア)・北九州市の都市連携について

スラバヤ市長であるトリ・リスマハリニ氏から、北九州市の協力のもとに行っている①低炭素および環境的に持続可能な都市計画、②SIER 工業団地へのスマートグリッド導入、③下水処理管理、④飲料水管理、⑤廃棄物管理 (コンポスト化) の実施状況と成果について報告があった。また、北九州市環境国際戦略室の木島直樹課長から、①スラバヤー北九州市の都市間連携の変遷、②スラバヤ市における環境国際協力の展開、③スラバヤ市との協力関係の構築、④二都市間連携による社会基盤づくりの支援、⑤グリーンシティのショールーム化の具体的な内容と成果について報告があった。

### ホーチミン (ベトナム)・大阪市の都市連携について

ホーチミン市気候変動局マネージャーであるヌエン・ツルン・ヴィエット博士から、大阪市の協力のもとに行っている①気候変動が水資源に及ぼす影響調査、②固体廃棄物管理 (廃棄物の分別・焼却炉における発電・埋立処分など)、③下水処理管理、④飲料水管理、⑤都市計画の実施状況と成果について報告があった。また、公益法人地球環境センター事業部の三原眞課長から、①ホーチミン市と大阪市のこれまでの協力関係、②両都市の部局横断型の連携体制の構築、③各分野の低炭素化事業の実現可能性調査、④低炭素都市マスタープランの方向性検討、⑤チーム大阪が目指すホーチミン市支援の方向について具体的な内容と成果の報告があった。

### イスカンダル (マレーシア) の多都市間連携について

イスカンダル市開発庁のボイド・デイオニシウス・ジョマン氏から、「健全で持続可能な国際都市づくり」として、①戦略的な環境政策、②2006~2025 年までの総合開発計画、③温室効果ガスの削減ポテンシャル、④低炭素都市政策パッケージ、⑤環境配慮型経済 (継続中)、⑥グリーンコミュニティ (継続中) の具体的な内容と成果について報告があった。

### アジア諸都市の現況報告とパネルディスカッション

横浜市立大学の井村秀文特任教授をモデレーターとして、アジア 5 か国 (マレーシア、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、カンボジア) の代表、世界資源研究所、JICA および環境省が参加して行われた。時間の関係で現状報告は各人 3 分間であり、その後にパネル間での質問を行い、時間が許す限り会場からの質問に回答した。

### <PO 所感>

報告者の数が多いこともあり、時間がタイトで議論が消化不良気味であった。特に、パネルディスカッションは 3 分間の現状報告であったため、現況の把握が不十分なところもあり、議論もあまり活発ではなかった。情報の共有や更なる都市間協力を深めるためには、議論に十分な時間をかけられるような日程調整が必要であると感じた。



## 6th International Symposium on Nanotechnology, Occupational and Environmental Health 第6回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム

■ 日時・場所 平成25年10月28日(月)～31日(木) 名古屋国際会議場(名古屋)

■ 主催 第6回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム日本委員会

■ 出席PO 小林隆弘

### ■ 概要

「第6回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム」が名古屋国際会議場で開催された(なお、10月29日のみ環境研究総合推進費研究成果発表会のため欠席)。ナノ材料の製造、物理・化学的性状、曝露評価、健康影響、動物や細胞を用いた毒性実験、吸収/分布/代謝/排泄、環境毒性、リスク評価、リスク管理、作業者の保護などについての口頭およびポスター発表、教育講演、招待講演、総会講演が行われた。

一般の口頭およびポスター発表に加え、9つの教育講演と3つの招待講演があり、ナノ粒子関連研究の現状と課題の紹介後、討議が行われた。また、以下の5つの総会講演があった。

1. Carbon Nanotubes Safe innovation and promise for the future (カーボンナノチューブ安全な技術革新と未来への約束)
2. Predicting hazards and risks of engineered nanomaterials (工業ナノ材料の有害性の予測とリスク)
3. Comparative risk assessment of airborne nanomaterials: Analyzing exposure-dose-response relationships (大気中ナノ材料の相対的リスク評価: 曝露-用量-反応関係の解析)
4. Occupational exposure-relevant nanotoxicology (職業曝露で妥当なナノ粒子の毒性)
5. Nanotoxicology a new discipline or a hype? (ナノ粒子の毒性学 新しい規制か誇大評価か)

さらに今後どのような情報交換や協力が必要かについて討議された。

### <PO 所感>

ナノ粒子は大きい粒子に比べ物理・化学的性状が大きく変わる為、その特異な性状を利用し、多方面で使われはじめている。このためナノ粒子にヒトや環境生物が曝露される機会が増えてきた。そのためリスクを評価し、リスクが大きいと予測されるならば対策管理が必要とされる。本シンポジウムは6回目になるが、知見が徐々に蓄積されてきた感がある。しかし未だ情報が不十分な状態にあるため、リスク評価や管理対策に必要な基盤情報に関わる地道な研究の推進が重要と考えられる。

## International Cooperative for Aerosol Prediction (ICAP)

### 5th working group meeting : Recent Progress in Aerosol Observability for Global Modeling

■ 日時・場所 平成 25 年 11 月 7 日 (木) つくば国際会議場 (つくば)

■ 主催 気象庁気象研究所、(独)宇宙航空研究開発機構

■ 出席者 約 50 名

■ 出席 PO 笹野泰弘

#### ■ 概要

本会合は、エアロゾル観測に関する諸問題を議論する国際的な場として、研究・現業の関係者によるワーキンググループが開催しているもので、今回で 5 回目を迎えた。会合は 11 月 5 日から 8 日まで開催されたが、業務の都合で、3 日目のセッションに参加した。なお、本会合は「Closed」であり、当 PO は専門家の一人として参加が許された。

当該セッションでは、主として衛星搭載センサーや地上観測ネットワークによる全球的なエアロゾル観測の話題が提供され、議論された。発表のタイトルおよび発表者は以下の通り。

1. Recent developments in CALIOP aerosol products (Winker, D)
2. Development of Earth CARE ATLID data retrieval algorithm and validation plan using ground-based lidar network (Sugimoto, N)
3. Developing commonality in ground based lidar products (Welton, J)
4. LANCE capabilities (Murphy, K)
5. Towards a consistent global fire emissions product (Hyer, E)
6. Overview of the WF\_ABBA Global Geostationary Fire Monitoring Program: Current Implementation and Future Plans (Prins, E)
7. Impact of Satellite Viewing Swath width on Global and Regional Aerosol Optical Thickness Statistics and Trends (Colarco, P)
8. Update on AERONET: significant developments on Version 3 processing, new NRT products, expansion and collaboration with SKYNET (Holben, B)
9. Development of aerosol algorithm for GCOM-C product (Sano, I)

話題の 1、2 は衛星搭載ライダーによる実測データの解析手法の改良、将来センサーデータの解析手法の開発に関するもので、話題の 3、8 は地上センサーによる観測ネットワーク、話題の 5、7、9 は衛星搭載の画像センサーの解析に関するもの、話題 4、6 はデータセンターと観測プログラムに関するものである。

#### <PO 所感>

エアロゾルの全球的な観測に関し、衛星利用、地上観測ネットワーク利用がそれぞれ近年、大きく進展している。その一方で、リモートセンシング特有の精度や確度の問題が依然として残されており、アルゴリズムの改良研究が引き続き行われているのが実態である。気候変動や越境大気汚染の問題を解明していく上で、大きな役割を果たすエアロゾルの全球モニタリング技術の発展の動向は、今後とも注視に値すると思われる。

## NIES Arsenic Workshop 2013((独)国立環境研究所 ヒ素ワークショップ 2013)

■ 日時・場所 平成 25 年 12 月 10 日 (火) (独)国立環境研究所 (つくば)

■ 出席 PO 小林隆弘

### ■ 概要

NIES Arsenic Workshop 2013 が(独)国立環境研究所で開催され、以下の7つのセッションにおいて、ヒ素の毒性や毒性の機構についての発表と、毒性学の視点からのヒ素の健康被害低減の方向性についての議論がなされた。

Session 1 Reports on studies of arsenic health hazards in Asian countries by Japanese research groups, PART 1 (日本の研究者グループによるアジア諸国におけるヒ素の健康被害の研究に関する報告 1)

Session 2 Reports on arsenic health hazards and toxicological studies from Asian countries (アジア諸国からのヒ素の健康被害と毒性研究に関する報告)

Session 3 Reports on studies of arsenic health hazards in Asian countries by Japanese research groups, PART 2 (日本の研究者グループによるアジア諸国におけるヒ素の健康被害の研究に関する報告 2)

Session 4 Experimental studies on arsenic at NIES: Cancer and mutagenesis (NIES でのヒ素に関する実験的研究 : 癌と突然変異)

Session 5 Arsenic concern in Japan (日本におけるヒ素の問題)

Session 6 Experimental studies on arsenic and other chemicals at NIES: Metabolism and neurotoxicity (NIES でのヒ素および他の化学物質に関する実験的研究 : 代謝と神経毒性)

Session 7 Free discussion (自由討論)

### <PO 所感>

アジアの国々 (バングラデッシュ、ミャンマー、中国、ベトナム) と日本のヒ素の毒性学や疫学関連の主な研究者によるこれまでに得られた知見の報告と議論が行われた。現状はヒ素に関する毒性学や疫学関連研究者のネットワークが構築されつつある段階と考えられる。安全な水供給が必要とされる住民や地域の広がり膨大であるため、被害軽減にむけた対策をどうするかについてアジアの国々の諸機関との協議や工学を含めた広い分野の協力が重要と思われる。

## 公開セミナー「国連気候変動枠組条約/COP19 及び CMP9 報告セミナー」

- 日時・場所 平成 26 年 1 月 9 日 (木) 全社協灘尾ホール (千代田区)
- 主催 (一財)地球産業文化研究所 (GISPRI)、(公財)地球環境戦略研究機関
- 出席者 約 230 名
- 出席 PO 安田憲二

### ■ 概要

平成 25 年 11 月 11 日～23 日にポーランドのワルシャワで開催された気候変動枠組条約第 19 回締約国会議 (COP19)、京都議定書第 9 回締約国会合 (CMP9)、「強化された行動のためのダーバン・プラットフォーム特別作業部会 (ADP2-3)」、補助機関会合 (SBI39、SBSTA39) に出席した外務省、経済産業相、環境省及び林野庁の担当者により、交渉の過程を含めた結果、今後の見通しなどについて報告があった。

### 外務省国際協力局気候変動課・吉田 綾

1992 年以降の気候変動交渉の現状、2010 年における世界の二酸化炭素排出量の比較のほか、気候変動交渉の主要な論点と COP21 (フランスのパリで開催予定) にむけた気候変動交渉のスケジュールについて報告があった。また、COP19 の主要な成果として、①すべての国に対して 2015 年 12 月の COP21 に十分先立ち、約束草案を示すことを招請すること、②気候変動の悪影響に関する損失・被害について「ワルシャワ国際メカニズム」を設立することが合意されたこと、などについても報告があった。

### 経済産業省産業技術環境局地球環境対策室長・田尻貴裕

技術交渉の現状、石炭火力発電所等に関する COP19/CMP9 における CDM の議論内容について報告があった。また、COP19 における日本政府の取組として 2020 年の削減目標を 2005 年比 3.8%減と報告したところ、これまでの日本政府の目標よりも削減率が大幅に減少したことから、会議に参加した国際 NGO から COP19 における化石賞を指名されたことなども紹介された。さらに、日本の 2020 年目標見直しに対する主要海外紙の論調について説明があった。

### 環境省地球環境局国際地球温暖化対策室長・新田 晃

締約国会議における交渉の流れと交渉国の構図、COP19 での適応議題全般について報告があった。また、成果として「ワルシャワ国際メカニズム」の設立、市場メカニズムと討議状況、先進国及び途上国の MRV の作業状況についても報告があった。さらに、IPCC 第 5 次評価報告書第 1 作業部会報告書の内容について説明があり、最終的な総合報告書は 2014 年 10 月に国連に提出されるとのことであった。

### 林野庁森林整備部森林利用課森林保全推進官・佐藤雄一

世界の森林減少に伴う CO2 排出量の増加と森林対策の実施による CO2 排出量削減に関するモニタリングについて報告があった。それに関連した補助機関会合 (SBI39、SBSTA39) では、国家森林モニタリングシステムのほか、セーフガードの情報提供の時期・頻度、ドライバー (森林減少・劣化の原因) への対処、森林参照 (排出) レベルの技術評価及び MRV(測定、報告、検証)について、COP19 で議論された内容も紹介された。

### ○質疑応答

報告内容について、フロアーからの質問票に対する各省担当者からの回答があった。質問内容は多岐にわたったが、特に我が国における 2020 年の削減目標が 2005 年比 3.8%減とこれまでの日本政府の目標よりも削減率が大幅に減少したことについて、削減率の妥当性、温暖化対策への影響、各国の反応等について多くの質問が寄せられた。また、質問が多かったこと、回答が難しいものが少なくなかったことなどから、予定された時間内にすべての質問票に対する回答はなされなかった。

### <PO 所感>

報告の内容は事前に調整されていなかったため、重複している部分が多かった。また、各省の担当者は初めて参加した人がほとんどであり、概要的な報告でもの足りなかった。特に質問が集中した日本の削減率については、原子力発電所が停止状態にあり、実現可能性から妥当であるとの説明が多かった。

## 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)

### 第2回総会の報告会

■ 日時・場所 平成26年1月30日(木) 東京国際フォーラム(千代田区)

■ 主催 環境省

■ 登壇者

武内和彦・齊藤 修(国際連合大学)

白山義久((独)海洋研究開発機構)

矢原徹一(九州大学)

奥田直久(環境省自然環境局生物多様性地球戦略企画室長)

■ 参加者 約100名

■ 出席PO 松岡正邦

#### ■ 概要

昨年12月にトルコの Antalya で開催された IPBES 第2回総会の参加者が、「当該分野に関連する分野の研究者」および「関心の高い方やステークホルダーに所属している方」を対象として、環境省が主催した報告会である。

開会挨拶として、自然環境局の星野局長から IPBES の設立および活動の背景の説明があった。

「IPBES を通じたグローバルから地域の課題化解決への貢献と日本の役割」(武内)

IPBES の役割と取組、特に科学コミュニティの関与および先住民・地域の知識体系の組み込み、について説明があった。

「IPBES へいかに貢献するか MEP の視点から」(白山)

IPBES の構造について、および同組織が作成した資料に沿って MEP (Multidisciplinary Expert Panel (学際的専門家パネル)) の活動の紹介があった。

「概念的枠組みとアセスメントに関する作業計画 2014-2018 についての議論」(矢原)

IPBES による人間社会と自然界についての概念的な枠組みのモデルの説明があった。同モデルは6つの主要素(自然・生命システム、生態系サービス・自然の恵み、人間の福祉・自然共生、人間の資産、駆動因、制度・統治などの間接因)間の相互作用を表す。また、環境改善の推進による森林回復の可能性の展望を紹介した。

「IPBES の概念枠組みと作業計画 2014-2018 (各論)」(齊藤)

IPBES の作業計画 2014-2018 における4つの目的のうちの、「科学と政策のインターフェースの能力と知識基盤の強化」と「活動、成果物と結果の伝達と評価」の2つの内容を具体的に説明した。また、IPBES における概念的枠組みの検討の変遷の紹介があった。

「IPBES の管理運営面での決定事項」(奥田)

IPBES の組織構造、予算、事務局構成、財務、作業計画実施のための専門家の公募、および環境省の取組について紹介した。

#### ○質疑応答(時間の関係で3件)

- ・先住民に関する日本の専門家はあるか?→生態系サービスの研究者が参画。
- ・専門家の旅費などの支援は無いのか?→省庁が検討、環境省は環境推進費を検討中。
- ・IPBES の日本版に相当するものは?→国内評価の作業でリンクを張りたい。

#### <PO 所感>

IPCC と同様に科学的な知識を集約して国際的な政策に反映させるためには環境省主導による取り組みが重要と思われる。



平成 25 年度環境省委託業務

平成 25 年度環境研究総合推進費  
研究管理・検討委託業務  
報告書

平成 26 年 3 月 31 日

受託者：一般社団法人 国際環境研究協会  
(〒110-0005 台東区上野 1-4-4)







この印刷物は、国等による環境物品等の調達に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。